

平成30年度

北
広
島

ふるさと夢プロジェクト

事業報告書



平成31年3月

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊

目 次

1.	はじめに	1
2.	平成30年度「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業 実施計画	2
3.	5年生「民泊体験」～北広島のよさを満喫しよう～	
	(1) 実施計画	4
	(2) 活動の様子	11
	(3) 児童アンケート結果	23
	(4) 児童作文	28
4.	6年生「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」	
	(1) 実施計画	59
	(2) 活動の様子	63
	(3) 講演会	66
	(4) 児童アンケート結果	77
	(5) 児童作文	85
5.	「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を振り返って	107
6.	おわりに	108

はじめに

北広島町では合併当時から人口減少するとともに、北広島町から都市部への流失が進んでいます。その結果、少子高齢化も加速化しています。人口減少や少子高齢化が進むことによって、経済規模の縮小や社会保障費の増大、過疎化による集落の維持などが危惧されています。

北広島町では平成29年に「第2次北広島町長期総合計画」を策定し、教育部門では「夢と希望、豊かな学び合いにあふれたまちづくり」を掲げ、基本的な方向性を「ふるさとに誇りを持ち、たくましく生きる子供・若者・大人の育成」としています。その具体的な方策の一つとして「北広島町ふるさと夢プロジェクト」を展開しています。

ふるさと夢プロジェクトでふるさと北広島町の先人や郷土の歴史、自然や伝統、産業を学ぶことに加え、地域の方々と積極的にともに体験、交流することで、ふるさと北広島町に誇りや愛着を持ち、新たな人材を育成するものと考えます。成果として少しずつではありますがふるさと北広島町に愛着を持って、将来北広島町に住みたいと考える子供達が増えています。

また、この事業を行うことで地域との希薄となった関係が改善されと考えます。事業実施の中で、人と人、人と地域、地域と学校がつなぐ仕組みづくりもでき始めています。地域ぐるみの活動や世代間交流を促し、子供から高齢者まで楽しく参加できる機会を増やすことにより子供と地域と学校の絆を強めるなど、それぞれの教育力の向上を図っていきたいと考えます。

北広島町の宝である子供達が、ふるさと北広島町に愛着や誇りを持ち、自身を持って、健やかに成長することは、北広島町全体の願いです。この事業を行うことで家庭、地域の教育力が向上し、学校を含めた3者が強い絆で結ばれることを願っています。

町民の皆様、地域の皆様の益々の御協力や御支援をよろしく申し上げます。

平成31年2月

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊
隊長 箕野 博司
(北広島町長)

平成30年度 北広島「ふるさと夢プロジェクト」実施計画

1 「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業の実施及び応援隊について

事業目的: 「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」

北広島町では少子高齢化が進み、将来の人口減に起因する町の活力低下が懸念されている。町では昨年度から箕野町長がすすめる若者定住を主要施策として、全町あげて定住対策に取り組むことにした。教育委員会では、「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」を目的とし、定住対策の関連事業として「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を実施する。

この事業は、北広島町で「こんなことができる、こんなものもできる」と思える魅力ある事業を行い、子供たちに町の魅力を再認識させ、将来「北広島町に住みたい、北広島町のために貢献したい」と思える子供の育成を図る。事業を通して全町で同じ学年が同一体験をすることで、町内には多くの友達がいることを認識させ、仲間意識の醸成や閉塞感の払拭につなげる。

事業主体 北広島町
主 管 北広島町教育委員会
組 織

町長を応援隊長とする。

副町長・教育長を副隊長とする。

隊員として、町長部局の総務課・企画課・商工観光課の職員、教育委員会の職員。

(本年度については、教育委員会事務局及び校長会が主体となって事業を行う。)

教育委員会事務局を事業事務局とする。また、学校現場から数名の校長及び教諭を隊員とする。

将来的には、地域が主体となる組織とする。

【応援隊】 ⇒未確認

役 職	氏 名	
隊長	箕野 博司 (町長)	
副隊長	中原 健 (副町長)	池田 庄策 (教育長)
隊員	畑田 正法 (総務課長)	砂田 寿紀 (企画課長)
	沼田 真路 (商工観光課長)	藤田 典生 (中学校代表)
	佐々木 昭典 (小学校代表)	教育委員会職員
事務局	石坪 隆雄 (事務局長)	西村 豊 (事務局次長)
	三宅 克江 (事務局員)	沖中 満春 (事務局員)
	落合 かるな (事務局員)	

2 具体的な事業と学校の取組について

5・6年年生で実施する2つの事業を、教育委員会と一緒に9小学校が分担して諸計画を作成し、中心となって企画・準備・運営をする。<◎-事業ごとの責任者>

■5年「町内宿泊体験学習(民泊)」

◎板倉(壬生小) ○神川(八重小) ○栗栖(八重東小) ○仲野校長(本地小)
 ○國本(芸北小)

<グループごとの責任校長 A-神川 B-栗栖 C-板倉>

<期日・グループ分け>

Aチーム	平成30年7月3日～平成30年7月6日
50名 5班	51名：八重小(23) 本地小(11) 豊平小(16)
Bチーム	平成30年7月10日～平成30年7月13日
41名 4班	42名：芸北小(15) 新庄小(7) 八重東小(19)
Cチーム	平成30年7月17日～平成30年7月20日
53名 5班	53名：大朝小(12) 川迫小(5) 壬生小(36)

<目的>

- 民泊の一つのプログラムとして、子供達が主体的に活動できるウォークラリー体験を通して、八幡地域の自然の豊かさ、地域の方々との触れ合いの楽しさを学ばせ、ふるさとの良さを実感させる。
- 町内の児童が協働してウォークラリー体験をすることで、必然的に課題解決する力や協働する力を養う。
- ウォークラリー体験等を通して、町内児童間の親睦を図る。

<主な活動>

- ・ 1日目－学校に宿泊（授業後に活動に入る）<夕食作り・星空の観察等>
- ・ 2日目－芸北文化ホール<開会行事・学校紹介・人間関係作り・民泊家庭対面式>
→ 民泊家庭<田舎暮らし体験>
- ・ 3日目－八幡地域ウォークラリー<クイズ・自然観察>
→ 民泊家庭<田舎暮らし体験>
- ・ 4日目－芸北大暮養魚場<アマゴつかみ・調理>
→ 芸北文化ホール<閉会式・民泊家庭お別れ式>

■ 6年「ロケット製作・発射」

◎佐々木（豊平小） ○寄実（新庄小） ○上本（川迫小） ○川上（大朝小）

<期日>

平成30年10月17日（水）

[参加児童]

	芸北小	大朝小	新庄小	川迫小	八重小	八重東小	壬生小	本地小	豊平小	計
男	2	4	10	1	10	10	13	5	7	62
女	8	7	6	4	14	13	13	2	13	80
計	10	11	16	5	24	23	26	7	20	142

<目的>

- 植松電機 植松社長の講演を通して、夢を持ち実現することのすばらしさを学ばせる。
- ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高めさせる。
- ロケット製作・発射の共同体験を通して、町内の児童間の親睦を図る。

<主な活動>

- ・植松電機 植松社長の講演を聞き、夢と感動のある生き方について考える。
- ・一人一基のロケットを製作し発射させる。
<日程(案)>○ 9:15～ 9:30 開会行事
○ 9:35～10:35 講演会
○10:45～11:50 ロケット作り（その後、記念撮影）
昼食
○12:50～13:50 ロケット発射
○13:50～14:00 閉会式 ※14:10 バスで各学校へ

※ 事業全体に関わる連絡調整（町教委・学校）・事務局担当（報告書作成を含む）<豊平小>

5年生

「民泊体験」～北広島のおさを満喫しよう～



北広島ふるさと夢プロジェクト事業〔5年生〕実施要項

「民泊体験」～北広島のよさを満喫しよう～

- 1 期 日 Aグループ 平成30年7月3日～平成30年7月6日
 Bグループ 平成30年7月10日～平成30年7月13日
 Cグループ 平成30年7月17日～平成30年7月20日

- 場 所 芸北文化ホール，八幡地区（本部：八幡高原センター），芸北大暮養魚場
 芸北・豊平地域民宿等
- 〔芸北文化ホール〕
 〒 731-2323 広島県山県郡北広島町川小田 75-54
 TEL 0826-35-0070
- 〔八幡高原センター〕
 〒 731-2322 広島県山県郡北広島町東八幡原 893
 TEL 0826-37-0055
- 〔芸北大暮養魚場〕
 〒 731-2204 広島県山県郡北広島町大暮 85-3
 TEL 0826-38-0734

2 目 的

- 町内の自然を生かした体験活動や民泊等の地域の方とのふれあいをとおしてふるさとの良さを実感させる
- 町内の同学年児童による自然の中での共同体験を通して，課題解決する力や協働する力を養う
- 養魚場でのつかみ取りやウォークラリー体験等を通して，調理体験・ウォークラリー等の活動を通して，町内児童間の親睦を図る。

3 対象児童 小学校5年生 H30.4.6現在

	Aグループ			Bグループ			Cグループ			計
	7月3日～6日			7月10日～13日			7月17日～20日			
	八重小	本地小	豊平小	芸北小	新庄小	八重東小	大朝小	川迫小	壬生小	
男子	13	10	6	6	2	10	5	2	18	72
女子	10	2	10	9	5	10	6	3	16	71
児童数	23	12	16	15	7	20	11	5	34	143
グループ 総児童数	5班 51 (男29・女22)			4班 42 (男18・女24)			5班 50 (男25・女25)			143

4 日程（民泊2泊を含む3泊4日間）※以降の流れ等は人数確定後修正する

（1）各学校より交流会会場への集合

【Aグループ：平成30年7月3日（火）～7月6日（金） 交流会会場：芸北文化ホール】

〔移動手段：大型バスー1台，小型バスー1台〕

- ① 本地小 [8:35] →八重小 [8:45] =大型バス（35+先生）
- ② 豊平小 [9:00] =小型バス（16+先生）

※ 9時45分に会場に到着できるように，グループ担当者がバス会社と協議して計画する。

【Bグループ：平成30年7月10日（火）～13日（金） 交流会会場：芸北文化ホール】

〔移動手段：中型バスー1台，小型バスー1台〕

- ① 芸北小 [9:20] =小型バス（15+先生）
- ② 八重東小 [8:25] →新庄小 [8:50] =中型バス（27+先生）

※ 9時45分に会場に到着できるように，グループ担当者がバス会社と協議して計画する。

【Cグループ：平成30年7月17日（火）～20日（金） 交流会会場：芸北文化ホール】

〔移動手段：大型バスー1台，小型バスー1台〕

- ① 川迫小 [8:35] →大朝小 [8:45] =小型バス（16+先生）
- ② 壬生小 [8:45] =大型バス（34+先生）

※ 9時45分に会場に到着できるように，グループ担当者がバス会社と協議して計画する。

(2) 2日目の流れ ※1日目の流れについては、各校で決めて周知する

時刻	内 容	備 考	事前準備および準備物 (担当者)
～ 9:45	到着, 荷物置き 指示 (小:)	各学校より開会式会場に到着。到着後、学校ごとに場所を決めて荷物を置く。	・置き場所確認・指示 (担任者会:)
9:45～ 10:00	準備・整列 指示 (小:)	学校ごとに整列する。	・並び順の確認・指示 (担任者会:)
10:00 ～ 10:20	児童交流開会式 進行 (小:)	【ABC: 芸北文化ホール】 ① 開会挨拶 (町長・教育長) ② 校長代表挨拶 (グループ代表校長) ③ 児童代表挨拶 (小:) ④ 各校の自己紹介 (各校2分以内) ⑤ 諸連絡 (小:)	・児童代表挨拶指導 (代表児童校) ・学校紹介準備練習 (各校担任)
10:30 ～ 11:30	人間関係づくり 進行 (小:)	引率者が指導して行う・・・ 事前に担任で連絡を取り合い内容を決めておく。 ○学校の枠をはずして仲良くなるようなプログラムを用意する ○3日間同じグループ (異なる学校で構成した10人程度) で活動するので、交流・活動を重点的に行う。	・内容決定および必要なものの準備 (担任者会) 写真担当 (小:) (小:)
11:30 ～ 12:00	グループミーティング 進行 (小:)	① 自己紹介① ② 3日目, 4日目の活動の見通しについて知る ③ ウォークラリーについて追加説明を聞き, 理解する。 ④ 班名決め	・ウォークラリーについての追加説明準備 (各校で事前学習をしておく!) (担任者会:) (担任者会:)
12:00 ～ 12:30	昼食 指示 (小:)	弁当ー活動班ごとに弁当を食べる。 ○人間関係の構築と休憩を兼ねる。 ○グループごとに相談しながら食べる。	・弁当 (観光協会) ※引率者分は別途申込 (個人負担あり)
14:00 ～ 14:30	グループミーティング 進行 (小:○○)	① 自己紹介: 自分の強みや弱みを伝え互いを理解する ② 班長決め ③ ウォークラリーについては, どんな係が必要か考える (時間係・盛り上げ係・ルート係・クイズ責任係・保健係等) ④ 係決め ⑤ ウォークラリールート決め ⑥ 作戦会議	・話し合いや作業に必要なものの準備 (担任者会) (町教委)
14:00 ～ 14:30	対面式 進行 (小:)	民泊のための受入家庭との対面式 1 開会 2 北広島町代表あいさつ (協議会会長または役場支所長等) 3 学校代表あいさつ (小:) 4 児童代表あいさつ (小:) 5 受け入れ家庭紹介 (観光協会) 6 協議会スタッフ紹介 (観光協会) 7 学校引率者紹介 8 受け入れ家庭とのお互いの自己紹介 ※児童は事前に準備しておいた自己紹介カードを手渡して自己紹介→握手・あいさつ 9 閉会	・受け入れ家庭のプラカード (各校で作成) ※作成基準別途提示 ・自己紹介カード (担任者会)

14:30	受入家庭へ移動開始 指示（小： ）	受入家庭の自家用車にて移動
	田舎暮らし体験	受入家庭にて活動
	入浴，食事作り	
	夕食	
21:30	就寝	民泊

(3) 3日目の流れ

時刻	内 容	備 考	事前準備および準備物 (担当者)
6:30	起床	受入家庭にて	
7:00	朝食	受入家庭にて	
8:30	移動	受入家庭の自家用車でバス停へ バスがバス停を巡回して児童を乗せる	
～9:10	到着，荷物置き， 指示（小： ）	バスで八幡高原センターに到着後，班ごとに場所を決めて 荷物を置く 。	・置き場所の確認・指示 (担任者会：)
9:10～ 10:00	整列 指示（小： ）	班ごとに整列する。 ① 健康観察 ② 全体への指導並びに安全指導・確認 ③ スタッフ及びボランティアの紹介 ④ 班ごとに確認及び作戦会議 ⑤ 持ち物のチェック	・並び順の確認 (担任者会：) ・ウォークラリーに必要な物品の準備 (担任会) (町教委)
10:00 ～ 13:00	ウォークラリーに出発進行（小： ） ※弁当を配布する時間 11:00 ～12:15	八幡高原センター出発：スタートは2グループに分け，5分程ずらす。 ○前日班ごとに話し合った内容をもとに各チェックポイントを目指し散策（6～7km程度） ○8箇所チェックポイントでは，そこへ行ったという証にデジカメで写真を撮る。 ○指定された場所（写真を見本に場所を探す）での写真撮影（3箇所程度） ○13時までに八幡高原センターへ帰る。 <u>チェックポイント案：</u> ① 霧ヶ谷湿原（説明有り） ② 高原の自然館（説明有り）・・・弁当の受け取り場所 ③ 山麓庵 ④ 牧野富太郎句碑（説明有り） ⑤ カキツバタの里 ⑥ 芸北アンデルセン百年農場のパン工場（旧八幡小学校） ⑦ 八幡高原センター ⑧ 二川（ふたごう）キャンプ場	昼食の手配 (担当：町教委)
13:00	八幡高原センターへゴール 確認（小： ）	・昼食を済ませ帰着。 ・体調の確認をする。	
13:00 ～ 13:30	クイズ大会 担当：白川学芸員	各班で協力してクイズを解く。	・クイズに必要な物品の準備（町教委）
13:30 ～ 14:00	ウォークラリー振り返り	各班で振り返りをする。 ・振り返りの視点を沿って振り返る。 ・班員相互で評価し合い，互いに感謝の気持ちを伝える。	・振り返りシートの準備 (担任会)
14:00	整列 指示（小： ）	持ち物の確認をさせる。 受入家庭ごとに整列する。	

14:20	受入家庭への移動開始	移動 バスでバス停へ移動し、受入家庭の迎えを待つ	先生たちは、評価の時間を取る。
15:20	田舎暮らし体験	受入家庭にて	
	入浴, 食事作り	受入家庭にて	
	夕食	受入家庭にて	
21:30	就寝	民泊	

(4) 4日目の流れ

時刻	内 容	備 考	事前準備および準備物 (担当者)
6:30	起床	受入家庭にて	
7:00	朝食	受入家庭にて	
9:00	移動	受入家庭の自家用車でバス停へ バスがバス停を巡回して児童を乗せる	
～9:45	到着, 荷物置き 指示 (小:)	バスで大暮養魚場に到着後, 班ごとに場所を決めて 荷物を置く。	・置き場所の確認・指示 (担任者会:)
9:45～ 10:00	整列 指示 (小:)	班ごとに整列する。	・並び順の確認 (担任者会:)
10:00 ～ 13:10	川魚つかみ取り体験進 行 (小:○○)	大暮養魚場において 1 開会 2 学校代表挨拶 (小:) 3 児童代表あいさつ (小:) 4 指導者よりあいさつ 5 着替え (水着等) 6 炭おこし 7 つかみ取り (1人2匹) 8 着替え (体操服) 9 養殖の説明・施設見学 10 アマゴ調理 (割箸を使ってはらわたを出す) 11 すみ火で焼く 12 昼食 (アマゴ2匹, おにぎり, 味噌汁) 13 片付け 14 学校代表挨拶 (小:) 15 児童代表あいさつ (小:) 16 指導者よりあいさつ 17 閉会 ※4～5班に分かれて活動する。 ※指示に従い, 各班で①炭おこし②つかみ取り③養殖施設の説明・施設見学に別れ, 入れ替わる。 ※魚を焼く囲炉裏は, 各班で1つ使用。(最大12人程度座れる広さあり) ※雨天の場合は, 屋根がついているところを利用する。	昼食の手配 (担当:町教委) 写真担当 (小:) (小:)
13:30	休憩・整列 指示 (小:)	持ち物の確認をさせる。 受入家庭ごとに整列する。	
13:30 ～ 14:00	閉会式会場への移動開 始	バスで閉会行事の芸北文化ホールへ 文化ホールの駐車場へ付き次第, バスの下に入れて ある大きな荷物を入れ直す。 ※各校へ帰校する際の荷物の搬出の時間短縮のため	※児童の大きな荷物は一度 バスの外へ運び出し, 帰りの ことを考えて, 入れ直す。
14:00 ～ 14:20	閉会式 進行 (小:)	【ABC:芸北文化ホール】 ① 閉会に当たっての観光協会からの振り返り映像 ② ウォークラリーでの各賞の発表・表彰	・芸北文化ホールには 必要な物のみを持って 入る。

		② 学校挨拶（ 小： ） ③ 児童代表挨拶（ 小： ） ③ 北広島町代表あいさつ	
14：20 ～ 14：50	お別れ式 進行（ 小： ）	※受入家庭と児童のお別れ式を行う 受け入れ家庭との個別のあいさつ	
14：55	各校へ出発	お別れ式後，バスで学校へ帰る。	
	帰校	各校で保護者へ迎え依頼の連絡（安心メール等）	担当を各校で決める

5 会場・準備物等

(1) 開会式・閉会式

【町教委】

○横看板

北広島ふるさと夢プロジェクト（小5）「民泊体験」
～北広島の自然を満喫しよう～

(2) 活動

【町教委】

○（ウォークラリー）説明用の資料（模造紙等）

- ①フィールド（八幡地域）の地図（チェックポイント・トイレポイント・協力してもらえる施設名や家の名前入り）
- ② ウォークラリーについての説明及び表彰の観点についての説明
- ③ 注意喚起するポスター各種（熊・蜂・かぶれの木・車・不審者等）
- ④ ウォークラリー時の約束
- ⑤ チェックポイント表（8箇所）＋シール貼付枠
- ⑥ 指定された場所での見本の写真（3箇所程度）
- ⑦ クイズ大会に関する物（問題及び解答シート）※問題は秘密，解答用紙は提示

○児童と引率者の携帯用の資料（ウォークラリーに使用する物）

- ・必要事項を印刷したグッズ一式（全てをラミネートしてリングで止める。これを1セットとして10（5＋5）セット作る）

- ①フィールド（八幡地域）の地図（チェックポイント・トイレポイント・協力してもらえる施設名や家の名前入り）
- ②ウォークラリーについての説明及び表彰の観点についての説明
- ③注意喚起するポスター各種（熊・蜂・かぶれの木・車・不審者等）の縮小版
- ④ウォークラリー時の約束の縮小版
- ⑤チェックポイント表（8箇所）＋シール貼付枠
- ⑥指定された場所での見本の写真（3箇所程度）
- ⑦クイズ大会に関する物（問題及び解答シート）※問題は秘密，解答用紙は提示

○賞状の印刷

- 無線機 ○AED ●八幡地域との連携 ●役場芸北支所・消防署・駐在所・病院との連携

【学校】※上記の町教委の①から⑦をデータで送信してもらい事前指導に活用する

- 音響装置（ハンドマイク）
- 児童の名札（ガムテープか養生テープに，マジックで大きくグループ名・学校名・名前を書いたものを体操服やビブ等に貼り付ける。）・・・3日分準備
- 先生の名札（ガムテープか養生テープに，マジックで大きく，グループ名・学校名・名前を書いたものを体操服等に貼り付ける。）・・・3日分準備
- 児童の保険証コピー
- 人間関係作りのゲームに使用するもの

- ・振り返りシート
- ・ボード
- ・デジカメ
- ・賞状
- ・ビブ（児童・教職員）グループ毎に色を決める
- ・簡易トイレグッズ（リュックに入れておく）レジャーシート（ウォークラリー途中でのトイレ用）、スコップ（小）、トイレトペーパー、汚物入れ用袋・各班用簡易救護バック（リュックに入れておく）
- ・本部に設置する救護用のもの

【児童・保護者】

〔服装〕：○体操服 ○赤白帽子着用 ○はき慣れた運動靴

〔持ち物〕

服装・着替え		日用品		その他
上着類 (3日分)	シャツ(夏でも長袖要・薄手)	洗面用具	歯ブラシ	リュックサック (弁当・水筒が入るサイズ)
	ズボン(くるぶしまで隠れるもの)		歯磨き粉	
	防寒		タオル	
下着類 (3日分)	シャツ	タオルケット・寝袋等 (1泊目用)		虫除けスプレー・ジェル 【※十分用意する】
	パンツ			虫さされ薬 【※体に合うもの、十分用意する】
長袖体操服(上下)半袖体操服か半袖Tシャツ(上)【ウォークラリー用】		ハンカチ(4日分)		熊よけ鈴(ある人) ない人は担任に事前に申し出る
長袖・長ズボン(薄手のもの・ジャージOK)【川魚つかみどり用】		ティッシュ(4日分)		
くつ下(4日分)		タオル(5~6枚)		敷物(ウォークラリー用)
帽子(赤白帽)		※川魚つかみどりやウォークラリーの時も使用する		体験活動のしおり
運動靴(履き慣れたもの)				ビニール袋(5枚) (着替え入れ・ごみ)
Tシャツ(水着の上に着用)		軍手(滑り止めのついていない木綿のもの1セット, 田舎暮らし体験, つかみ取り用)		筆記用具
濡れてもよい運動靴(川魚つかみどり用)		雨具 (両方)	カップ	常備薬 (必要に応じて)
長靴(農業体験等で使用)			折りたたみかさ	
寝間着(Tシャツ・ジャージ)		水筒 (ペットボトル不可・大きすぎないもの)		保険証(コピー)

※その他, 1泊目に必要なものがあれば, 各校で加える。

※出発時の服装については, 各グループで協議する。

(3) 昼食【町教委】

○2日目(人間関係づくりの日) 3日目(ウォークラリー)の弁当

○4日目(大暮養魚場で)の昼食

(4) 費用について

全体 19,688円

個人 6,500円

町 13,188円

学校泊補助 800円

6 報告書作成について

○実施後に, ねらいが達成できたか評価したり児童の思いを把握したりするために, アンケートを実施する。アンケート事前に各学校へ送付する。

○次の内容の報告書を作成する。

【内容】プロジェクトのねらい、実施計画

活動の内容・様子 <写真入りで、概要をまとめる>

児童の作文<各学校3人以上（川迫小・新庄小2名）－400字原稿用紙で5枚以内>
実施後のアンケート結果

7 役割分担及び安全管理・安全指導

計画策定委員会を中心に企画・準備

○外部関係機関（商工会・八幡地域・芸北支所・駐在所・消防署・病院）との渉外及び届出書
（町教委<落合・沖中>）

○バス会社と連携（観光協会）

○教育委員会届出（各学校） ○保護者通知（各学校） ○会計（町教育委員会）

○しおり（各グループ→各学校）

○全体会に関わって

◆全体会進行<各グループで相談>

◆開会式校長代表挨拶<各グループで相談>

◆閉会挨拶・謝辞<参加校長代表>

◆児童代表挨拶（閉会）<各グループで相談>

○報告書作成（豊平小－佐々木）

◆プロジェクトのねらい（豊平小）

◆活動の内容・様子－写真入り，A4で4枚程度にまとめる<各グループで担当を決めて>

◆記録用写真撮影<各グループで担当を決めて>

◆作文<各学校3人以上（川迫小・新庄小2名程度）>

学校ごとに指導して作成－作文をパソコン入力して，データを豊平小へ送付

◆実施後のアンケート結果は学校ごとに集計して，7月29日に（ ）へ送付

◆活動の様子，作文は，8月15日までに作成してデータを豊平小

◆夢プロだよりは豊平小担当

○安全についての指導（各グループ，各校で事前学習を行う）

・交通安全・生活安全（動物・植物等について，熱中症等）・災害安全（大雨・雷・洪水）

○ウォークラリーについての事前学習を丁寧に行う

○民泊についての総括（壬生小－板倉）

8 その他

○プロジェクトの趣旨を踏まえて，児童に目的意識を持って参加させるようにする。

○保護者案内は，提出日を目安に学校ごとに作成して配布する。

○特別な支援を必要とする児童，健康に留意する必要がある児童については，事前に保護者と連携
をしておくとともに，引率職員体制について配慮する。

提出する書類・事前学習や確認に活用する資料

【学校提出書類】

北広島町農山村体験申し込み・活動実施計画・緊急時関係者連絡網の作成・食事手配希望表

自己紹介カードの作成・健康カード・アレルギーアンケート・ホームページ掲載承諾書

受入家庭あて書類送付リスト・民泊割表・引率者の宿泊部屋割・しおり・プラカード

〔学校で作成・活用〕

体験の班分け表・提出書類チェック表・持ち物チェック表

「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」の活動の様子

【民泊体験活動 Aグループ】 (八重小・本地小・豊平小)

〈 第1日目 (7月3日) 〉

○学校泊は中止

1日目は、各校ごとに学校や公共施設で、みんなで夕食を作り、宿泊する計画でした。しかし台風7号と梅雨前線の影響で、午前中から大雨警報と土砂災害特別警報が発令されるなど、悪天候となり、学校や公共施設での宿泊等の計画を中止しました。

○防災教室

本地小学校では、「防災教室」として北広島町消防本部の方に来ていただき、広島で起きた土砂災害の様子や、自分達でもできる災害対策について教えていただきました。



最初に、平成26年8月20日に起きた「広島市豪雨土砂災害」について、八木地区の事例を紹介していただきました。土砂災害時や、土砂災害の危険性のある時の避難方法や、状況を説明してもらいながら、自分達にできることは何かを考える学習をすることができました。

【自分達に何ができるか】

また、災害時に対応するため、新聞紙でできるスリッパを実際に作ったり、けが人を運搬するために、毛布を使って担架を作ったりして、防災関係の体験することができました。

災害時に自分でできること、自分がどのように行動するか等、具体的に学習することができ、防災について、実践的な対応を身につけることができる大変貴重な防災教室となりました。



【災害の説明の様子】



【新聞紙スリッパ作製の様子】



【新聞スリッパを履いている様子】



【毛布担架作製の様子】



【作った担架で運搬している様子】

〈 第2日目 (7月4日) 〉

開会式・人間関係づくり・対面式

○開会式

民泊Aグループ（八重小・本地小・豊平小）児童51名が芸北文化ホールに集合し、開会式を行いました。

八重小学校の神川校長先生から「ふるさとの良さを実感する」「課題解決する力や協働する力をつける」「他の学校の人と仲良くなる」という三つの目標について話があり、みんなは活動への期待や意欲を高めていきました。

開会式の中での学校紹介では、各校の得意なことを、披露しました。



【開会式】

○人間関係作り（芸北文化ホール）

初めて出会う仲間たちと、三日間を協力して楽しく過ごせるように、ゲームを通した人間関係づくりを行いました。

初めて会った人とも楽しく
ゲームが出来たぞ！

レクリエーションで緊張がほぐれた様子。
だんだんと距離が近づいてきました。

これからの活動へ向けて、各班
で自己紹介や作戦をたてるぞ！



【班に分かれて作戦会議】

○対面式（芸北文化ホール）

昼食後の民泊家庭の方との対面式では、最初は少し緊張した様子で、自己紹介や挨拶をしていた子ども達ですが、民泊家庭の方の温かく優しい笑顔や言葉かけに安心し、次第に打ち解けてきました。

そして、民泊各家庭へと出発しました。

これからお世話になります！



【民泊家庭の皆さんとの対面式】

〈 第3日目（7月5日）〉

八幡ウォークラリー体験・田舎暮らし体験

○八幡ウォークラリー体験

この日も悪天候のため、予定通りウォークラリーを行うことができませんでした。しかし、旧八幡小学校の体育館に集まって、ウォークラリーの時に行う予定だったミッションに挑戦しました。班ごとに「森のくまさん」を歌ったり、しりとりをしたり、クイズを解いたりして楽しく活動し、班の友だちとの交流を深めることができました。



【ミッション遂行中】



【高原の自然館見学】

バスで八幡湿原に到着した時、ちょうど小雨になったので、トレッキングガイドの方に案内していただき、少しだけ湿原を歩くことができました。湿原に生えているめずらしい植物の名前や特徴を教えていただいたり、それらを再生・保全してこられた活動についてお話をうかがったりしました。

この学習で、北広島町のよさを、また一つ見つけることができました。

高原の自然館を見学しました。子どもたちは自然館の方の説明を聞きながら、展示してある生物や植物の写真などをじっくりと見ていました。特に、アカショウビンという野鳥に興味を持って、本物そっくりの展示物を観察したり、スピーカーから流れる鳴き声を聞いたりしていました。見学後におこなったクイズでも、アカショウビンのことをバッチリ答えることができました。



【八幡湿原の見学】

○民泊家庭での体験活動（田舎暮らし体験）

田舎暮らし体験では、民泊家庭ごとにジャガイモ掘りをしたり、放牧してある牛を見せてもらったりしました。広い場所に何頭もの牛が放牧されており、悠々と草を食べている様子を初めて見た子どもたちは、とても驚いていました。また、ジャガイモ掘りでは、1か所からたくさんのジャガイモが出てくることにびっくりし、ジャガイモでいっぱいになった一輪車を運ぶときには、みんなとても興奮した様子だったようです。そのジャガイモを使って、ポテトチップスを作る体験をさせていただきました。



じゃがいもがこんなに取れてびっくり！
何を作るか、楽しみだなあ！



玉ねぎの皮をむいたよ！
思ったよりもずいぶん量が多いぞ！
手作業だから、大変だな。



おいしい料理を作るぞ！
みんなでわいわい作るのって、楽しいなあ。

玉ねぎを収穫して皮むきもしました。思っていたよりたくさんの玉ねぎがあり、これだけの量を手作業で行うことの大変さを知りました。

しかし、民泊家庭の方といっしょに話をしながらの作業はとても楽しかったようです。収穫した野菜を使って夕食作りもしました。野菜を切ったり、卵を焼いたりしました。みんなといっしょにおこなったので、時間の過ぎるのがとても早く感じたようです。

それぞれの民泊家庭で、自分の家ではなかなかできないことをたくさん体験させていただきました。一人ひとりの活動を、民泊家庭の方々が温かく見守ってくださる様子に触れ、たくさんの「すてき」を感じることできた田舎暮らし体験でした。

〈 第4日目（7月6日）〉

閉会式・お別れ式

○閉会式・お別れ式

大雨警報の発令されている中でしたが、お世話になった民泊家庭から、芸北文化ホールに集合して、閉会式を行いました。

北広島町教育委員会の池田教育長より、大雨警報のため、町内の小中学校は臨時休校とすること、楽しみにしていたであろう4日目の体験を中止し、Aグループの活動を終わることをお話いただき、活動を終了しました。



4日目の活動計画を中止したため民泊家庭の皆さんと最後のお別れはできませんでした。

諸々の活動を支え、温かく子供達を見守ってくださった民泊家庭のみなさん。

**本当に、本当に
ありがとう
ございました！**



【民泊体験活動 Bグループ】 (芸北小・新庄小・八重東小)

〈 第1日目 (7月10日) 〉

○ 1日目は、各学校に宿泊。

	活動内容	活動の様子 (写真)
芸北小学校	<p>民泊体験学習の1日目は、地元芸北オークガーデンの草取りから始まりました。普段お世話になっている施設です。施設前の道路の草を取り、お礼にお風呂に入らせていただきました。働いた後に入った露天風呂からの景色は最高でした。</p> <p>夕食はカレーライスと野菜のサラダづくりをおこない、おいしくいただきました。そして、21時半の就寝まで学校紹介の練習をしました。2分間の制限時間の中で自分たちの伝えたいことを伝えようと、全員が団結し、その目標を達成し大きな充実感をもって1日目を終了しました。</p>	
新庄小学校	<p>16時一斉下校の後、民泊体験活動が始まりました。開会式と身の回りの整理整頓を済ませ、いよいよ夕食づくりです。メニューは、カレーライスと野菜サラダです。2つのグループに分かれ、役割や手順を考えて作りました。自分達で力を合わせて作った料理は最高に美味しく、みんなカレーライスのおかわりをしました。入浴は今年もグリーンヒル大朝です。温泉に入った気分でも気持ちよかったです。学校に帰り、体験活動初日のふり返りをしました。明日からの3校合同による活動日程や目標をみんなで確認し、意欲を高めました。その後ちょっぴり楽しいレクをして、なかよしホールで21時に就寝しました。</p>	
八重東小学校	<p>5年生以外の子ども達の一斉下校も終わり、いよいよ5年生の民泊体験学習が始まりました。まずは、夜ご飯のカレーライスとサラダ作りをしました。事前にカレーライスを家で作る練習をしてきた児童もいたようで、てきぱきと完成しました。さすが！どの班も協力しておいしい夜ご飯ができました。</p> <p>その後は、レクをみんなで楽しんだり、シャワーを浴びたり、1日の振り返りをしたりして過ごしました。明日からはいよいよ3校合同での民泊体験が始まります。活動内容や学校での目標を確認しました。少し緊張して眠れるか心配だったようですが、夜の22時ごろには、みんなぐっすりと眠ることができたようです。</p>	

〈 第2日目 (7月11日) 〉

開会式・人間関係作り・対面式

○開会式

民泊Bグループ(芸北小・新庄小・八重東小)の児童42名が芸北文化ホールに集合し、開会式を行いました。少し緊張気味の中、学校紹介を行いました。どの小学校も自分達の学校の自慢を堂々と発表することができました。

また、八重東小学校の栗栖校長先生から「ふるさとの良さを実感しよう」「課題解決する力や協働する力をつけよう」「他の学校の人と仲良くなろう」の3つの目標を聞き活動への期待や意欲を高めました。

○人間関係作り

他校の友達とも今日から3日間一緒に行動するにあたり、「団結力を高めよう！」ということで、人間関係作りが始まりました。

最初は「じゃんけん」です。普通のじゃんけんから、「後出しじゃんけん」「負けたら勝ちじゃんけん」などをして、少し緊張していた雰囲気が解け始めました。次は、「フラフープくぐり」です。活動班全員で手をつないでフラフープを1周させます。思うようにフラフープが動かさない子を手伝うなど、班の中で協力する姿が見え始めました。最後は、「シート列車」です。シートの上に班全員が乗って、誰一人落ちることなくシートをゴール地点まで移動させます。この時には班の中から「がんばれ!」「もう少し!」という声が自然と出てくるようになりました。初めて会った友達ともあっという間に話ができるようになっていました。

その後は、班ごとに班名を決めたり次の日のウォークラリーに向けて話し合いをしたりしました。素敵な笑顔がたくさん見られる人間関係作りとなりました。



○対面式

活動班ごとに昼食をとった後、いよいよ民泊家庭の方々と対面式です。Bグループは、芸北・豊平地域の民泊家庭の方と顔を合わせました。

最初は少し緊張した様子で自己紹介や挨拶をしていた子ども達ですが、民泊家庭の方の温かく優しい笑顔や言葉かけに安心したり、これからどんな活動と一緒にして下さるのか説明をして下さったことで期待に胸を膨らませることができ、元気よくそれぞれの民泊先へ向かいました。



〈 第3日目（7月12日）〉

○八幡ウォークラリー体験

透き通った青空の下、3日目の活動である八幡ウォークラリーが始まりました。2日目の人間関係作りの中で、この日使う地図やミッションの内容を参考にしながら通る道や必要な係を話し合い、この日の活動に臨みました。八幡高原センターに集合して、開会行事を行い、いざ出発です。

ところがこの日は朝から気温がぐんぐん上昇し、前日までの疲れもありみんな元気がない顔です。それでも、チェックポイントで写真撮影をしたり、ミッションを通して班のメンバーがそれぞれの知恵を出したりする中で、徐々に「頑張ろう!」「次はあそこにしようや!」と元気な声が響いてきました。

この日のお弁当は、自分たちで高原の自然館横の山麓庵まで歩いて取りに行くというミッションをクリアしなければ食べられません。やっとの思いで手に入れたお弁当は、いつも以上においしくて、自然と笑顔になっていました。

多い班で7km以上を歩くこのウォークラリー。全グループが到着したときには、全員ヘトヘトでしたが、仲間とミッションをクリアする中でできた温かい空気と、その達成感に溢れていました。ミッション以上に得るものが大きい活動になりました。

○田舎暮らし体験

田舎暮らし体験では、農作業をさせていただいたり、魚釣りをしたりと民泊家庭ごとに様々な体験をさせていただきました。中でも印象的だったのは、釜を使った炊飯体験でした。屋外に設置したかまどで薪を燃やし、その熱で米を炊く様子は、普段、家の中で米を炊いている様子とまったく違い、驚きの連続です。釜とふたの間から出てくる米の炊き汁から漂う香りは、炊飯器から出てくる香りは一味も二味も違い、普段よりも食欲をそそられたようです。「なぜこんな汁が出てくるのかな?」と子どもたちは疑問をもち、学校に帰って調べてみたいと語っていました。

田舎に住みながらも、なかなか体験できない田舎暮らしの体験。そして、その中で感じる民泊家庭の方の温かい言葉や心遣いを感じ、改めて北広島町の良さを実感することができました。

八幡ウォークラリー・田舎暮らし体験



○川魚つかみ取り体験

大暮養魚場に集合し、アマゴのつかみ取り体験に臨みました。つかみ取りの体験をする前に、養魚場の方から命の大切さについてのお話を聞きました。魚をつかまえて食べるということは、生きている命をいただくことであると教えていただきました。子供達一人一人の心に強く残ったお話でした。

そして、いよいよつかみ取りです。「取ったよー。」「ほら、あそこにおるよ。」「やったー、つかまえた。」などと、あちらこちらから歓声が聞こえてきました。中には何匹もアマゴをつかまえた子供もいました。

その後活動班に分かれて、あらかじめおこしておいた火でアマゴを焼き、そして各自が2匹ずつ食べました。「おいしいね。」「頭から食べられるよ。」と新しくできた友達と声をかけあいながら食べました。味は最高においしかったです。



○お別れ式

楽しかった体験活動はあっという間に過ぎ、お世話になった民泊家庭の方々ともいよいよお別れの時です。わずか2泊という限られた時間の中での生活体験でしたが、子供達は民泊先の方々の温かい心に触れ、充実した2日間を過ごすことができました。

お別れ式で民泊家庭の方がホールに入って来られると、子供達はとてもいい表情を見せました。そして最後の対面です。自然と笑顔があふれて握手を求める子、別れるのがつらくて涙ぐむ子、一緒に写真を撮ってもらう子などあり、感動的な光景でした。

ふだんの生活では体験できないことをたくさんさせていただいた貴重な日々。家族のように接していただき、本当に思い出の多い2泊3日になりました。

お世話になった民泊家庭のみなさん、ありがとうございました。

3泊4日にわたって行われた「民泊体験」。初めて訪れた土地で民泊家庭の方や仲間と過ごし、協力することの大切さを学びました。また、豊かな自然の中で同学年の友達と出会い、友達の輪を広げる喜びを感じることができました。

多くの活動を支え、温かく子供たちを見守ってくださった民泊家庭のみなさん。本当にありがとうございました！



【民泊体験活動 Cグループ】 (大朝小・川迫小・壬生小)

〈 第1日 (7月17日) 〉

○ 1日目は、各学校に宿泊。

	活動内容	活動の様子 (写真)
大朝小学校	<p>午後1時50分から、北広島町消防署の方を招いて防災教室を大朝小学校図書室で行いました。西日本豪雨災害のことや災害被害を少なくする取組、怪我の手当て等を学びました。</p> <p>午後3時より、大塚ふれあいセンターへ移動し、カレーライス作りをしました。班で協力し、おいしいカレーができました。</p> <p>午後6時半より、大朝 B&G 海洋センターで水泳を楽しみ、シャワーを浴びて大塚ふれあいセンターへ戻りました。</p> <p>その夜は、一日の振り返りの後、次の日からの活動に備えて、午後9時に就寝しました。</p> <p>みんなとてもがんばったのでぐっすり寝ました。</p>	
川迫小学校	<p>午前中に夕食と朝食の材料の買出しに行きました。午後からは北広島町消防署の方に来て頂き、心肺蘇生法の講習を行いました。夕方、いよいよ3泊4日の体験活動が始まりました。</p> <p>早速、夕食のカレー作りに取り組みました。5人で協力しながら、カレーとサラダができました。中庭のテーブルをみんなで囲んで美味しく頂きました。夜は、エアコンのある保健室と職員室に男女で分かれてぐっすり眠りました。</p> <p>翌朝みんな元気に起きて、体操をして美味しく朝ごはんを食べました。</p>	
壬生小学校	<p>午後4時、他の学年が下校し、5年生だけの民泊体験のスタートです。はじめに、家庭科室で夏野菜カレーを作りました。班の中での自分の役割を考えて動きました。ちょうど出来上がったころ、家庭科室からとてもきれいな夕日が見えました。「みんなと一緒に見れて良かった。」と、心に残る景色でした。</p> <p>午後5時40分、作った夏野菜カレーを食べました。「家で食べる味とはちょっと違う。」と、もりもり食べました。</p> <p>午後7時、いざ星空観察!...と思ったのですが、曇っていたため、線香花火を楽しみました。</p> <p>午後8時、班でキャンドルを囲みながら、1日目の振り返りをしました。班で協力するよさを実感するとともに、翌日からの活動に期待を寄せる子供達でした。</p> <p>午後9時、パソコン教室と図書室に男女別に泊まりました。同級生と一緒に寝た初めての夜は、忘れられない思い出です。</p>	

〈第2日目（7月18日）〉

開会式・人間関係作り・対面式

○開会式・人間関係作り

18日（水）朝、壬生小学校・大朝小学校・川迫小学校の3校が、バスで芸北文化ホールに合流しました。到着後すぐに開会式をし、各校の学校紹介をしました。



北広島町と友だちのよさをみつけましょう。

開会式後は人間関係づくりをしました。バースデーラインやじゃんけん列車、人間知恵の輪をしました。

初めは同じ学校の児童との交流が多かったのですが、楽しい活動にだんだんと緊張がほぐれ、最後には笑顔で生活班の円を作ることができました。



人間関係づくりの後、生活班でグループミーティングをしました。自己紹介をし、自分の呼び名と班長を決めました。そして、翌日のウォークラリーの役割も決めました。

あだ名で呼び合いながら、「昨日は学校で何したの。」「得意なこと何。」「民泊はどんなことができるかな。」と、お互いのことやこれからの活動についても話しました。



仲良く活動できそうだ。

○対面式



自己紹介カード、たくさん見てもらいました。

その後、民泊家庭の方との対面式をしました。準備してきた自己紹介カードを見てもらい、自己紹介とあいさつをしました。「大丈夫かな。」と、ドキドキしていた児童も、民泊家庭の方のあたたかい手と笑顔に励まされ、にこにこ車に乗っていきました。



楽しみに待っていてくださいました。



民泊がんばるぞ。行ってきます！

○ウォークラリー

猛暑が続いた今年の夏！予定していたウォークラリーからバスで移動するバスラリーに変更して
行う事になりました！

グループで協力しながら楽しく
行う事ができました。

それぞれの民泊家庭か
ら芸北高原センターへ
集合！



バスで移動し、
まずは、カキツバタの
里で、情報収集！



191スキー場
を背後に見なが
ら八幡高原を散
策しています！



偉大な植物学者
牧野富太郎博士の
句碑の立つ場所
で学習しました！



芸北高原の自然館では、
館内の説明を聞いたり、
展示を鑑賞したりなが
ら情報をたくさん集める
事ができました！



八幡高原センターに帰ってきて、
まとめのクイズに挑戦です。
みんなで相談しながら楽しく
考えました！



霧ヶ谷湿原では、湿原の保護に
ついてトレッキングガイドの方
から話を聞きました！



○川魚つかみ取り体験（大暮養魚場）

3日目は芸北の大暮養魚場へ集合し、養殖の学習や炭おこし、アマゴのつかみ取り、アマゴ調理を通して、命の学習を行いました。

到着してあいさつした後、1～3班が養殖の説明をしていただき、4・5班が命の学習をした後で

炭火おこしを行いました。自分たちの命が先祖から繋がれていること、私たちは、生きていくために魚や野菜の命をいただいていることを学びました。



アマゴの生態や養殖について説明をしていただきました。アマゴとヤマメの違いやレモンサーモンの養殖などについて教えていただきました。炭火おこしは、班毎に試行錯誤し、何とか火がつかしました。

アマゴのつかみ取りは全員でした。はじめは、捕まえることができなかった子どもも次第に慣れてきて、歓声に包まれました。



割り箸を使ってアマゴ内臓を取り出します。竹串に刺したアマゴは、炭火で焼きました。おにぎりとお味噌汁もとてもおいしかったです。



この日の学習では、体験だけではなく、生き物の命をいただいて生きている我々の心の在り方について「命の勉強」をすることができました。大暮養魚場での体験活動は、貴重な学びとなりました。

○閉会式・お別れ式（芸北文化ホール）

芸北文化ホールに移動し、3泊4日にわたる民泊体験活動の閉会式を行いました。お世話になった民泊家庭の方とお別れ式をしました。みんなで心をこめてお礼の気持ちを伝えました。「また、泊まりたいです。」「楽しかったです。ありがとうございました。」そんな言葉が笑顔とともに会場を包みました。

大朝小学校、壬生小学校、川迫小学校、3校の児童一人ひとりが貴重な思い出を作り、民泊活動を終わりました。



「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」の活動の様子

【民泊体験活動 Aグループ】 (八重小・本地小・豊平小)

〈 第1日目 (7月3日) 〉

○学校泊は中止

1日目は、各校ごとに学校や公共施設で、みんなで夕食を作り、宿泊する計画でした。しかし台風7号と梅雨前線の影響で、午前中から大雨警報と土砂災害特別警報が発令されるなど、悪天候となり、学校や公共施設での宿泊等の計画を中止しました。

○防災教室

本地小学校では、「防災教室」として北広島町消防本部の方に来ていただき、広島で起きた土砂災害の様子や、自分達でもできる災害対策について教えていただきました。



最初に、平成26年8月20日に起きた「広島市豪雨土砂災害」について、八木地区の事例を紹介していただきました。土砂災害時や、土砂災害の危険性のある時の避難方法や、状況を説明してもらいながら、自分達にできることは何かを考える学習をすることができました。



【災害の説明の様子】

【自分達に何ができるか】

また、災害時に対応するため、新聞紙でできるスリッパを実際に作ったり、けが人を運搬するために、毛布を使って担架を作ったりして、防災関係の体験することができました。

災害時に自分でできること、自分がどのように行動するか等、具体的に学習することができ、防災について、実践的な対応を身につけることができる大変貴重な防災教室となりました。



【新聞紙スリッパ作製の様子】



【新聞スリッパを履いている様子】



【毛布担架作製の様子】



【作った担架で運搬している様子】

〈 第2日目 (7月4日) 〉

開会式・人間関係づくり・対面式

○開会式

民泊Aグループ（八重小・本地小・豊平小）児童51名が芸北文化ホールに集合し、開会式を行いました。

八重小学校の神川校長先生から「ふるさとの良さを実感する」「課題解決する力や協働する力をつける」「他の学校の人と仲良くなる」という三つの目標について話があり、みんなは活動への期待や意欲を高めていきました。

開会式の中での学校紹介では、各校の得意なことを、披露しました。



【開会式】

○人間関係作り（芸北文化ホール）

初めて出会う仲間たちと、三日間を協力して楽しく過ごせるように、ゲームを通した人間関係づくりを行いました。

初めて会った人とも楽しく
ゲームが出来たぞ！

レクリエーションで緊張がほぐれた様子。
だんだんと距離が近づいてきました。

これからの活動へ向けて、各班
で自己紹介や作戦をたてるぞ！



【班に分かれて作戦会議】

○対面式（芸北文化ホール）

昼食後の民泊家庭の方との対面式では、最初は少し緊張した様子で、自己紹介や挨拶をしていた子ども達ですが、民泊家庭の方の温かく優しい笑顔や言葉かけに安心し、次第に打ち解けてきました。

そして、民泊各家庭へと出発しました。

これからお世話になります！



【民泊家庭の皆さんとの対面式】

〈 第3日目（7月5日）〉

八幡ウォークラリー体験・田舎暮らし体験

○八幡ウォークラリー体験

この日も悪天候のため、予定通りウォークラリーを行うことができませんでした。しかし、旧八幡小学校の体育館に集まって、ウォークラリーの時に行う予定だったミッションに挑戦しました。班ごとに「森のくまさん」を歌ったり、しりとりをしたり、クイズを解いたりして楽しく活動し、班の友だちとの交流を深めることができました。



【ミッション遂行中】



【高原の自然館見学】

高原の自然館を見学しました。子どもたちは自然館の方の説明を聞きながら、展示してある生物や植物の写真などをじっくりと見ていました。特に、アカショウビンという野鳥に興味を持って、本物そっくりの展示物を観察したり、スピーカーから流れる鳴き声を聞いたりしていました。見学後におこなったクイズでも、アカショウビンのことをバッチリ答えることができました。

バスで八幡湿原に到着した時、ちょうど小雨になったので、トレッキングガイドの方に案内していただき、少しだけ湿原を歩くことができました。湿原に生えているめずらしい植物の名前や特徴を教えていただいたり、それらを再生・保全してこられた活動についてお話をうかがったりしました。

この学習で、北広島町のよさを、また一つ見つけることができました。



【八幡湿原の見学】

○民泊家庭での体験活動（田舎暮らし体験）

田舎暮らし体験では、民泊家庭ごとにジャガイモ掘りをしたり、放牧してある牛を見せてもらったりしました。広い場所に何頭もの牛が放牧されており、悠々と草を食べている様子を初めて見た子どもたちは、とても驚いていました。また、ジャガイモ掘りでは、1か所からたくさんのジャガイモが出てくることにびっくりし、ジャガイモでいっぱいになった一輪車を運ぶときには、みんなとても興奮した様子だったようです。そのジャガイモを使って、ポテトチップスを作る体験をさせていただきました。



じゃがいもがこんなに取れてびっくり！
何を作るか、楽しみだなあ！



玉ねぎの皮をむいたよ！
思ったよりもずいぶん量が多いぞ！
手作業だから、大変だな。



おいしい料理を作るぞ！
みんなでわいわい作るのって、楽しいなあ。

玉ねぎを収穫して皮むきもしました。思っていたよりたくさんの玉ねぎがあり、これだけの量を手作業で行うことの大変さを知りました。

しかし、民泊家庭の方といっしょに話をしながらの作業はとても楽しかったようです。収穫した野菜を使って夕食作りもしました。野菜を切ったり、卵を焼いたりしました。みんなといっしょにおこなったので、時間の過ぎるのがとても早く感じたようです。

それぞれの民泊家庭で、自分の家ではなかなかできないことをたくさん体験させていただきました。一人ひとりの活動を、民泊家庭の方々が温かく見守ってくださる様子に触れ、たくさんの「すてき」を感じることできた田舎暮らし体験でした。

〈 第4日目 (7月6日) 〉

閉会式・お別れ式

○閉会式・お別れ式

大雨警報の発令されている中でしたが、お世話になった民泊家庭から、芸北文化ホールに集合して、閉会式を行いました。

北広島町教育委員会の池田教育長より、大雨警報のため、町内の小中学校は臨時休校とすること、楽しみにしていたであろう4日目の体験を中止し、Aグループの活動を終わることをお話いただき、活動を終了しました。



4日目の活動計画を中止したため民泊家庭の皆さんと最後のお別れはできませんでした。

諸々の活動を支え、温かく子供達を見守ってくださった民泊家庭のみなさん。

**本当に、本当に
ありがとう
ございました！**



【民泊体験活動 Bグループ】 (芸北小・新庄小・八重東小)

〈 第1日目 (7月10日) 〉

○ 1日目は、各学校に宿泊。

	活動内容	活動の様子 (写真)
芸北小学校	<p>民泊体験学習の1日目は、地元芸北オークガーデンの草取りから始まりました。普段お世話になっている施設です。施設前の道路の草を取り、お礼にお風呂に入らせていただきました。働いた後に入った露天風呂からの景色は最高でした。</p> <p>夕食はカレーライスと野菜のサラダづくりをおこない、おいしくいただきました。そして、21時半の就寝まで学校紹介の練習をしました。2分間の制限時間の中で自分たちの伝えたいことを伝えようと、全員が団結し、その目標を達成し大きな充実感をもって1日目を終了しました。</p>	
新庄小学校	<p>16時一斉下校の後、民泊体験活動が始まりました。開会式と身の回りの整理整頓を済ませ、いよいよ夕食づくりです。メニューは、カレーライスと野菜サラダです。2つのグループに分かれ、役割や手順を考えて作りました。自分達で力を合わせて作った料理は最高においしく、みんなカレーライスのおかわりをしました。入浴は今年もグリーンヒル大朝です。温泉に入った気分でも気持ちよかったです。学校に帰り、体験活動初日のふり返りをしました。明日からの3校合同による活動日程や目標をみんなで確認し、意欲を高めました。その後ちょっぴり楽しいレクをして、なかよしホールで21時に就寝しました。</p>	
八重東小学校	<p>5年生以外の子ども達の一斉下校も終わり、いよいよ5年生の民泊体験学習が始まりました。まずは、夜ご飯のカレーライスとサラダ作りをしました。事前にカレーライスを家で作る練習をしてきた児童もいたようで、てきぱきと完成しました。さすが！どの班も協力しておいしい夜ご飯ができました。</p> <p>その後は、レクをみんなで楽しんだり、シャワーを浴びたり、1日の振り返りをしたりして過ごしました。明日からはいよいよ3校合同での民泊体験が始まります。活動内容や学校での目標を確認しました。少し緊張して眠れるか心配だったようですが、夜の22時ごろには、みんなぐっすりと眠ることができたようです。</p>	

〈 第2日目 (7月11日) 〉

開会式・人間関係作り・対面式

○開会式

民泊Bグループ(芸北小・新庄小・八重東小)の児童42名が芸北文化ホールに集合し、開会式を行いました。少し緊張気味の中、学校紹介を行いました。どの小学校も自分達の学校の自慢を堂々と発表することができました。

また、八重東小学校の栗栖校長先生から「ふるさとの良さを実感しよう」「課題解決する力や協働する力をつけよう」「他の学校の人と仲良くなろう」の3つの目標を聞き活動への期待や意欲を高めました。

○人間関係作り

他校の友達とも今日から3日間一緒に行動するにあたり、「団結力を高めよう!」ということで、人間関係作りが始まりました。

最初は「じゃんけん」です。普通のじゃんけんから、「後出しじゃんけん」「負けたら勝ちじゃんけん」などをして、少し緊張していた雰囲気が解け始めました。次は、「フラフープくぐり」です。活動班全員で手をつないでフラフープを1周させます。思うようにフラフープが動かさない子を手伝うなど、班の中で協力する姿が見え始めました。最後は、「シート列車」です。シートの上に班全員が乗って、誰一人落ちることなくシートをゴール地点まで移動させます。この時には班の中から「がんばれ!」「もう少し!」という声が自然と出てくるようになりました。初めて会った友達ともあっという間に話ができるようになっていました。

その後は、班ごとに班名を決めたり次の日のウォークラリーに向けて話し合いをしたりしました。素敵な笑顔がたくさん見られる人間関係作りとなりました。



○対面式

活動班ごとに昼食をとった後、いよいよ民泊家庭の方々と対面式です。Bグループは、芸北・豊平地域の民泊家庭の方と顔を合わせました。

最初は少し緊張した様子で自己紹介や挨拶をしていた子ども達ですが、民泊家庭の方の温かく優しい笑顔や言葉かけに安心したり、これからどんな活動と一緒にしてくださるのか説明をしてくださったことで期待に胸を膨らませることができ、元気よくそれぞれの民泊先へ向かいました。



〈 第3日目 (7月12日) 〉

○八幡ウォークラリー体験

透き通った青空の下、3日目の活動である八幡ウォークラリーが始まりました。2日目の人間関係作りの中で、この日使う地図やミッションの内容を参考にしながら通る道や必要な係を話し合い、この日の活動に臨みました。八幡高原センターに集合して、開会行事を行い、いざ出発です。

ところがこの日は朝から気温がぐんぐん上昇し、前日までの疲れもありみんな元気のない顔です。それでも、チェックポイントで写真撮影をしたり、ミッションを通して班のメンバーがそれぞれの知恵を出したりする中で、徐々に「頑張ろう!」「次はあそこにしようや!」と元気な声が響いてきました。

この日のお弁当は、自分たちで高原の自然館横の山麓庵まで歩いて取りに行くというミッションをクリアしなければ食べられません。やっとの思いで手に入れたお弁当は、いつも以上においしくて、自然と笑顔になっていました。

多い班で7km以上を歩くこのウォークラリー。全グループが到着したときには、全員ヘトヘトでしたが、仲間とミッションをクリアする中でできた温かい空気と、その達成感に溢れていました。ミッション以上に得るものが大きい活動になりました。

○田舎暮らし体験

田舎暮らし体験では、農作業をさせていただいたり、魚釣りをしたりと民泊家庭ごとに様々な体験をさせていただきました。中でも印象的だったのは、釜を使った炊飯体験でした。屋外に設置したかまどで薪を燃やし、その熱で米を炊く様子は、普段、家の中で米を炊いている様子とまったく違い、驚きの連続です。釜とふたの間から出てくる米の炊き汁から漂う香りは、炊飯器から出てくる香りは一味も二味も違い、普段よりも食欲をそそられたようです。「なぜこんな汁が出てくるのかな?」と子どもたちは疑問をもち、学校に帰って調べてみたいと語っていました。

田舎に住みながらも、なかなか体験できない田舎暮らしの体験。そして、その中で感じる民泊家庭の方の温かい言葉や心遣いを感じ、改めて北広島町の良さを実感することができました。

八幡ウォークラリー・田舎暮らし体験



○川魚つかみ取り体験

大暮養魚場に集合し、アマゴのつかみ取り体験に臨みました。つかみ取りの体験をする前に、養魚場の方から命の大切さについてのお話を聞きました。魚をつかまえて食べるということは、生きている命をいただくことであると教えていただきました。子供達一人一人の心に強く残ったお話でした。

そして、いよいよつかみ取りです。「取ったよー。」「ほら、あそこにおるよ。」「やったー、つかまえた。」などと、あちらこちらから歓声が聞こえてきました。中には何匹もアマゴをつかまえた子供もいました。

その後活動班に分かれて、あらかじめおこしておいた火でアマゴを焼き、そして各自が2匹ずつ食べました。「おいしいね。」「頭から食べられるよ。」と新しくできた友達と声をかけあいながら食べました。味は最高においしかったです。



○お別れ式

楽しかった体験活動はあっという間に過ぎ、お世話になった民泊家庭の方々ともいよいよお別れの時です。わずか2泊という限られた時間の中での生活体験でしたが、子供達は民泊先の方々の温かい心に触れ、充実した2日間を過ごすことができました。

お別れ式で民泊家庭の方がホールに入って来られると、子供達はとてもいい表情を見せました。そして最後の対面です。自然と笑顔があふれて握手を求める子、別れるのがつらくて涙ぐむ子、一緒に写真を撮ってもらう子などあり、感動的な光景でした。

ふだんの生活では体験できないことをたくさんさせていただいた貴重な日々。家族のように接していただき、本当に思い出の多い2泊3日になりました。

お世話になった民泊家庭のみなさん、ありがとうございました。

3泊4日にわたって行われた「民泊体験」。初めて訪れた土地で民泊家庭の方や仲間と過ごし、協力することの大切さを学びました。また、豊かな自然の中で同学年の友達と出会い、友達の輪を広げる喜びを感じることができました。

多くの活動を支え、温かく子供たちを見守ってくださった民泊家庭のみなさん。本当にありがとうございました！



【民泊体験活動 Cグループ】 (大朝小・川迫小・壬生小)

〈 第1日 (7月17日) 〉

○ 1日目は、各学校に宿泊。

	活動内容	活動の様子 (写真)
大朝小学校	<p>午後1時50分から、北広島町消防署の方を招いて防災教室を大朝小学校図書室で行いました。西日本豪雨災害のことや災害被害を少なくする取組、怪我の手当て等を学びました。</p> <p>午後3時より、大塚ふれあいセンターへ移動し、カレーライス作りをしました。班で協力し、おいしいカレーができました。</p> <p>午後6時半より、大朝 B&G 海洋センターで水泳を楽しみ、シャワーを浴びて大塚ふれあいセンターへ戻りました。</p> <p>その夜は、一日の振り返りの後、次の日からの活動に備えて、午後9時に就寝しました。</p> <p>みんなとてもがんばったのでぐっすり寝ました。</p>	
川迫小学校	<p>午前中に夕食と朝食の材料の買出しに行きました。午後からは北広島町消防署の方に来て頂き、心肺蘇生法の講習を行いました。夕方、いよいよ3泊4日の体験活動が始まりました。</p> <p>早速、夕食のカレー作りに取り組みました。5人で協力しながら、カレーとサラダができました。中庭のテーブルをみんなで囲んで美味しく頂きました。夜は、エアコンのある保健室と職員室に男女で分かれてぐっすり眠りました。</p> <p>翌朝みんな元気に起きて、体操をして美味しく朝ごはんを食べました。</p>	
壬生小学校	<p>午後4時、他の学年が下校し、5年生だけの民泊体験のスタートです。はじめに、家庭科室で夏野菜カレーを作りました。班の中での自分の役割を考えて動きました。ちょうど出来上がったころ、家庭科室からとてもきれいな夕日が見えました。「みんなと一緒に見れて良かった。」と、心に残る景色でした。</p> <p>午後5時40分、作った夏野菜カレーを食べました。「家で食べる味とはちょっと違う。」と、もりもり食べました。</p> <p>午後7時、いざ星空観察!...と思ったのですが、曇っていたため、線香花火を楽しみました。</p> <p>午後8時、班でキャンドルを囲みながら、1日目の振り返りをしました。班で協力するよさを実感するとともに、翌日からの活動に期待を寄せる子供達でした。</p> <p>午後9時、パソコン教室と図書室に男女別に泊まりました。同級生と一緒に寝た初めての夜は、忘れられない思い出です。</p>	

〈第2日目（7月18日）〉

開会式・人間関係作り・対面式

○開会式・人間関係作り

18日（水）朝、壬生小学校・大朝小学校・川迫小学校の3校が、バスで芸北文化ホールに合流しました。到着後すぐに開会式をし、各校の学校紹介をしました。



北広島町と友だちのよさをみつけましょう。

開会式後は人間関係づくりをしました。バースデーラインやじゃんけん列車、人間知恵の輪をしました。

初めは同じ学校の児童との交流が多かったのですが、楽しい活動にだんだんと緊張がほぐれ、最後には笑顔で生活班の円を作ることができました。



人間関係づくりの後、生活班でグループミーティングをしました。自己紹介をし、自分の呼び名と班長を決めました。そして、翌日のウォークラリーの役割も決めました。

あだ名で呼び合いながら、「昨日は学校で何したの。」「得意なことは何。」「民泊はどんなことができるかな。」と、お互いのことやこれからの活動についても話しました。



仲良く活動できそうだ。

○対面式



自己紹介カード、たくさん見てもらいました。

その後、民泊家庭の方との対面式をしました。準備してきた自己紹介カードを見てもらい、自己紹介とあいさつをしました。「大丈夫かな。」と、ドキドキしていた児童も、民泊家庭の方のあたたかい手と笑顔に励まされ、にこにこ車に乗っていきました。



楽しみに待っていてくださいました。



民泊がんばるぞ。行ってきます！

○ウォークラリー

猛暑が続いた今年の夏！予定していたウォークラリーからバスで移動するバスラリーに変更して
行う事になりました！

グループで協力しながら楽しく
行う事ができました。

それぞれの民泊家庭か
ら芸北高原センターへ
集合！



バスで移動し、
まずは、カキツバタの
里で、情報収集！



191スキー場
を背後に見なが
ら八幡高原を散
策しています！



偉大な植物学者
牧野富太郎博士の
句碑の立つ場所
で学習しました！



芸北高原の自然館では、
館内の説明を聞いたり、
展示を鑑賞したりなが
ら情報をたくさん集める
事ができました！



八幡高原センターに帰ってきて、
まとめのクイズに挑戦です。
みんなで相談しながら楽しく
考えました！



霧ヶ谷湿原では、湿原の保護に
ついてトレッキングガイドの方
から話を聞きました！



○川魚つかみ取り体験（大暮養魚場）

3日目は芸北の大暮養魚場へ集合し、養殖の学習や炭おこし、アマゴのつかみ取り、アマゴ調理を通して、命の学習を行いました。

到着してあいさつした後、1～3班が養殖の説明をしていただき、4・5班が命の学習をした後で

炭火おこしを行いました。自分たちの命が先祖から繋がれていること、私たちは、生きていくために魚や野菜の命をいただいていることを学びました。



アマゴの生態や養殖について説明をしていただきました。アマゴとヤマメの違いやレモンサーモンの養殖などについて教えていただきました。炭火おこしは、班毎に試行錯誤し、何とか火がつかしました。



アマゴのつかみ取りは全員でした。はじめは、捕まえることができなかった子どもも次第に慣れてきて、歓声に包まれました。

割り箸を使ってアマゴ内臓を取り出します。竹串に刺したアマゴは、炭火で焼きました。おにぎりとお味噌汁もとてもおいしかったです。



この日の学習では、体験だけではなく、生き物の命をいただいて生きている我々の心の在り方について「命の勉強」をすることができました。大暮養魚場での体験活動は、貴重な学びとなりました。

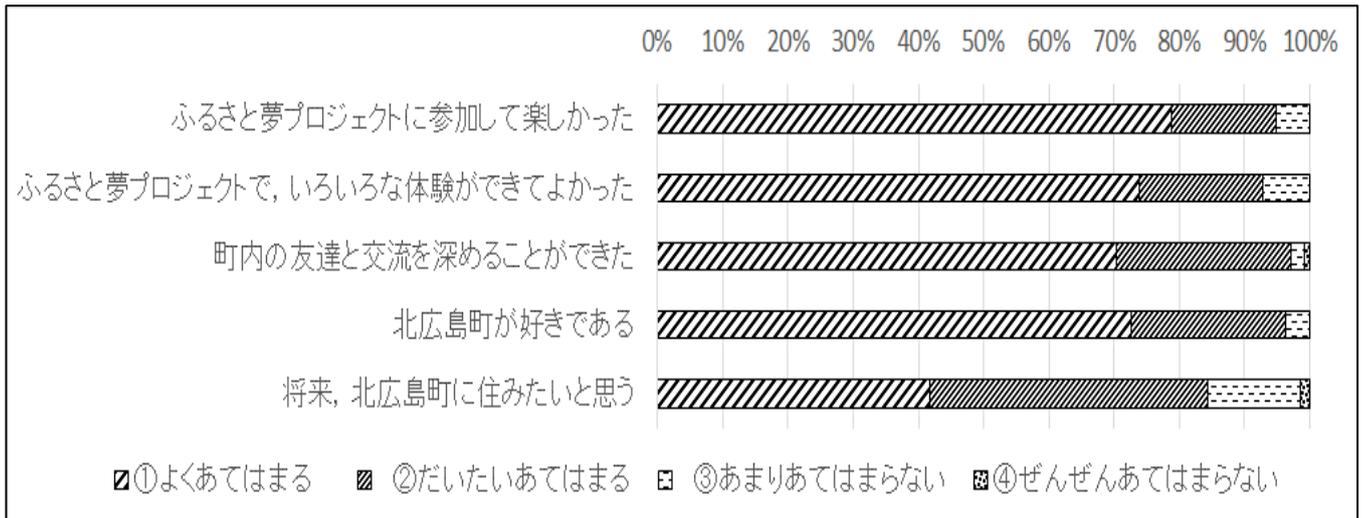
○閉会式・お別れ式（芸北文化ホール）

芸北文化ホールに移動し、3泊4日にわたる民泊体験活動の閉会式を行いました。お世話になった民泊家庭の方とお別れ式をしました。みんなで心をこめてお礼の気持ちを伝えました。「また、泊まりたいです。」「楽しかったです。ありがとうございました。」そんな言葉が笑顔とともに会場を包みました。

大朝小学校、壬生小学校、川迫小学校、3校の児童一人ひとりが貴重な思い出を作り、民泊活動を終わりました。



プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果(5年)



民泊体験・田舎暮らし体験をして、思ったこと考えたことを書いてください。

芸北小学校	
<ul style="list-style-type: none"> ○自分の家と民泊家庭のルールなどは違い、その家でしか体験できないことがあって、学ぶことができた。うれしかったし楽しかった。(6) ○民泊家庭の方と寝たり夕食を作ったりするのがとてもよい経験になった。仕事をするのは、しんどいこともあったけどやってよかった。(3) ○田んぼ仕事の昔の道具を見せてもらって、昔は手作業で大変だったのだなと感じた。そのような昔の道具を保管されていてすごいと思った。(3) ○自分の家と違うことができた。自分の家と違うという体験をするのもいいなと思った。 ○最初は何も分からなかったけど民泊班の人や民泊家庭の方がいろいろなことを教えてくださったから民泊をしてよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○民泊家庭で自分用のかごや帽子などを用意して下さっていてうれしかった。 ○民泊家庭の人とコミュニケーションをとることができた。知らない人とでもコミュニケーションをとることが大切だと考えられた。 ○人の家に泊まるのは初めてだから緊張した。 ○みんなで協力することで、一人で作るより何倍もご飯がおいしくなった。 ○民泊家庭の人に教えてもらったことを自分の家の人に教えて、一緒にご飯などを作ろうと思った。 ○もっと家でも手伝いをしようと思った。 ○毎日田舎暮らしをして分かりきっていることなのに、わざわざ田舎暮らし体験をする必要があるのかと思った。
大朝小学校	
<ul style="list-style-type: none"> ○そうめん流しと木登りが楽しかった。(3) ○知らない人とたくさん話せた。(2) ○楽しかった。(2) ○色々な体験がさせてもらえ、とても嬉しかった。いつもは考えない自然の大切さに気づくことができた。 ○自分の家ではないから落ち着かなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○慣れない環境での生活は不安だったが、民泊先の方が優しく接して下さり、緊張や不安もなくなった。 ○きのこの菌床を初めて見た。 ○川がきれいで野菜などが沢山とれることが分かった。
新庄小学校	
<ul style="list-style-type: none"> ○初めて自分達で野菜を収穫して、とてもおいしかった。じゃがいもが特においしかった。(4) ○民泊先の犬と仲良くなれてうれしかった。 ○ふだんあまりできない活動がいろいろできてよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○民泊先にビニルハウスがたくさんあってびっくりした。 ○ムカデを初めて見てびっくりした。

川迫小学校	
<ul style="list-style-type: none"> ○一緒に民泊体験をした大朝小学校の人と遊ぶことができて楽しかった。 ○やったことのない体験がいろいろできたのでよかった。 ○たくさん外で遊べて楽しかった。 ○民泊家庭で、シジミを取ったり、お好み焼きを作ったりしたことが楽しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○お好み焼きを自分で作らせてもらって、上手にできたのでうれしかった。 ○小さなプールに入らせてもらって楽しく遊んだ。 ○綿あめやカキ氷、ピーマンの肉詰めなど実際に作らせてもらって、凄くいい体験になった。 ○シジミを見たことはあったが、あんなに大きなシジミははじめて見た。
八重小学校	
<ul style="list-style-type: none"> ○普段家でできない畑仕事や、みんなで料理をつくることができたのでよかった。(7) ○民泊家庭の廊下で紙飛行機を作ってどれが1番遠くに飛ばかを競って楽しかった。(2) ○民泊家庭の方と楽しくお話をして、仲がとても深まったのでうれしかった。(2) ○田舎暮らし体験で、クッキー作り、箸作り、かぼちゃのケーキ作り、打ち上げ花火などいろいろやらせてもらえて楽しかった。(2) ○民泊家庭の方がとても優しくしてくださったから嬉しかった。(2) ○民泊家庭の方と一緒に将棋をして、あっけなく負けたけど楽しかった。 ○野菜を虫に食べられないように工夫をしているとすごいと思った。野菜もおいしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○料理や木登り、キノコの育ち方など色々なものを見ることができた。 ○民泊家庭で学んだことを生かしていきたいと思った。 ○手作りのものがとても美味しかった。 ○行く前は不安だったけど、行ってみたら同じ学校の仲間と一緒に泊まることができて楽しかった。 ○民泊家庭でたまねぎを収穫したことが楽しかった。 ○また、民泊家庭の方と木登りやまき割りをしたいなと思った。 ○農作業でとった絹さやが夜ご飯に出たので、嬉しかった。 ○民泊家庭で木箱作り体験をして楽しかった。 ○民泊家庭で箸をつくってそれで一緒に作ったご飯を食べて、とても楽しかった。
豊平小学校	
<ul style="list-style-type: none"> ○料理をするのが楽しかった。(4) ○野菜の収穫の仕方がよく分かった。(2) ○民泊家庭の方とたくさん話ができてよかった。(2) ○野菜を収穫して楽しかった。(2) ○電柵張りを手伝って疲れたので、いつも一人でされている民泊家庭の方は大変だと思った。 ○赤飯に使う豆の皮むきをして楽しかった。 ○ご飯を作ってみておいしかったので、家でも作ってみたい。 ○自分で料理をして大変だった。 ○食べたことのない料理を作って食べることができたからよかった。 ○イカをさばくのは初めてだったから楽しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○野菜の収穫をして、家でも家庭菜園をしたいと思った。 ○畑仕事をして楽しかった。 ○ピザ作りをして、民泊家庭の方に「上手」と言ってもらったのがうれしかった。 ○みんなと交流ができて楽しかったから、他の学年にもやってほしい。 ○ふだん話せない人と話せたから楽しかった。 ○草取りをしてとても疲れた。家でも、おじいちゃんたちを手伝ってあげたい。 ○いのししのおりを見たことが心に残った。 ○農家の大雨のときの悩みを知ることができた。
本地小学校	
<ul style="list-style-type: none"> ○民泊家庭の方といっしょにジャガイモほりをしたことが楽しかった。(4) ○田舎暮らし体験を初めてやって、楽しかった(2) ○友達と協力できたことがとても楽しかった。 ○犬の散歩をしたことが楽しかった。 ○民泊のお家の人といっしょに、料理を作ったことが楽しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○民泊家庭の方は、自分ではできないこと(ジャガイモほりなど)を一生懸命やっておられるので、すごいと思った。 ○芸北は自分たちのすんでいるところと比べて涼しいということが分かった。 ○芸北のよさが分かってよかった。

八重東小学校	
<ul style="list-style-type: none"> ○自分達で協力して作ったご飯はおいしかった。(5) ○民泊家庭の方は、夏の暑い日も冬の寒い日も一生懸命に畑作業をされているんだと実感した。(5) ○自分達だけでご飯を作って民泊家庭の方々にもふるまうことができうれしかった。(3) ○家族と離れて生活するのは初めてだったけれど、離れてみて家族の大切さを感じた。(3) ○北広島町の豊かな自然を実感することができた。(2) ○民泊家庭の方には優しくしてもらったので、今度から自分は優しくする側になろうと思った。 ○北広島の歴史や自然について民泊家庭の方に話していただいて、自分も将来北広島町に住みたいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○田舎暮らし体験では、普段できない畑作業や野菜の収穫をすることができて達成感があった。 ○様々な体験をさせていただけてうれしかった。もったくさん手伝ったかった。 ○民泊家庭で過ごす気持ちやすっきりとしたから北広島町が好きになった。 ○自分達が普段食べている野菜や肉も民泊家庭の方が一生懸命に育てられていたように、たくさんの手間がかかっていると分かったので感謝しようと思った。 ○民泊の方に優しく・厳しく生活について見守っていただいたことが自分のためになったと思った。 ○民泊体験を通して地域の方の様子を知ることができた。
壬生小学校	
<ul style="list-style-type: none"> ○山からとってきた笹で遊んだこと。 ○ふだんできないことができて、よかった。 ○家ではできないことができて、楽しかった。 ○いろんなことを知ることができて、勉強になった。 ○北広島町のよさをたくさん見つけられた。 ○自分の家とあまり変わらなかった。 ○民泊家庭の人が優しくしてくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○竹ではしを作って自分で使うと、とても使いやすかった。 ○農業の苦勞が分かった。 ○千代田よりも芸北の方が涼しい。 ○たまねぎの出荷が楽しかった。 ○たくさん怒られたのでこれから直していきたい。 ○交流を深めることができた。 ○普段の生活があたりまえじゃないことが分かった。
川魚つかみ取り体験・登山をして、心に残っていることはどんなことですか。	
芸北小学校	
<ul style="list-style-type: none"> ○自分でヤマメをつかまえられたこと。初めて自分の力でとれてうれしかったこと。(5) ○みんなで助け合いながらポイントを回ったりミッションをしたりしたこと。(4) ○コースを迷ってしまったが、楽しかった。(2) ○友達と協力してコースを回れば、疲れていてもやる気が出た。最後までみんなで協力してがんばったこと。(2) ○友達や先生が「がんばって。あと少しだよ。」などと言ってくれたことがうれしかった。 ○ちゃんと地図を見て行動できた時。 ○ポイントを全部回することはできなかったけれど、目標が達成できたのでうれしかった。 ○長い距離を歩いたこと。 ○けんかもあったけど最後には仲良くなって、みんな笑顔でゴールできたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○片桐さんが命の大切さを教えてくださったこと。 ○命の大切さを深く考えたこと。 ○自分は一匹しかつかめなかったけれど、他の友達がたくさん捕まえてくれたからみんな2匹ずつ食べられたことがよかったこと。 ○「そこにいるよ」「ここがかくれやすよ」など教えあって捕まえることができたこと。 ○ヤマメをつかんだのに逃げられたりしたけど、3匹つかめてうれしかったこと。 ○二つの体験を通して、班の人とのきずなが深まって、いつも一緒にいるかのような友達になれていたのがよかったと思ったこと。 ○みんなでチェックポイントを見つけたこと。 ○地図係りの役をしっかりと果たし迷うことなくゴールできたこと。
大朝小学校	
<p style="text-align: center;">川魚つかみ取り体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ○難しかったけど魚がとれたこと。(5) ○火起こしで、皆はあまり上手くできなかったけど、自分はいま火を起こせたこと。(1) ○「命をいただいている」という話。 	<ul style="list-style-type: none"> ○広島レモンサーモンにエサをやると、油で揚げたみたいに跳ね上がったこと。(1) <li style="padding-left: 20px;">バスラリー ○みんなで協力して考えたり行動したりできたこと。(3)

○広島レモンサーモンは大暮養魚場にしかないこと。 ○魚がとてもおいしかった。	○楽しくできたこと。 ○北広島町の色々な良いところに気付けたこと。
新庄小学校	
○他校の児童とたくさん話をしたこと。友達ができた。(2) ○アマゴのつかみどりで魚がつるつるしていて気持ちよかった。(2) ○ウォークラリーに3時間35分もかかったが、最後まであきらめずに歩けた。 ○ウォークラリーでアカハライモリを見ることができてよかった。	○芸北の自然を満喫できた。 ○アマゴのつかみどりで4匹つかめてよかった。 ○アマゴのつかみどりで1匹つかめてよかった。 ○青イトカゲを見てびっくりした。 ○ウォークラリーで牧野富太郎の句碑やカキツバタの詩など、八幡高原のことがわかってよかった。
川迫小学校	
○猛暑でウォークラリーがバスラリーになったけど、班の人と協力して楽しむことができたのでよかった。 ○アマゴが速くてなかなかとれなかったけど、無事、班の全員分20匹とれたのでよかった。 ○アマゴのつかみ取りでは、みんなとアマゴの隠れ家を見つけて捕まえる事ができた。	○川魚つかみどり体験では、自分でとったアマゴの内臓などもとっていい経験ができた。 ○バスラリーでは、答えを見つけられてよかった。 ○アマゴを2匹つかまえられてよかった。 ○バスラリーでは、いろいろなクイズを正解する事ができて、楽しかった。
八重小学校	
○川魚のつかみ取り体験やウォークラリーができなくて残念だったこと。(9) ○ウォークラリーのクイズで、みんなで協力して考えて答えられたこと。(8) ○体育館で箸を使って色々な形のゲームをして交流できたこと。(6) ○クイズ大会でミッションをクリアできたこと。(3)	○千代田にいない生き物がいることが分かったこと。 ○自然館や湿原を見学して珍しいものを見せてもらったこと。 ○他の学校の人たちとは仲良くなれるか分からなかったけど、活動班の人たちと仲良くなれたことが心に残った。 ○自然館でガイドさんがいろいろなことを分かりやすく教えてくれて、勉強になったこと。
豊平小学校	
○ミッションを違う学校の人と協力できて楽しかった。(9) ○ミッションで、みんなでいろいろな意見を言い合えたので心に残った。(3)	○クイズに正解したときはうれしかった。(3) ○わりばしクイズを解くのが楽しかった。(3) ○八幡湿原や高原の自然館でいろいろな虫や動物などを見て楽しかった。(2)
本地小学校	
○自然観を見学して、アカショウビンなどの鳥について体の色やすんでいるところ・鳴き方などが分かった。(7) ○班のみんなと協力してクイズを解いたことがうれしかった。(5)	○自然館にたくさんの生き物がいて、勉強になった ○友達がいろいろな話をしてくれて楽しかった。
八重東小学校	
○ウォークラリーでは、班の友達と協力してミッションをクリアした事が楽しかった。(9) ○命をいただく大切さを、大暮養魚場の方や、魚が教えてくれた。(6) ○友達と協力して魚をつかんだり、火をおこしたりできた。(5) ○友達と協力して魚をつかんだり、火をおこしたりできた。	○全ての食べ物に命があることを実感したから、ご飯はありがたく残さず食べようと思った。(4) ○班のみんなと食べたヤマメは本当においしく感じた。(3) ○ウォークラリーを通して話し合う力や協力する力が高まったと思う。(2) ○また、芸北小や新庄小の友達に会って一緒に活動

<p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ウォークラリーを通して芸北の豊かな自然を感じることができた。(2) ○途中で道に迷って大変だったけれど、班のみんなと協力して1位でゴールすることができたことが嬉しかった。 ○困った時にどうすれば解決できるのか考える力が高まったと思う。 	<p>したい。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ウォークラリーでは最後まで諦めずに歩くことができたので、これからの様々な活動でも最後まで諦めずに挑戦しようと思った。 ○魚のつかみどりでは、魚を捕まえるポイントを友達が教えてくれて、何とかとることができたので嬉しかった。
<p>壬生小学校</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○つかみ取りで、何匹かとれてうれしかった。 ○かきつばたがきれいだった。 ○火を起こすのが難しかった。 ○魚や植物に命があることが心に残った。あまごの内臓を取るとき、命の大切を学んだ。 ○チェックポイントについたら、説明をしてもらって楽しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で取って刺したあまごは、おいしかった。 ○楽しかったから、来年も行きたい。 ○ウォークラリーをして歩きたかったけど、バスラリーも楽しかった。 ○協力して計画を立てたり、いろんなことができたりした。

民泊家庭は自分の家とちがった…

芸北小学校 橋本 亜斗夢

「えっ!？」

民泊家庭での生活は、おどろきの連続だった。ぼくは、豊平にある中尾さんの家に泊まらせていただくことになった。「民泊」は初めての経験で、分からないこと、おどろくことばかりだった。

まずは食事のことだ。中尾さんは、食事中はあまりお茶を飲まない方がいいとおっしゃったのだ。それはなぜかという、食事中にお茶を飲むと、胃の中で「お茶づけ」になってしまい、おなかがいっぱいになってあまりごはんを食べられなくなってしまうからだそうだ。だから、ぼくは中尾さんの言われるとおりに、お茶を飲まずに食べてみた。すると、お茶を飲まないほうが、ごはんをたくさん食べることができた。ふだんからあまりたくさん量を食べられないぼくにとって、この教えは今後も役に立つものになりそうだ。

食事のことでは、他にもおどろいたことがある。みなさんは、バナナを食べるとき、どうやって食べているだろうか。ぼくは、いつも手を使って、皮をむいて食べている。しかし、中尾さんはこんなことを言われた。

「バナナは手では食べない方がいい。手で食べると、動物みたいだからやめたほうがいいよ。」

ぼくはこの言葉にはとてもびっくりした。僕は、バナナだけでなく、他の果物や食べ物は手を使わずに食器を使って食べるべきなのだと学んだ。

自分にとっての当たり前が、人にとっては当たり前ではないのだと学んだこともある。ぼくは、食事をするとき、口の中いっぱい食べ物を入れてしまうくせがある。それで、いつものようにしゃべってしまったとき、中尾さんはぼくにそのことを言うてくださった。

「君は、口にいっぱい物を入れてしまっている。それでしゃべっていると、口の中が見えたり、何をしゃべっているのか分からなかったりするだろう。だから、口の中には少しだけ物をいれて、手でかくしてしゃべってね。」

ぼくは、口に物をいっぱい入れてしゃべったら、他の人にいやな思いをさせてしまうのだということ学んだ。

食べること以外にも、ちがいとまどったことがあった。お風呂のことだ。中尾さんの家のお風呂は、ぼくの家のお風呂とはちがうことがあった。風呂の湯をためるときのことだ。ぼくの家では、お湯は自動でためる。しかし、中尾さんの家では、自動ではなく、自分でじゃ口をひねってお湯をためるのだ。お湯と水を混ぜて、ちょうどよい熱さにしなければならないのだが、その方法が分からないぼくは、お湯をたくさん入れて、水をあまり入れなかった。だから、熱々のお湯がたまってしまう、すぐに入ることができなかったのだ。ぼくは、お風呂も昔っばいところがあって、学ぶことがたくさんあるな、と思った。

中尾さんの家では、自分の家とのちがいとまどうことが多かったが、そのちがいを受け入れて、楽しむこともできたような気がする。これからも、いろいろなちがいを受け入れて、様々な見方や考え方ができるようになりたいと思う。

民泊で気づいたこと

芸北小学校 本家 広大

ぼくたち芸北小学校の五年生は、7月10日からの北広島町内民泊体験学習をして、自分たちの家とはちがう様々なことを学びました。

ぼくたちは、平岡さんの家に泊まらせていただきました。平岡さんの家には、かまどがありました。ぼくたちは、そのかまどでごはんをたかせていただき、いい経験になりました。そのかまどでご飯をたかせてもらう中で、一つ不思議なことがありました。それは、ごはんがたけた後に、ごはんの白いしるがおかまから出てきたことです。家のすい飯器では、そんなしるは出てきません。これが一つ目のちがいでした。ぼくは、今度そのことを調べようと思いました。

そして二日目の夜ごはんで二つめのちがいに気付きました。みんなでぎょうぎを作ったときのことで、まず、最初に作り方を教えてもらいました。教えてもらったそのぎょうぎの形は、家とは少しちがっていました。僕の家のは、お肉がぎっしりつまっているけれど、平岡さんの家のぎょうぎは、少しコンパクトで、食べやすい大きさでした。でも、一つだけ同じだったことがあります。それは、ぎょうぎの味です。自分たちで作ったぎょうぎは、ぼくの家のはと変わらないおいしさでした。

この民泊で、自分の家とはちがうやり方があるということに気づくことができたのは、とてもいい経験になったと思います。この民泊で経験したことを、いろいろな人に広めたり、ふだんの生活で生かしたいと思います。

成長を実感した花火

芸北小学校 林谷 茜

「わあっ。」

私はふき出し花火にびっくりしてしまいました。思ったより大きくふき出したからです。ふき出し花火にびっくりして、私はその場から少しはなれてしまいました。北広島町内民泊体験活動で泊まった家での花火の時間に、私は自分の成長を実感する出来事がありました。

ふき出し花火以外に、手持ちの花火がありました。私は手持ち花火の方が好きですが、ふき出しの方もみんなが見て笑顔で楽しむことができました。これまでの自分だったら、手持ち花火の方が個人で楽しめるから、笑顔で終われる、と自己中心的に考えていました。でも、その時の自分をふり返ると、まわりのことを考えられるようになったと思いました。まわりのことを考えるという考え方を自分の気づかないところでできるようになっていたということは、成長できたということだと思いました。

まわりのことを考えるようになって、友だちだけでなく、民泊家庭の方にも生かすことができました。手持ち花火が一本だけ残っていたので、自然と「やりますか。」

と声をかけることができました。はずかしがらずに人とコミュニケーションがとれたのです。ふだん、教室でははずかしがらずにだれとでもコミュニケーションを取れるように意識したことが、生かされたのだと思います。教室でやることは、いつか役に立つ。そう改めて感じることができました。

チェックポイント

芸北小学校 藤堂 瑛多

「あ！あった！」

ぼくたちは、チェックポイントを見つけた。民泊体験の三日目。八幡ウォークラリーで回らなければならないチェックポイントは、十こある。ぼくたちは、最初、その中のチェックポイント1に行く予定だった。地図もちゃんと見た。友達とも確認した。だから、安心して道を進んでいた。すると、進む先に郵便局を見つけた。しかし、地図を見るとチェックポイント1に向かう道に郵便局はなかった。おかしい。そこでぼくたちが向かうはずの道とは逆の道を確認してみた。すると、確かに郵便局があった。ぼくたちが来た道は、チェックポイント1に行く道とは逆で、チェックポイント10に行く道だったのだ。ぼくはあせり、おどろきをかくせなかった。しかも、チェックポイント1をさがしていたのだから、10には気づかず、とっくに過ぎてしまっていた。

「なんで？」

ぼくは落ちこんだ声で言った。

「あんなに確認したのに…。」

でも、班長さんが

「しょうがないよ。次のチェックポイントを取ろうや。」

と言ってくれた。ぼくはその言葉を聞いて、少しだけ元気が出た。班長さんはみんなをはげますように

「チェックポイント9を取ろう。」

と言った。ぼくたちはその言葉を聞き、チェックポイント9に行く道を選んだ。

それからしばらく歩いてみたが、チェックポイント9はなかなか見つからない。ぼくはさっきのこともあり、不安になっていた。その時、ぼくは何かを見つけた。確かめるために、近くに行ってみた。ぼくはさっきまでとは打って変わって笑顔になった。そこにあったのは、チェックポイント9だった。初めて見つけたチェックポイントだったから、その先で他にもいくつか見つけたが、他のチェックポイントの何倍もうれしかった。

結果的に、ぼくたちは全てのチェックポイントを見つけることはできなかった。どの班よりもゴールするのに時間がかかった。でも、最終日の表しょう式では、時間がかかった分「八幡湿原を満喫したで賞」をもらえた。最後までがんばってよかったと思った。最後までがんばれたのは、落ち込んでいた時に班長さんが

「次がんばろう。」

と言ってくれたり、とちゅうで他の友達が

「がんばろー！」

「あとちょっとだよ！」

と声をかけてくれたりしたおかげだと思う。だから、民泊体験で新しい友達ができてよかったと思った。そして、そんなぼくをはげましてくれた元気が出る言葉を、次はぼくがいろんな人にかけて、友達を元気づけようと思うことができた。

たくさん学べた わくわく民泊

大朝小学校 島田 理央

7月17日から20日まで、三泊四日の民泊体験活動がありました。

初日は、大朝小学校だけで活動してみんなで泊まり、二日目からは壬生小学校、川迫小学校の人たちといっしょになって活動をし、民泊が始まりました。

私は、壬生小学校の人3人と大朝小学校の2人で、芸北の吉川サワコさんの家に泊まりました。すごくきれいで大きな家でした。芸北は大朝より涼しく感じました。壬生小の3人の人はみんな元気で笑顔でした。すぐに仲良くなれる人たちでした。民泊先初日の夕ごはんはコロッケ、ポテトサラダ、きゅうりのつけものでした。私はコロッケとポテトサラダをメインに作りました。料理のほとんどを自分たちだけするのは、私は初めてでした。できあがったポテトサラダとコロッケを食べてみると、コロッケは外はサクツとして、中はホクホクでした。みんなで食べるとおいしさが何倍にもなったように感じました。

民泊二日目となる次の日は、みんなで窓のそうじを手伝いました。手伝った後は小川で遊びました。ミニの滝のみたいなどころがあり、みんなで水のかけあいこをしました。小川の水がとても冷たく、はだに当たると痛かったです。小川に入った後は、おふろに入りました。温泉ぽくなっていて、シャワーが2台ありました。広さはたたみ4じょう分くらいで広がりました。

この日の夕ごはんはピザでした。生地から作り、手でこねこねした後、日光で発酵させてふくらませました。その後、石がまの中にマッチで火をつけ、点火しました。けむりがすごく出てきてけむたかったです。一方ふくらませておいた生地は、ふわふわ、ぷにぷにしていました。その上に野菜などをトッピングし、かまで焼きました。焼く時間は、1～2分です。ものすごくびっくりしました。ふつうにオーブンで焼くと20～30分かかるそうです。焼きあがったピザは、少しこげめがついていて、ふんわりしていました。すぐに手が出そうなくらいおいしそうで、早く食べたくて待ちきれませんでした。食べるととてもふわふわで、野菜、お肉が口の中いっぱいジュワッとはじけるように広がりました。ピザは一人一枚あり、一口一口がおいしかったです。

ご飯を食べた後は、花火をしました。花火は一人5～6本ありました。また、小さい打ち上げ花火もしました。パチパチ炭さんみたいにはじけて、とても目立ってきれいでした。最後に線香花火もやりました。花火が終わると就寝しました。

次の日は、民泊先から大暮養魚場に集まって川魚のつかみ取り体験をしました。

私は一匹も取れませんでした。さわることにはできました。ぬめつとしていました。つかまえたヤマメはえらに割りばしをさし、ぐるっと回して内ぞうをとりました。正直に言うと気持ち悪かったのですが、やらないと食べられないのがんばってしまいました。その後で塩をつけて炭火で焼いて食べました。魚のうまみがジュワッと広がり、パサパサしていなくてジューシーでした。

民泊体験活動では、全体での活動も、民泊先での活動も、どれも初めての体験が多く、いろいろなことが学べました。この民泊体験活動を通して自分が変わったところは、前よりももっと自分から周りの人を手伝えるようになったところ。それは、民泊先の方や、他の学校の人たちのことを見て、今自分は何をしたらいいのかを考えて動こうとしたからだと思います。今までは人から何回か言われてやっと動くということも多かったけど、今は以前より自分からできるようになったと思います。だから私の次の目標は、誰に対しても優しくできるようになるということです。こうしてこの民泊体験活動を通して自分の成長を確かめられたことで、もっと成長した自分を目指したいという気持ちをもてるようにもなれました。ほんとうにたくさんのことを学べた三泊四日の民泊体験活動でした。

すごく学んだ三泊四日の民泊

大朝小学校 田村 優吉

これから民泊だ。初日は大塚ふれあいセンターに泊まるが、二日目からは民泊だ。

初日の活動は防災訓練で始まった。災害から自分の命を守ったり、人を助けたり、救助のために人を運んだりするための訓練だ。消防署の方に来ていただいていろいろ教えてもらった。棒2本と毛布一枚で担かを作る方法も教えてもらった。「こんな棒2本と毛布で人を運べるなんて・・・」ぼくはおどろいた。新聞紙でスリッパが作れることも教えてもらった。今まで知らなかったことをいっぱい知ることができた。これでいざというとき、一人でも多くの人を救ってあげることができるかもしれないと思った。

防災訓練の後、大塚ふれあいセンターに移動した。「大塚に着いたぞ。これからがんばるぞ。」と、やる気が出てきた。今夜はここでねるのだ。荷物を置くと夕食のカレー作りにすぐ取りかかった。カレーが完成した。ぼくらの班のカレーはスープカレーのようになったから、ご飯をドーナツの形にして中にカレーを入れてこぼれないようにした。スープみたくても味は十分おいしかった。

大塚ではよく眠れた。朝は早めに起きてしまったけど時間まで待った。ラジオ体操をして朝食を食べて出発した。

二日目は三校の交流会だ。生活班の人はみんないい人たちだった。気が合いそうな人もいてうれしかった。交流会やグループミーティングの間に班の人みんなと仲良くなれた。

交流会の後は対面式だった。どんな人たちなのかドキドキしながら待った。会うと優しい人たちだった。民泊先の家はかなり遠く、着くまでの時間が長かった。大朝小からはぼくと元希君で、川迫小からも2人来ていて、4人で泊まった。着

くと4人で庭で遊んだ。

庭にたくさん石があったので石の上で鬼ごっこをしたり、バドミントンをしたり、野球をしたり、トカゲをつかまえたりした。新しい友達が2人もできてうれしかった。

三日目はウォークラリーの予定だったがバスラリーになった。その理由は暑すぎて誰かがたおれたら大変だということからだった。先生たちの話でバスラリーになったことは納得した。バスラリーになって喜ぶ人もいた。暑さがすごかったからだ。ぼくもバスラリーで少しうれしかった。

四日目。ついに一番楽しみにしていた魚のつかみどり体験だ。まず、魚の話を聞いた。ヤマメとアマゴのちがいを教えてもらった。アマゴには赤い点がある。それだけのちがいだ。次にレモンサーモンのお話を聞いた。エサをまくとバチバチはねた。本当に食べているのかと言わんばかりの速さではねた。次に火おこしをして命の話を聞いた。生き物には全て命があり、人間はそれをいただいているということを忘れずに食べることが大切だと思った。つかみどりをするときも、魚は助かろうと必死で逃げていた。でもぼくはつかまえた。内ぞうを取るとき生きていたあかしの血が出てきた。ぼくはこの命を感謝していただいた。塩かげんがよくておいしかった。

ついに別れ式だ。また会えるときがあるといいなと思った。そのときはしっかりあいさつをしようと思った。

この三日四日の民泊体験活動を通して、自分の家や学校、いつもいっしょにいる友達となら当たり前だったり言わなくても通じたりすることも、よその家だったりより多くのいろいろな人がいる中では当たり前じゃなく、通じないこともいっぱいあることが分かった。ぼくはどこでも通用する、だれとでも通じ合える自分になりたいと思った。

初めての体験でたくさん学んだ民泊体験活動

大朝小学校 佐々岡 美琉

民泊体験活動で、私は他の友達3人といっしょに宮本さんという方の家に泊まらせてもらいました。

宮本さんの家では、機械を使って木登りをしました。枝打ちをするときに使う機械で、いすに座るようになっていました。この機械を使うとまっすぐ高く木に登っていけます。高いところまで登ってこわかったけど楽しかったです。また木登りができるときはもっと高いところまで登ってみたいと思いました。他には、まき割りもしました。生えていた木を切つてすぐまき割りするとスーッと割れるのですが、木を切つてから一年もそのままにしておいた木は、かんそうしてかたくなってしまつて、簡単には割ることができなくてむずかしかったです。何回も試してみたけどなかなか割れませんでした。また機会があれば挑戦してみたいなと思つてました。他にはしいたけの種菌をドリルで穴を開けて木にうめ込む作業もしました。どれも初めての体験ばかりでした。

民泊先での食事もおいしく残りました。どれもおいしくて、楽しかったです。

一日目は夜ご飯を自分たちだけで作って食べました。ズッキーニにチーズをのせて焼いたのや、じゃがいもとピーマンをまぜたもの、鳥肉の料理、サラダなどをみんなで作りました。二日目は流しそうめんでした。本当の竹を割って作ったものに流しました。そうめんだけでなく、トマト、きゅうり、ゼリー、グミなども流れてきました。そうめんを取りやすい席ととりにくい席があったので、席をかわりながらみんなでいっぱいっていっぱい食べました。夜、お風呂に入ったら一日の振り返りをしてねました。朝起きると食事をして、バスに乗るところまで送ってもらってその日の活動に参加しました。

全体の活動では、壬生小学校、川迫小学校の人といっしょの班でバスラリーや魚のつかみ取り体験をしました。初めの交流会やグループミーティングのときは緊張でいっぱいでしたが、2分間の学校紹介のせりふも言え、班での自己紹介もちゃんとできて、いろんな話をしているうちに少しずつ緊張はやわらいできました。私は班長や副班長にはならなかったけど、進行は全て班長や副班長になった人が進めてくれてすごいなと思いました。

私ははずかしがりやで、知らない人といっしょに何かをしたり、知らない人の家に泊まることなんてなかったので、今回の民泊体験活動では、はじめての人ともはずかしがらずに仲良くなる、そしてはずかしがりやをやめることが目標でした。私はその目標を達成できたと思います。だからうれしいです。この目標が達成できたので、次にこういう機会があったら、そのときにはまた新しい目標を決めて、その目標に向かってがんばりたいと心の中で思いました。この4日間は、体験を通して学び、自分が成長できた4日間でした。このような機会があれば、ぜひまた参加してみたいです。

楽しかった民泊体験活動

新庄小学校 小笠原 大智

ぼく達5年生は、7月10日から13日までの4日間、民泊体験活動を行いました。

まず1日目は、新庄小学校での活動です。いつものように6時間目まで授業をして、その後民泊活動に入りました。夕食づくりでは、2つの班に分かれてカレーライスと野菜サラダを作りました。実際に食べてみると、とてもおいしかったです。その後、大朝グリーンヒルでお風呂に入ったり、学校に帰って肝試しをしたりしました。

2日目は、芸北文化ホールに向かい、開会式や学校紹介をしました。ぼくは、児童代表あいさつを大きな声で言うのをがんばりました。きんちょうしたけど、終わったときにみんながはく手をしてくれたので、とてもうれしかったです。その後人間関係作りやウォークラリーの作戦会議をして班の友達と仲良くなりました。ぼくは班長になったので、これからの活動で班のみんなが楽しめるように声かけするのをがんばろうと思いました。

午後からの対面式では、初めて民泊家庭の方々にお会いしました。ぼくは、芸北の徳永二三江さんの家に隅田君と八重東小学校の小泉君、佐々木君と泊まるこ

とになりました。行ってみると、家の周りにトマトのビニルハウスがたくさんあってびっくりしました。夕食は、ちらしずしに天ぷらでした。ぼくの大好きな料理ばかりでとてもおいしかったです。友達も「うまい、うまい。」と言って食べていました。

3日目は、八幡高原でのウォークラリーです。班のメンバーで、コースや時間を確認しながらチェックポイントを探しました。とちゅうで暑くなってきたので、先生からもらったスポーツドリンクやお茶を飲んで休けいしながら歩きました。

目標の3時間以内にゴールはできませんでしたが、みんなで協力してゴールできたことがとても心に残りました。次の日の表彰式でぼく達の班は、「チェックポイント賞」をもらいました。ぼく達の班は、活動班の中で一番多い7つのチェックポイントを回ることができたからです。

いよいよ最終日です。大暮養魚場に行き、アマゴのつかみどりをしました。最初にヤマメ、アマゴ、そしてレモンサーモンというめずらしい名前の魚を見せてもらいました。そして、養魚場の方からアマゴとヤマメのちがいを教えていただいたり、火おこしの仕方やお話をしていただいたりしました。つかみとった魚は命がなくなるので、ぼくは感謝しながら食べないといけないなと思いました。

ぼくはアマゴを5匹もつかみました。アマゴの口から串をさし、塩をかけて焼いて食べました。とてもよく焼けていてとてもおいしかったです。

ぼくは、今回の民泊体験活動で心に残ったことが4つあります。

1つ目は、なんとといっても友達ができたことです。八重東小学校と芸北小学校の人と友達になったのは初めてだったので、とてもうれしかったです。

2つ目は、アマゴのつかみどりです。ヤマメはつかまえたことはありますが、アマゴは初めてだったので、いい経験をしたなと思いました。

3つ目は、4日間安全に活動できたことです。なによりも参加した児童みんながけがや病気もなく終わったのでよかったです。

4つ目は、民泊家庭での生活がとても楽しかったことです。徳永さんは、ぼく達にとっても優しく、きゅうりやじゃがいもを収穫しているときも自分の子どものように接してくださいました。徳永さんとの忘れられない思い出ができました。お別れの会で徳永さんといっしょに記念写真をとったことを、家に帰っておうちの人に伝えると、「それはよかったね。いい思い出ができたね。」と言ってくれました。

またいつかこんな体験活動をしたいし、八重東小学校、芸北小学校の人と会ってたくさん楽しい話がしたいです。

民泊最高！

新庄小学校 濱田 穂香

わたしは、今回の民泊体験活動で思い出に残ったことが2つあります。

1つ目は、同じBグループの八重東小学校と芸北小学校の人といっしょに活動した人間関係づくりです。人間関係づくりでは、たくさんゲームをしました。まず、担当の先生とじゃんけんをしました。先生が、「わたしがじゃんけんで何を

出すか、みなさんに答えを出しています。」と言われたので、わたしは真剣になって考えました。考えているうちにヒントは足だということがわかりました。そのヒントに気付いたらじゃんけんに勝ちました。次のもうじゅうがりでは、他の学校の人とグループになってたくさん手をつなぐことができました。もうじゅうがりの歌が、知っているやりがみになっていたのも、おもしろかったです。

最後に、ブルーシートの上に班の人全員が立ち、力を合わせて前に進むゲームをしました。みんなでああでもないこうでもないと言いながら作戦を立てたけど、なかなかうまく進めませんでした。でもこの人間関係づくりで班の仲間と協力してゲームができ、知らない間にたくさんの人に声かけられたので、うれしかったです。はじめ、わたしは他の学校の人とうまく活動できるかなと心配していましたが、2日目の人間関係づくりで班の人と楽しく活動できたのでよかったです。

思い出に残ったことの2つ目は、民泊家庭での出来事です。わたしは民泊家庭に泊まるのをずっと前から楽しみにしていました。わたしが泊まるのは、芸北の小川さんの家です。

民泊家庭の方と対面する時、小川さんがどんな人なのかワクワクしました。ホールに民泊家庭の方がずらっと入って来られました。そして、小川さんと初めて話をしました。小川さんはすごく元気で明るく、わたしはうれしくなりました。わたしといっしょに泊まる他の4人の友達も喜んでいました。

小川さんの家に着き、さっそく畑に行ってじゃがいもを掘りました。わたしはじゃがいもを掘ったことがなく、小川さんに掘り方を教えてもらいながらやってみると、だんだん上手に掘れて楽しくなってきました。大きなじゃがいもはほとんどねずみに食べられてしまって、小さいのしか残っていなかったようで、みんな悔しい気持ちになりました。

じゃがいもを掘っている時、突然大きなムカデがあらわれました。わたしはどうなるのかなと思っていたら、小川さんがムカデをくわで「ガシッ。」と押さえてあっという間に息の根を止めていたので、すごいなあと思いました。他にもむらさき色のじゃがいもがあることを知って、わたしたちはびっくりしました。まるでさつまいものようでした。

その後収穫したじゃがいもを洗ってコロケやポテトチップスを作りました。ポテトチップスが、とてもいい具合に揚がっていて、揚げたはしからみんなですまんて食べました。

サクサクでおいしかったです。コロケのほうは、あまりじゃがいもをつぶせていなかったけど、試食してみると、これまたおいしくできていたので安心しました。わたしは家に帰っておうちの人といっしょに作ってみようと思いました。そういえば、コロケを作っているとき、どこからか歌声が聞こえてきました。こんな歌です。「ポテーチポテーチポテポテチー。」です。その歌を聞いて思わずみんな笑ってしまいました。なんてにぎやかなお家なんでしょう！わたしはこの家に来てほんとうによかったなと思いました。

みんなで作ったごはんはとてもおいしかったです。ごはんの中身は、コロケの他に白米やスパゲッティサラダ、おみそ汁がありました。みんなのにぎやかに食べることができて幸せな気分でした。それから小川さんの家はお風呂がとても

広くて、まるで温泉に入っている気分でおどろきました。

わたしは小川さんの家に泊まれて、たくさんのいい思い出ができました。今度はおうちの人といっしょに小川さんの家に行ってみたいと思います。

民泊最高！

民泊体験活動を終えて

川迫小学校 竹下 萌

体験活動 1 日目

夕方 5 時 40 分ごろに電話がかかってきました。私は、6 時に集合だと思っていただけ 5 時だったので、急いで行きました。

荷物を置いて、体験活動が始まりました。まずは夜ご飯を作りました。作るのはカレーライスとポテトサラダです。自分で作ったからとてもおいしかったです。中庭で食べました。量が多かったけど、行く前にお母さんに「民泊でお世話になるから、残さず食べなさい。」と言われたので「頑張って食べよう。」と思いました。

次に暗くなったので花火をしました。線香花火をして結構ずっとパチパチしてきてきれいでした。

花火が終わった後、全然考えていなかった学校紹介を考えました。結局「か・わ・さ・こ」の意味を紹介することになりました。「か」は輝く笑顔、「わ」はワクワクする学校、「さ」はさわやかな挨拶、「こ」はコツコツ読書の意味を考えていると校長先生がアドバイスをくれて、「さ」のさわやかな挨拶をさわやかな挨拶返事と付け加えてくれました。みんなあまり覚えられなかったけど 1 回通して言えたので良かったです。

そして眠たくなかったので女子と教頭先生と寝ました。寝るときに穂佳ちゃんが真ん中で寝たけど寝るときに穂佳ちゃんが悦美那ちゃんをけって落とされていたので大変でした。後、頭と頭がぶつかったりして、結局 2 時ごろに寝ました。

民泊 2 日目

朝起きて、ラジオ体操をしようとして着替えていると、体操服を忘れた人がいて、大変でした。

それから、バスで芸北文化ホールに向かいました。芸北文化ホールに着くと人間関係作りをした後、グループミーティングで班長や副班長を決めたり自己紹介をしたりしました。これからお世話になる山崎秋男さんと対面しました。

自己紹介をして、秋男さんの家に行きました。そしたら、犬がいました。名前はさくらという名前です。犬種はボーダーコリーでした。とてもかわいかったけど元気が良すぎて触れませんでした。さくらは、女子には吠えないらしいのですが、男子には吠えるらしいです。

そして、家に入るととしこさんという人がいました。とても優しくな人でした。家の中は涼しかったです。少し涼んで荷物の整理をした後、少しさくらと遊びました。そのあと夜ご飯を作りました。今日の夜ご飯はお好み焼きでした。生地を伸ばして、キャベツをのっけて卵を焼いて、焼きそばを作りました。ひっく

り返すとき、最初はうまくいきました。でも、最後にひっくり返すときに形が崩れたけど、としこさんが「見た目がぐちゃぐちゃでも味は同じだから大丈夫だよ。」と言ってくれたので安心しました。としこさんは自分の分と悦美那ちゃんの分と穂佳ちゃんの分、さらに私のぶんまで教えてくれたので汗をたくさんかいていました。

お好み焼きを作る前にかき氷を作りました。私はマンゴーにしました。穂佳ちゃんはイチゴマンゴー練乳かき氷にしていました。悦美那ちゃんは私と同じマンゴーにしていました。練乳をかけてもおいしかったです。

そのまた前にもシジミを取りました。山を登って少し歩いたところにシジミがとれる場所がありました。悦美那ちゃんが最初がばがばとっていました。そのとき穂佳ちゃんは「取れないー」と言っていたけど、最後は一番多く取っていました。

そのあと、柏餅を作りました。まずは葉を30枚とってきて、お餅を15個作りました。私は最初葉っぱを洗う係をして最後は2枚の葉っぱで挟む係をしました。「優しく押して、葉と葉をくっつけるんだよ。」ととしこさんが教えてくれました。

夜ご飯は自分で作ったお好み焼きとメロンを食べました。お好み焼きはサックスで買うものやお父さんやお母さんが作ってくれたものよりもとても美味しく感じました。全部食べることはできなかったけどおいしかったです。

お風呂あがりに私たち3人はかるたをし始めました。そのかるたがしまっていた所にUNOというものがありました。気になったのでUNOをやってみることにしました。UNOはカードを7枚持って色が同じ、または同じ数字だったら出せて、残り1枚になったら「ウノ」と言って最初にカードがなくなったら勝ちというゲームです。としこさんに教えてもらいながらゆっくりやりました。最初は私が一番に上がりました。おもしろかったので何回もやりました。また明日もやりたいな、と思いました。

民泊体験活動2日目は、同じグループの人と喋って対面して、シジミを採って、かき氷を作って、お好み焼きを作って食べて、UNOをしてとても楽しかったです。みんな寝るとき、疲れたのかすぐに寝ていました。あしたはウォークラリーがあるので私は早めに寝ました。

民泊3日目

今日は朝早く起きてラジオ体操の前にさくらの散歩に行きました。とても元気がよかったです。そして散歩が終わるとラジオ体操を横一列に整列してしました。ラジオ体操が終わったら、ご飯を食べました。見たときはとてもおいしそうで、フルーツもあっておいしそうでした。量も多くて全部は食べることができなかったけど一口は全部食べてみました。やっぱりおいしかったです。

秋男さんに役場まで送ってもらってバスを待ちました。バスが来て秋男さんと別れた後、ウォークラリーの班に分かれて先生方の指示を待っていました。すると、壬生小の先生から「ウォークラリーは暑いからバスラリーに変更します。」という話があったので、みんながっかりしていました。でも、私は暑いから仕方ないと思いました。バスに乗っていくので2つに分かれていくことにしました。

最初に1班, 2班, 3班がバスで最初に行きました。その後, 4班, 5班が後に出ることになりました。バスラリーはあるチェックポイントを通過してそこにある文字を組み立てるというやり方で, 私は班の中で弁当を持っていく係だったけど, 他のこともメモして, クイズに答えられるようにいろいろなことをメモしました。バスから近くに降ろしてもらっているのにとっても汗が出て, この中を歩いたら熱中症の人が出ると思いました。

みんなが帰ってきた後, 8文字を班ごとで組み立ててある言葉にしました。答えは, 「たのしいみんぱく」でした。当たってうれしかったです。

バスラリーが終わった後秋男さんに迎えに来てもらってお家で綿菓子を作りました。とても甘くておいしかったです。その後プールに入りました。でも私は虫に刺されて液体ウナを塗ったから, プールに入るとものすごくしみるので, 入れませんでした。

穂佳ちゃんと悦美那ちゃんがプールから上がった後, みんなでそばを打ちました。まずは, そば粉から練り始めました。最初は普通の粉だったのに, あとからだんだんかたまりになっていきました。私は, 「そばのにおいがする。」と言って, 穂佳ちゃんと悦美那ちゃんも「そうだね。」と言っていたのに, 秋男さんは, そばのにおいがしないと言っていました。

それから, 豆腐も作りました。学校で作ったときはぐじゃぐじゃで, 食べると苦かったけど, としこさんと作ったときは形もきれいですごく上手にできました。

そして, 夜ご飯を食べました。今日は自分たちが打ったそばと, 豆腐で, そばはいろいろな人が切ったので太いもの, 細すぎるもの, つながっているものなどいろいろな形がありました。味はとてもおいしかったです。

お風呂に入った後, みんなではまってしまった, UNOをしました。そして, みんなバスラリーで疲れていたのか, 早くに寝ました。明日は児童代表あいさつをするので緊張します。

民泊4日目

朝の5時くらいに目が覚めました。悦美那ちゃんと穂佳ちゃんはぐっすり眠っていました。することもないので児童代表のあいさつを小さい声でぶつぶつぶつぶ練習しました。覚えようとしたけど間違えて意味の分からないことを喋ってはいけないと思ったので, メモしたものを一応持っていくことにしました。

6時になったので穂佳ちゃんと悦美那ちゃんを起こしました。とても眠たそうだったけど無理やり起こしました。その後ラジオ体操をして, ご飯を食べました。朝は, 昨日作った豆腐を食べました。売っている豆腐より少し苦くて, 豆の味がしました。私は豆腐が大好きなので, 家でも作ってみたいなと思いました。

今日は時間があるので今日もみんなが超はまっているUNOをしました。秋男さんは私たちが来てから一度も勝ったことがないので「今日こそはいちばんにあがるぞ。」と言っていました。1回目はみんな頑張っていて, 秋男さんは最後に上がってしまいました。2回目もダメだったから秋男さんは悔しそうでした。

時間になったので家を出る前に, 綿菓子を作って食べました。甘くておいしいのが無料で食べることができるのもこれが最後だなと思いました。

とうとうボーダーコリーのさくらとお別れする時が来ました。秋男さんの車に

乗ってさくらに手を振りました。「さくらー。」とみんな悲しそうに手を振りました。さくらも遊び相手がいなくなって寂しそうでした。

さくらとも別れてバスに乗って児童代表のあいさつをどうすればいいのか梅田先生に聞いた後、バスの中で覚えました。アマゴを捕まえる場所は大暮養魚場でした。

開会式が始まって児童代表のあいさつになりました、心臓がバクバク、とても緊張しました。2回か3回くらい紙を見てしまったけど、言い終わったとき、みんながパチパチ拍手をしてくれたので、「よかったのかな。」と思いました。少し、自信みたいなものも付いたような気がしました。壬生小の人や大朝小の人、大暮養魚場の人やほかの学校の先生にまで聞かれたので、学校の朝会の時にもはずかしくならず発表できるかなと思いました。

炭おこしをしたら、靴を履き替えて、アマゴのつかみ取りをしました。アマゴが一斉に流れてきました。私がとった1匹目は梅田先生が見つけてくれたのを取りました。そのあと、同じ班の石橋玲夏ちゃんを手伝ってゲットしました。穂佳ちゃんも7匹くらいとっていたのですごいなと思いました。みんなで協力して取っていたので、いいなと思いました。アマゴをつかみ終わったら、箸でアマゴの体の中をぐりぐりして、はらわたを取り出す作業をしました。最初は、はらわたを見ると気持ち悪かったけど、とるときはすっかりしました。焼くといい匂いがして、少し待つて焼き上がったのを食べたらとてもおいしくて全部食べることができました。また大暮養魚場に行きたいと思いました。

最後は一番来てほしくなかったお別れ式になりました。もう山崎さんの家族と会うのは最後だから、6年生の夢プロで会うくらいしかできないので寂しかったです。秋男さんととしこさんと最後に写真を撮りました。バスに乗ったときみんなで手を振りました。「バイバイ」と言いながらお別れしました。さみしかったです。

学校に着いた後、家に帰りました。とても楽しかったし、秋男さんやとしこさん、さくらに会えたから、最初嫌だった民泊が、もう少し長かったらよかったのになと思いました。いい思い出になりました。

皆さん本当にありがとうございました。

協力する楽しさを学んだ民泊体験活動

八重小学校 時久 絢音

民泊体験活動をする前は、ドキドキとワクワクが混ざって、私はそわそわしていました。開会式の学校しょうかいで、自分のせりふを言うまでずっときんちょうしていました。せりふを言って八重小学校の発表が終わると、とてもスッキリした気持ちになりました。

最初の人間関係作りでのレクリエーションでは、私は、本地・豊平小の人と交流できるか少し不安でした。でも豊平小の清水さんが「やろ。」と話しかけてくれたのでだんだんきんちょうもなくなってきました。この時はドキドキよりもワクワクの方が大きくなっていました。後半の活動班の名前決めの時はとても楽し

くて、自分から話が出来るようになりました。班名はなかなか決まらなくて、多数決で決めることになりました。班での活動では、ウォークラリーの係や、ルートをみんな決めました。どんなところに行くんだろう、どんなミッションがあるんだろうとワクワクしながらルート決めをしました。

しかし、ウォークラリーと川魚のつかみ取りは雨で中止になってしまいました。残念だったけれど、旧八幡小学校の体育館でクイズを解いたり、ミッションに挑戦したりしました。みんなで、森のくまさんを歌ったり、しりとりをしたりして、みんなで仲良く交流することが出来ました。クイズを解くために、湿原と自然館に行きました。そこでめずらしい花や木、カエルやアカショウビンという鳥などを見ました。アカショウビンはとてもきれいな色をしていました。今度は、本物のアカショウビンを見てみたいと思いました。クイズは間違えてしまった問題もありました。メモをしっかりと取っておかなかったからだと思いました。体育館にもどって、今度はわりばしを使ってゲームをしました。みんなで顔を近づけてがんばってやりました。清水さんと「どうやったらできるかね。」と話しながら問題を解きました。わりばしで正方形を作る活動は、みんなで色々考えてわりばしを動かしながらやったので早くできたと思います。

民泊家庭の人との対面式では、失礼なことをしたらどうしようと少し不安でしたが、橋奥さんはやさしい人でよかったです。橋奥さんの家では、まず、おじいちゃんに、はし作りを教えてもらいました。自分のはしを作ることが出来てうれしかったです。それからおかしを作って食べました。おじいちゃんやおばあちゃんに「イシガメもいるよ。」「にわとりもいるよ。明日見に行こうか。」と話しかけてもらって、とてもやさしいおじいちゃんとおばあちゃんだな、と思いました。橋奥さんの家では、生まれたてのたまごを持たせてもらいました。温かかったです。私は夕食をあまり作ったことがなかったけれど、橋奥さんに「切り方が上手だね。」と言われてうれしくて、自信もつきました。自分たちで作ったご飯はおいしかったです。デザートは、おばあちゃんのおいしい手作りヨーグルトを食べました。夜、自分の家以外ではいとこの家にしか泊まったことがなかったのも、なかなかねむれませんでした。

次の日は、私のたん生日だったので、かぼちゃサラダをケーキの形にして祝ってもらいました。他のおうちで祝ってもらったのは初めてだったので思い出に残りました。みんなから「おめでとう。」と言われてうれしかったです。

とっても楽しかったから、お別れするのはさみしかったです。でも色々な体験をさせてもらえて楽しかったです。「初めて」がたくさんあって、とてもいい思い出ができました。民泊体験活動が全部終わって学校に帰る時、楽しかったけれど何だかさみしい気持ちになりました。家に帰ってからは、民泊先でのことを生かして手伝いをがんばりました。後片付けをしている民泊家庭の方の姿を見て、お母さんもがんばっているから自分も手伝いをがんばろうと思いました。

民泊体験活動を通して、班の人と協力してやると、色々な答えが出て楽しいと思いました。これからも、色々な人と協力や助け合いをして、楽しく人と関わって行きたいと思いました。

とても楽しかった民泊体験活動

八重小学校 新谷 璃音奈

開会式が始まった時、私はとてもわくわくしていました。新しい友達や、友達と初めて泊まることなど、とても楽しみにしていたからです。

開会式の時には、学校しょうかいをしました。自分達の学校をしょうかいする時に、自分の担当の発表をするのが少しはずかしかったけれどもうまく発表することが出来ました。豊平小学校も、本地小学校も、とても大きな声でしょうかいをしていてすごいと思いました。

人間関係作りでは、他の学校の友達とレクリエーションをしました。友達ができるかどきどきしたけれど、相手から話しかけて来てくれたのがとてもうれしかったです。レクリエーションのあとは、班でまとまって話し合いをしました。班の名前を決めたり役わり分担をしたりする、グループミーティングです。ウォークラリーは雨で中止になって、役わり分担が生かせなかったけれど話すことで他の学校の人と友達になり、仲も深めることが出来ました。また、話し合いでは自分から意見を言ったり、別の学校の人に声をかけたりすることが出来たのでうれしかったです。

2日目はウォークラリーのミッションに、班のみんなでちょうせんしました。八幡高原自然館にも行きました。4年生の時にも自然館に行き今回で2回目なので、どんな生き物がいるのかは知っていましたが、行ってみてやっぱりすごいところだなと思いました。たくさんの種類のちょうちょうや、木に登っているはく製のクマなど、たくさんの生き物がてん示されているのを見ました。その後、八幡湿原センターの外で、植物などたくさんのことを教えてくださいました。初めて知ることもありました。ミッションの中にあるクイズに向けてしっかりガイドさんの話を聞きました。体育館にもどって、早速クイズを解きました。配られたクイズはなんだか難しそうでした。カエルに関するクイズで、班の中で意見が分かれて少し迷いました。でも、班で協力したので、正解することが出来ました。

私がとても楽しみにしていたのは田舎ぐらし体験です。民泊家庭の方はどんな方々なのかな、とか、どんな野菜を育てているのかななどと考えていました。私は対面式をわくわくしながら待っていました。村竹さんの顔を初めて見たとき、とてもやさしそうな方だなと思いました。着いてまず、野菜の植えかえをしました。その後、おばあさんが「コイがおるんよ。」と教えてくださいましたので、池の中をよく見てみたら中くらいのコイがいました。かわいかったです。水面近くに手を差し出すと、コイが口を出しました。えさをくれるとかんちがいしたのかもしれないなと思いました。お手伝いの後は少し休けいをして、今度はお風呂です。とてもさっぱりしました。この日は夕方にハンバーグを一緒に作りしました。ハンバーグのタネにこしょうをたっぷり入れたり、コーンを入れたりしました。たくさんこしょうを入れたのでからいかもと思ったけれど、全然そんなことはありませんでした。おいしかったです。

二日目になると、お風呂やトイレの場所を覚え、村竹さんに聞かなくてもよくなりました。この日は、ペットボトルで作る風車をたくさん作りました。風車は、

畑にさしてモグラよけに使うのだそうです。野菜を育てる畑のはばが広いから、風車がたくさん必要なのだそうです。私は、がんばってたくさん作って、村竹さんに使ってもらおうと思いました。かんたんに作れますが、火も使うのでそこは村竹さんにやっていただきました。2日目の夕食はみんなでカレーを作りました。カレーは本当においしくてたくさん食べたので、おなかいっぱいになりました。

村竹さんの家には、私たちのほかに高校生がいました。その人は村竹さんの家から高校へ通っているんだそうです。その人とも話をすることができました。話してみるととてもおもしろい人で、その人とも仲良くなることが出来ました。村竹さんは、2階から女の子のぬいぐるみをもってきて、ぬいぐるみを使って歌ったり、しゃべって見せたりしてくれました。とても親切にして下さってよかったです。まだ泊まっていたいなあ、と、民泊体験が終わるのがさみしかったです。

民泊体験活動は、とても楽しくてあっという間でした。自分から相手に話しかけることの大切さや班で協力することの大切さなど、学んだことを生かしてこれからもがんばりたいです。

不安が自信へ

八重小学校 溝下 純菜

交流会の時、私は不安なことがたくさんありました。それは、他の学校の子とちゃんと話せるか、友達になれるかということです。また、初めて会う人が多い班でも、ちゃんと協力できるかということも心配でした。

レクリエーションでは、私は、最初は自分から他の子の所へ行けなかったけれど、他の子から私の方へと来てくれたのでうれしかったです。その姿を見て、私も少しは自分から行ってみようかなという気持ちになりました。そして、レクリエーションが進むにつれて、一人、二人と、相手のほうへ話しかけられるようになりました。班でも話が出来て、友達ができました。だんだんと不安もなくなり、気持ちがすっきりしてきたのが分かりました。

二日目のクイズ大会の時には、もう初日の不安はなくなっていました。班の仲間と協力して出来たように思います。二日目は雨でウォークラリーは出来ませんでしたが、その分レクリエーションをたくさんしました。わりばしを使って、形を作るゲームをしました。難しかったけれど、みんなで協力してどんどん解き進めました。つまづいた時は、みんなで意見を出し合って、答えを出すことが出来ました。だんだんとみんなが寄りそってきている感じがして、きずなが深まったなと思いました。やっぱり、クイズはみんなとした方が早く出来て楽しくていいなと思いました。

私がもう一つ不安に思っていたことがあります。それは、民泊家庭にとまることです。迷わくをかけてしまわないか、会話ができないのではないかと、対面式までとても不安でした。でも、そんな不安はすぐなくなりました。対面式で会った方は、とても優しくな方だったからです。たくさん話しかけてくださったので、最初はとてもきんちょうしていて、返事くらいしかできていなかったのが、会話がはずむようになって、自分からも話せるようになりました。とてもや

よ。」と自然と声かけができるようになりました。ちがう小学校の友達に対してきんちょうしていた昨日がうそのように仲良くなって、お昼ご飯もみんなで仲良く食べました。チェックポイントを回って歩くのはしんどかったけれど、みんなと一緒に歩くから「まだいける！」と思えるようになりました。私達の班は全てのチェックポイントを回ることはできなかったけれど、4つあった班のなかで一番たくさんチェックポイントを回ることができました。みんなで協力すると、いいことが必ずあるんだと感じることができました。

4日目は、魚のつかみ取り体験を行いました。大暮養魚場では、まず魚の見分け方を教えていただきました。背中から腹にかけて赤い点がついているのがアマゴで、ついていないのがヤマメだということが分かりました。また、太平洋に流れていく川にすんでいるのがアマゴで、日本海に流れていく川にすんでいるのがヤマメだということも分かりました。同じ日本の川なのに、すむ川が違くと魚の種類が変わるのがとても不思議でした。大暮養魚場ではこの2種類のほかにレモンサーモンを育てていらっしゃるそうです。今回はヤマメをつかみ取りしました。私達につかまらないように岩のかげやすみっこに逃げるヤマメをつかまえるのは楽しかったです。でもこの後、自分達で食べることを思うと少しかわいそうにも思いました。大暮養魚場の方から「人間が食べているものには全て命があるんだから、感謝して食べるんだよ。命をいただくから、『いただきます。』を言うんだよ。」と言われたことを思いながら、魚の内臓を取り出したり焼いたりしました。この時に言った「いただきます。」は、きっと今まで言っていた「いただきます。」よりも感謝の気持ちが入っていたと思います。いただいたヤマメは骨まで食べられて、とてもおいしかったです。命の大切さを学ぶことができました。

今回の民泊を通して、北広島町には豊かな自然や命があること、私達を支えてくださったり応援して下さったりする地域の方がいることを、今まで以上に感じることができました。また、どんな人とでも協力することで、一人ではできないことができるようになることも分かりました。いつも先生が「協力が大事よ。」と言われていたことの意味も分かりました。学んだことを毎日の生活に生かすこと、そして感謝の気持ちを意識してこれからも高学年として活動しようと思います。

感動と交流の輪が広がった町内宿泊体験活動

八重東小学校 山下 さくら

ずっとずっとわくわくしながら待っていた民泊体験活動が、いよいよ始まりました。

1日目、7月10日火曜日、民泊体験活動の開会式で、私は児童代表としてあいさつをしました。緊張したけれど、「みんなで協力すること」「町内の自然や地域の方々の素晴らしさを感じることに」「自分達で考えて行動すること」の3つの目標をしっかりと言うことができました。夕ご飯は、カレーライスとサラダを作りました。作る時は家庭科で学習した、切る・ゆでるを意識して作りました。家での手伝いとは違ってクラスの人々と協力しながら作ったカレーライスを食べた時、自然と「おいしいね。」と声が出たので嬉しく思いました。今度は、家

で家族のために作ってみようと思います。

2日目、7月11日水曜日の活動で心に残っていることが2つあります。

1つ目は、人間関係づくりです。人間関係づくりでは、芸北小学校や新庄小学校の友達とレクをして仲を深めました。レクをしているうちに、自分の目標だった「人とのコミュニケーションの力をつける」が、話し合いをすることによってきたように思います。他の小学校の友達ともあつという間に仲良くなることができました。また、自分から班長に立候補することができました。うまくみんなをまとめられるか不安でしたが、少しずつできるようになってきたと思います。

2つ目は、田舎ぐらし体験です。私は、岡杖さんの家に泊まらせていただきました。岡杖さんは、私達が出会った時から優しい声でお話をたくさんしてくださったので「民泊先では大丈夫かな。」という不安もすぐなくなりました。夕ご飯は、岡杖さんの家に泊まった友達全員で協力してハンバーグを作りました。作り方が分からなくなったときは自分から岡杖さんに聞いたり本で調べたりして最後まで自分達で作ることができました。夕ご飯を食べた後、岡杖さんのお嫁さんの「ひろポン」さんと一緒に遊びました。ひろポンさんのお話はおもしろくて笑いが止まらなかったです。こうして、岡杖さん家族との仲を深めることができたので良かったです。

3日目、7月12日木曜日に一番心に残ったことは、ウォークラリーです。ウォークラリーは班の人と協力しなければ絶対にゴールすることができません。2日目に決めた班の目標である「係の仕事に責任をもち、班全員で協力して、ゴールを目指そう！」を心がけて行動しました。私は最初、班長としてみんなをまとめることが難しく、先に先に進んでしまったり、歩くスピードを計算したりすることができませんでした。けれど、班のみんなが「大丈夫よ。」「もう少しでチェックポイントじゃない?」「もっと早く歩こう!」と声かけをして支えてくれたので、最後まであきらめずに班長としてみんなのことを考えて行動することができました。とてもたくさん歩いて疲れたけれど、みんなでゴールした時はとても気持ちよかったです。ゴール地点に帰ってきてからしたクイズ大会の時も、班でしっかり話し合い、どの班よりも多く正解することができました。このウォークラリーを通して改めて協力するといいいことがあるんだと思いました。そして班の目標も守ることができて本当に良かったです。

4日目、7月13日金曜日に心に残ったことは2つあります。

1つ目は、川魚のつかみ取り体験です。私はこの日の魚のつかみ取りをとっても楽しみにしていました。しかし、実際につかみ取りをしてみると、自分一人の力では、なかなかヤマメを取ることができませんでした。けれど、同じ班の友達に「私が一緒に取ってあげる。」と言ってもらえて、二人で協力することで1ぴきつかまえることができました。手の中でヤマメがぴちぴち動いていて、命の力強さを感じました。その後、大暮養魚場の方から「命の話」を聞きました。私達は毎日、命をたくさんいただいて生きていること、お父さんお母さんから受け継いだ命が私であることを教えていただきました。その話を聞いた後に食べたヤマメはいつも食べているご飯以上にありがたいもののように感じました。今、命をいただいているんだ、ということ意識して食べたのが初めてだったからだ

思います。これからは、命のありがたさについて感じながらご飯を食べようと思います。

2つ目は、お別れ式です。お別れ式では、3日間お世話になった岡杖さんと別れるのが悲しかったです。岡杖さんは最後の最後まで優しく笑って接してくださいました。またお会いできたらいいなと思いつつながら、3日間の感謝の気持ちを伝えました。北広島町には、優しく温かい、地域の方がおられることを実感することができました。

4日間の活動を振り返ると、本当にどの活動も楽しくてあっという間に過ぎていったように思いました。自分の目標だった「人とのコミュニケーションの力をつける」は達成できました。それは、自分の学校の友達や、芸北・新庄の友達、地域の方と話す中で、自分から話しかけたり話し合いをしたりすることができたからです。そして、その貴重な体験を、自分達のふるさとの北広島町で経験することができ、改めてふるさとの良さを感じました。「私は大人になってもこの北広島町に住んでいたい。」と実感できた宿泊体験活動でした。

北広島町のよさを実感した民泊での田舎暮らし体験

八重東小学校 吉水 希実

「やったあ！今日から民泊体験だ！」と朝から家でわくわくしていました。早く登校の時刻にならないかな、と家の玄関の前でどきどき、そわそわしていました。

私の民泊体験活動での目標は、「他校の5年生と仲良くなること」「みんなと協力すること」「北広島町の自然を知ること」の3つです。「この3つのめあてを達成したい。」そして「楽しく元気に過ごせる3泊4日にしよう。」と思って、家を出発しました。

1日目、夕食作りではカレーを作る担当が私と友達の二人だったため、少し時間がかかってしまいました。けれど、自分達が作ったカレーも、班の友達が作ってくれたサラダもどれも全部おいしかったです。「自分達で協力して作ったご飯はおいしい。」と聞いていましたが、この日の夕ご飯でそれを実感しました。本当においしかったです。夜のレクリエーションでは、いつも仲が良い5年生が、もっと仲良くなったように思います。男子も女子も楽しくてずっと笑い合っていました。5年生の「楽しむ時はしっかり楽しみ、集中する時は全力で集中する。」というところがとてもいいなと思えました。「明日からの民泊体験活動も楽しみだな。」と思いつつながら1日目が終わりました。

2日目、人間関係づくりでは、他校の5年生と一緒にレクリエーションをしたり班の話し合い活動をしたりしました。シート列車では、どうしたら早く進めるのかみんなと相談している時が一番楽しくて、この班のみんなとなら大丈夫だと安心しました。自己紹介では少しきん張していましたが、仲良くなるまでに時間はかかりませんでした。3日目のウォークラリーがとても楽しみになりました。

対面式では、谷本さんとお会いするのでとても楽しみでした。お会いするまで、どのような方なのか全く分からないので、どきどきしていました。しかし、最初

のあいさつの時に、にこにこの笑顔で今日させていただく体験について教えてくださったので、2泊3日間の体験がもっと楽しみになりました。谷本さんのお家に着くと、さっそくニンニクの収穫をさせていただきました。みんなでおそろいのカープタオルを頭に巻いて、気合いを入れて畑に向かいました。畑では、谷本さんが土をほって、そこからニンニクを取り出します。お店で売っているような大きなニンニクが次々と出てきました。外での畑作業はとても暑くて大変だったけれど、みんなで話したり笑ったりしながらすると、あっという間に終わってしまいました。夕ご飯では、谷本さんにアドバイスをさせていただきながら、作りました。自分達で取ったニンニクも使いました。おいしかったです。

3日目、ウォークラリーがありました。昨日話し合ったルートで歩こう、と班のみんなと確認しました。私は、「他校の5年生と仲良くなること」「みんなと協力すること」「北広島町の自然を知ること」の3つのめあてを達成することもがんばろうと思いました。歩き始めてすぐ、自分たちがいったいどこにいるのか分からなくなりました。その時に、だれも友達を責めずにみんなで地図を確認したので、無事にもどってくることができました。その日も暑かったけれど、八幡の町は緑がたくさんあって、なんだかさわやかな空気でした。かげに入ると風が気持ちよくて、班のみんなとゆっくりとお弁当を食べることができました。北広島町にはまだまだ私の知らない自然や場所があるんだと思いました。たくさんみんなと話しながら歩いてつかれたし、チェックポイントの4・5・6は回れなかったけれど、班の友達と協力できて、自然豊かな北広島町を知ることができたので、とても良い経験となりました。

ウォークラリーから帰ってきて谷本さんの家に着くと、なんだか安心しました。1日しか泊まっていけないけれど、谷本さんのお家が私のお家になったのだと思いました。この日は谷本さんに川に連れて行ってもらい、魚つりをしました。大きなハヤがつれました。私は魚つりをしたことがなかったので、あっという間に時間が過ぎていきました。

4日目の川魚つかみ取り体験では、魚の勉強や命の大切さについて学び、その後つかみ取りをしました。生きた魚をさわったことがなかったので、少しドキドキしました。つかみ取りが始まると、泳いでいた魚は私達から逃げたくて、岩のすき間や、すみにかくれてしまいます。思い切って岩のすき間に手を突っ込むと、魚が2～3びきいるのを感じました。つかんでみるとぬるぬるしていて、逃げようと体を動かすのでつかみ続けるのが大変でした。さっきまで泳いでいた魚から内ぞうを取り出すのはかわいそうだと思いました。が、「命をいただくということはありがたいことだ」ということを教えていただいたので、ありがたく命をいただくと思いました。炭火で焼いた魚はおいしくて、命の味がしました。

お別れ式では、谷本さんと最後のお話をしました。話をしていると、これで民泊体験活動も終わってしまうのだなと思いました。悲しい思いがわき上がってきましたが、3泊4日の楽しかったことを思い出して笑顔でお別れしました。

私は、今回初めて親とはなれて過ごしました。最初は少しさみしい気持ちもあったけれど、最後には「まだ帰りたくないな。」と思うようになりました。それは、民泊体験活動の中で、芸北にはたくさん自然があることを知ったり、ウォ

ークラリーで体感したりしたからです。また、人とのかかわりでは、他校の友達とレクリエーションや体験を通して仲良くなることができました。初めて会う友達とも自分から積極的に声をかけたり一緒に活動したりすることで、協力し合える仲間になれることがわかりました。また、民泊家庭の谷本さんのように、地域には私達の活動や学習を支えてくださる心優しい方がいることも実感することができました。私の目標であった「他校の5年生と仲良くなること」「みんなと協力すること」「北広島町の自然を知ること」は、どれも達成することができました。この経験をこれからの学習に生かしたり、地域への感謝の気持ちを表していったりしたいです。

深まる仲 学ぶ心

壬生小学校 山形 一颯

民泊に行く前は、ぼくは本当に民泊が楽しみでした。それは、友達や民泊家庭の方と仲良くなれると思ったからです。でも少しは、不安もありました。それは、四日間もいつもとちがう家で生活できるかということでした。自分の家のルールと民泊家庭のルールはやっぱりちがうだろうなあと思いました。

一日目は、学校に泊まり、みんなでカレーを作ったり、花火をしたりしました。壬生小学校の児童で仲を深めることができたと思います。それは、カレーを協力して作ったり、寝る場所を相談したりして決めることができたからです。

そして、二日目。朝起きて準備をすると芸北文化ホールへ向かいました。最初にした人間関係づくりのおかげで、初めての人ともとても仲良くなりました。3人の先生方がゲームを考えてくださったのおかげです。そして、民泊家庭の方との対面式がありました。自己紹介をして早速、車に乗せてもらい、民泊家庭に連れて行ってもらいました。家につくとジュースとお菓子を出してくださいました。その後、家を案内してもらい、みんなでトランプをしました。そして、晩ご飯作りの手伝いをしました。晩ご飯はとてもおいしかったです。夜にはホテルを見に連れて行ってくださいました。

次の日、朝起きてみると千代田では暑いのに、あまり暑くありませんでした。準備をして1階に下りると朝ごはんができていました。とてもおいしいご飯で、朝からおなかいっぱい食べました。お皿を洗い、みんなで

「行って来ます！」

と言い、3日目の元気なスタートです。近くの八幡高原センターまで歩いて行き、みんなが集合するのを待ちました。みんなが集まると昨日の夜の話を話しました。みんなでわいわい話すと、とても楽しくなりました。3日目の活動は、ウォークラリーだと思っていましたが、なんとバスラリーでした。ちょっとがっかりでしたが、バスラリーでも仲を深めようと心に決めました。キーワードを集めることが楽しみでドキドキしました。バスが出発しました。ポイントに着くごとにだんだん文字が集まってきて、

「これかな。」「あれかもしれない。」

など、みんなで話し合いながらだんだんわかってくるとうれしかったです。高原センターに帰って、みんなでまとめをしたり、クイズをしたりして楽しかったです。

す。民泊家庭の方の家に帰ると、山に連れて行ってくださいました。その水がとてもおいしかったことが忘れられません。そして、お肉を焼いたり、そうめん流しなどをしたりしました。

いよいよ最後の日。あまごのつかみどりでは、いろいろなことを教えてもらいました。魚をつかむときは、自分でどうしたらつかまえられるか工夫しました。お話を聞いて、命の大切さも改めて実感することができました。自分たちでとった魚の串焼きはとてもおいしかったです。

お別れ会の時には、民泊家庭の方にお礼をたくさん言いました。ちょっとさみしかったけれど、ありがとうと心をこめて言いました。

これからも色々な活動を通して、「仲を深める」ことを意識して学校生活を送っていきたいです。

思い出あふれる四日間

壬生小学校 水田 帆風

今日は、いよいよ民泊の日です。一日目は、学校に泊まりました。一番心に残ったのは、カレー作りと夜のつどいです。カレー作りでは、みんなで

「少し味がこいかね。」「もう少し水を減らせばよかったね。」などと言いながら、協力して作ることができました。友達がたくさん声をかけあっていたのでみんな優しいなと思いました。みんなで作ったカレーは特別でなんだか心がホッコリしました。夜のつどいは、静かな学校にキャンドルをもって集まります。火がともされるととてもきれいで、うっとりとしてしまいました。一日目は、こうして過ぎていきました。

次の日。朝食を食べて、芸北文化ホールへ出発しました。あたりは、山と川に囲まれた絶景でした。そこでは、新メンバーとの出会いがありました。最初に、人間関係づくりをしました。そして、いよいよ民泊家庭の方との対面がありました。私は、

「どんな方だろう？」と、とても緊張していました。でも、お世話になる「きっかわさん」の家の方はとてもやさしそうで、メガネをかけていたこともあり、私のおばあちゃんにそっくりでした。そのとき、きっかわさんは、

「敬語を使わんでええよ。『おばちゃん』って呼んでね。」と言ってくれました。

車で、二十分行き、おばちゃんの家に着くと、なにやらはり紙がはってありました。そこには、

『ご飯は、自分で作る』と書かれていました。他にも

- ・テレビは見ない
- ・ふとんはじぶんでしく
- ・ふとんの上で遊ばない
- ・自分のものは、自分できちんと整理する などが書かれていました。私は、今までそんなにきちっとしていなかったので「大変だなあ。」と思いました。

さて、次は、二階の探さくです。部屋には一つずつ花の名前が書いてありまし

た。「つばき」「さくら」「うめ」などです。おばちゃんが、
「ここは、みんながとまる部屋だよ。」
と説明してくれました。そして、
「さあ、そろそろ夕ご飯の時間だから、下におりよう。私が総かんとくじゃけい、
みんな指示をしっかりと聞いてね。」
と言いました。この日のごはんは、コロッケです。私とくるちゃんが切る係で、
まなちゃんがあげる係で、おばちゃんがかんとくさんです。～30分後～
「いただきまーす。」

みんなで作ったコロッケは、とてもおいしいなと思いました。この日は、友達と
のおしゃべりがとてもはずみました。

三日目。この日は、ウォークラリーです。しかし、あまりの暑さで、バスラリ
ーに変更されました。私は、写真係でした。きれいな花の写真などをとりました。
クイズにも参加しました。楽しく活動することができました。民泊家庭の家に帰
ると、すぐにおばちゃんに

「ごはんの準備をするよ～。」
と言われました。私は、「えっ、もう？早いなあ。」と思いました。でも、この日
は、バスラリーで疲れていたのかすぐに寝てしまいました。

四日目。今日は、あまごのつかみどりです。私は、魚が大好きなのでとてもう
れしかったです。あまごは、少しぬるっとしていてすばやかかったです。とった魚
を焼くと、とてもほくほくしておいしかったです。そして、いよいよ民泊家
庭の方とお別れです。私は、さみしい気持ちもありましたが、家族とも会いた
いというふくぎつな気持ちでした。

私は、この民泊で「人に甘えてばかりいないで、自分でできることは自分で
する。お手伝いをもきちっとする。」ということ学びました。民泊家庭のみなさ
ん、この三日間本当にありがとうございました。

民泊体験活動を終えて

壬生小学校 石橋 怜夏

私は、民泊体験活動を通して、みんなと協力して何かをやりとげるといふ力が
自分に少しついたと思います。

私は、民泊に行く前に、「民泊家庭の人がこわい人だったらどうしよう。」と思
っていました。また、民泊家庭の家で、ちゃんと生活できるのかという不安もあ
りました。でも楽しみもありました。それは、ふだんとは別の所で寝とまりする
ことです。また、ふだん一緒に遊ばない人たちと話したりすることもいいことだ
と思って「民泊体験がんばろう」という気持ちになりました。

とうとう民泊が始まりました。七月十七日（火）～二十日（金）までです。一
日目は、学校にとまりました。おふろ代わりにプールに行き、カレーを作りました。
それから、だがし屋に行っておやつを買いました。夜は線香花火大会をして
から寝ました。

二日目。とてもおいしいパンをいただいて食べました。そして、バスに乗って

芸北文化ホールへ出発です。到着すると人間関係づくりをしました。そして、いよいよ民泊家庭の方との対面式です。「やったー！」と思いました。私は、民泊家庭の方に

「よろしく申し上げます！」

と元気よくあいさつしました。車で家に向かう途中も、工事中で信号が変わらないのが待ち遠しい気持ちでした。到着するとまず荷物を置いて、ほうれん草の出荷の手伝いをしました。袋づめが終わると、新しいほうれん草の収穫もしました。その日のご飯は、ほうれん草鍋。とてもおいしかったです。

三日目。車で集合場所へ行き、みんなで集まるとバスラリーをしました。そして、みんなでの活動が終わると、車で民泊家庭へ。その日は、川遊びとじゃがいもほりをしました。

「でっかいね。」「こんどはちっちゃい！」

など、じゃがいもほりもとても楽しかったです。そして、晩ご飯は、肉じゃがでした。民泊家庭での一日目も二日目も、自分たちが手伝ったものがすぐに晩ご飯で食べられるのはすごいなと思いました。

四日目。朝ごはんを食べたら、荷物の片づけをしました。今日で、終わりだと思いました。みんなでの活動は、あまごのつかみどり体験でした。まず、あまごの稚魚を見ました。とても小さかったです。次に、広島レモンサーモンの養殖のところに行きました。えさをあげると、一斉に集まりました。つかみ取りでは3びきつかまえました。焼いて食べると、とてもおいしかったです。ここでも、命の大切さや命のつながりを学びました。

最後の終わりの会は、民泊家庭の方とお別れだったので、とてもさみしかったです。いろいろなことを通して、「みんなでやりとげる」体験ができたと思います。

このような民泊体験は、これからもずっと続いてほしいと思いました。

民泊体験活動を通して成長できた自分

本地小学校 高橋 楓

私は、活動前は、台風が来ていて心配だったけど、他の学校の人といっしょに活動したり泊まったりできるので、楽しみでした。

活動したことの中で、心に残ったことを三つ書きます。

一つ目は、民宿での活動です。民宿では、玉ねぎの収かくをして根や葉を取ることや、夕食作りなどを行いました。その中で、特に楽しかったことは、夕食を作ったことです。わたし達は、ジャガイモのコロッケを作りました。安永彩葉ちゃんと、八重小学校のれいかちゃん、はるかちゃんといっしょに作りました。室屋のおばあちゃんが、作り方をていねいに教えてくださいました。夕食作りはどれも楽しかったのですが、その中でも、ゆでたジャガイモをつぶしたことが一番楽しかったです。今度、家でご飯を作るときには、ぜひやってみようと思いました。

二つ目は、学校で行ったぼうさい教室のことです。ぼうさい教室では、消ぼう

しよの方に、これまでに起きたいろいろなさい害について教えてもらい、その後、さい害のときに役に立つものの作り方を教えてもらいました。新聞紙でスリッパを作る方法と、たんかをかん単に作る方法です。たんかを作るとき、布が落ちないのかなと心配したけれど、落ちなかったのでびっくりしました。もし、災害が起きて、だれかがけがをしていたら、自分たちの身の回りにあるものを使って役に立つものが作れるんだな、と思いました。

三つ目は、人間関係づくりです。人間関係づくりでは、いろいろなレクリエーションをしました。じゃんけんをして、あいこだったら、ハイタッチをするレクリエーションや、進化じゃんけんというレクリエーションをしました。また、先生が手をたたいた数だけ集まるというレクリエーションもしました。本地小学校の友達ばかり集まってしまわないかと心配でしたが、わたしがいるグループでは、八重小や豊平小の友達とも集まることができました。

活動を振り返って、次の二つのことを考えました。

一つ目は、他の学校の知らない友達とも仲良くできてよかったということです。仲良くすることで、たくさんコミュニケーションがとれたので、これからも他の知らない学校の友達と出会っても、自分からしっかり話しかけていきたいと思います。

二つ目は、反省点で、女子だけでなく、男子とも仲良くなることができればよかったなということです。仲良くできた女子の友達は、たくさんいましたが、男子は、あまりいませんでした。6年生になると、他の学校の人と関わる場面がもっと多くなると思うので、女子だけでなく、男子ともたくさん話ができるようになりたいです。

この体験活動を通して、たくさんのことを学び成長することができました。これからは、自分から他の人に積極的に話しかけていくこと、家で洗濯をしたりご飯を作ったりするなどしっかり手伝いをするをがんばっていきたいと思います。

多くのことを学んだ民泊体験活動

本地小学校 瀧本 優太

ぼくは、体験活動前は、アマゴのつかみ取りやウォークラリーがとても楽しみでした。また、民泊家庭での手伝いや家の方との話などもしっかりしたいと思いました。それから、活動班の友達とも仲よくなりたいと思っていました。

実際に活動してみて、心に残ったことが二つあります。

一つ目は、人間関係づくりでいろいろなレクリエーションをし、みんなと少しずつ友達になれたことです。初めて班になり、八重小学校、豊平小学校の友達と出会いました。最初は、いろいろなゲームをしました。進化じゃんけんや、たん誕生日順にならぶなどのゲームを行いました。そのあとに、班の名前などを決めました。班名は、「ビッグ・スマイル」班になりました。その後、班のみんなで昼食を食べました。まだ、このときは、みんなで話をするのがあまりなくて、シーンとなっていました。もう少ししゃべって食べてもいいのにな、と思いました。昼食の後には、班長や副班長を決めたり、ウォークラリーで進むルートを決めたり

しました。班の名前を決めるときには、みんなしっかり考えていいなあと思いました。

二つ目は、民泊家庭でのジャガイモ掘りです。民泊家庭にとまった最初の日、畑でジャガイモほりをしました。1か所から5～6個ぐらいジャガイモが出てくるかな、と思っていましたが、ちょっと引っぱっただけで、もう、5～6個出てきました。土間君がとても大きなジャガイモを掘っていて、すごいなと思いました。それから、どんどん掘っていくと、20個ぐらいも出てきて、三輪車がジャガイモでいっぱいになりました。中には、いいイモばかりではなく、くさっているものもありましたが、岡杖さんが、「いっぱいとれたね。」と言ってくださってうれしかったです。その後、みんなでジャガイモを洗いました。最後に、土で汚れた軍手や長ぐつを洗いました。次の日、掘ったジャガイモを使って、みんなでポテトチップスを作りました。

ウォークラリーとアマゴのつかみ取りは、とても楽しみにしていたのですが、雨のためどちらもできなくなってしまい、残念でした。

活動を終えてよかったことは、民泊家庭でしっかり手伝いできたことです。最初に決めたルールをしっかり守って活動することができました。また、いろいろな活動の中で、他の学校の友達もたくさんできました。反省点は、けんかが少しあったので、これからは、お互いのことをよく考えて行動していきたいと思いました。

この民泊体験活動を通して多くのことを学びました。これらのことをもとに、これからは、家でも手伝いを積極的に行うこと、自分から動くこと、そして、自分でできることは自分でするようにしていくことを頑張っていきたいです。めざす自分になれるように、これからも努力していきます。

これからも成長できる自分をめざして

本地小学校 広藤 克弥

ぼくは、活動する前は、不安なところがたくさんありました。友達ができるだろうか、すべての活動がちゃんとできるだろうか、などいろいろと考えました。でも、民宿に泊まることは、とても楽しみでした。

ぼくが心に残った活動内容は、三つあります。

一つ目は、人間関係づくりです。人間関係づくりでは、いろいろな友達をつくったり、仲良くしたりするためのレクリエーションを行いました。八重小学校と本地小学校の人といっしょにゲームをしたり自己紹介をしたりしました。しかし、やっても、思ったよりはずかしくて、こんなことで友達ができるのだろうか、とても不安になりました。そんな中で、八重小学校の人が話しかけてくれて、とてもうれしかったです。このあと、班活動を行いました。いっしょになった班の友達はとてもいい人ばかりで、なじみやすく、ほっとしました。

二つ目は、民宿での活動です。民宿では、牛を見たり、ジャガイモを掘ったりしました。また、犬の散歩をするなど、自分の家では、なかなかできないことを

たくさんさせてもらいました。初めてコイにえさをやらせてもらえたことが、うれしかったです。夜には、花火もさせてもらいました。いろいろな花火がありましたが、その中で、ぼくたちは、ロケット花火をするときに一番集中しました。花火は、じゅう声みたいな音がして、今でもとても心に残っています。あとから、ほかの班の人に聞いたのですが、花火をしたのは、ぼくたちだけだったようで、ちょっとうれしくなりました。

三つ目は、クイズをしたり、自然館に行ったりしたことです。三日目のウォークラリーは、雨で中止になって残念でした。でも、自然館に行ったり、それをもとに班でクイズを解いたりすることができました。まず、自然館に行って、げい北にすむ鳥の話の話を聞きました。アカショウビンという鳥のはく製があって、とてもきれいでした。また、湿地について、トレッキングガイドの人にも話を聞きました。そして、聞いたことや見たことをもとに、午後からは、いろいろな生き物についてのクイズを班の人といっしょに解きました。そのとき、班のみんなの意見を出し合うなど、班の人といっばい協力できて、とてもうれしかったです。

これらの活動を通して、自分が成長できたなど思ったことは、班のみんなとたくさん話ができただけです。ぼくは、話をするだけで、まわりの友達を少しは明るくすることができたと思っています。

がんばればよかったなど思ったことは、他の班の八重小や豊平小の人ともっと話をするということです。あまり話をするのができなかつたので、もう少したくさん話をするのができたらよかったな、と思っています。

これから先も、たくさん知らない人と会うことがあると思います。だから、自分から積極的に話をして、たくさんを学習し、もっともっと成長していきたいです。

みんなで思い出作り

豊平小学校 滝口 くるみ

私は、この民泊体験活動でたくさん思い出ができました。その中でも、特に心に残っていることを3つ書きます。

1つ目は、最初のレクリエーションです。私は、他の学校の人に、なかなか自分から話しかけられずにいました。そして、レクリエーションの最後は「進化じゃんけん」という遊びでした。最初はなかなか自分から話しかけられなかつた私も、相手の方から話しかけてくれたことで勇気がわいてきて、自分から話しかけることができるようになりました。とても楽しかったし、うれしかったです。

2つ目は、その後の田舎ぐらし体験です。民泊家庭の倉田さんに、玉ねぎ、じゃがいも、らっきょうを収かくさせてもらいました。玉ねぎは玉の部分だけとれなかつたり、らっきょうはとれてもまだ土の中に残っていたりして、農業はすごく大変なんだなと感じました。

食事作りでは、収かくした玉ねぎも入れてスコッチエッグを作りました。スコッチエッグの中に入れるうずらたまごのからがなかなかむけなかつたり、強くおしすぎてからがたまごの中に入ったりして、とても難しかったです。でも最後に

はこつをつかみ、だんだん速くむけるようになりました。ほとんどが初めてで、ハプニングがたくさんあったけど、みんなでたくさん笑ったり考えたりしてとても楽しかったです。おかげで次の日の田舎ぐらし体験がとても楽しみにになりました。

3つ目は、もと八幡小学校の体育館で活動したことです。

二日目は、ザーザーという音で目が覚めました。外は雨が降っているようでした。朝ごはんを食べて、昨日用意しておいた服に着がえて、もと八幡小学校の体育館へ行きました。そこで、先生の話の聞いたり、ガイドさんの話を聞いたりしました。それから、ウォークラリーが雨で中止になってしまったので、ウォークラリーでするはずだったミッションにちょうせんしました。ミッション1の文字をならべかえる問題では、私は10文字全部使わなければならないと思っていたけど、わくが8文字だったので、なるほどなと思いました。私はずっと考えていたけど、みんなは「みんぱく……」までできていたのですごいなと思いました。

その後、ガイドさんからわりばしを使ったクイズを出してもらいました。わりばしを24本使って9つの正方形のます目を作り、その中からわりばしを何本かぬいて、決められた数の正方形を作るゲームです。一番最後の3つの正方形を作るという課題がとてもむずかしかったです。8本しかぬいてはいけないので、ああでもない、こうでもないと言いながら、とてもなやみました。ガイドさんからアドバイスをもらってたくさん考えました。とうとう最後まで解決することができず、答えを教えてもらって、頭の中のもやもやがすっきりしました。たくさん考えておもしろかったです。

この民泊体験では、たくさん体験をすることができました。また、他の学校の5年生と交流して一緒に笑って、とても楽しい民泊体験学習でした。経験したことを、これから必要なときに生かせるようにがんばりたいです。

ふるさとへの思い

豊平小学校 武田 萌風

私は民泊で吉川サワコさんのお家に泊めていただきました。サワコさんは、笑顔がすてき！料理がとくい・おいしい！こまめに気がついてくれるやさしいおばあちゃんでした。

サワコさん家で一番思い出に残っていることは、サワコさんと家のとなりの畑へ一緒に行き、とても大きな畑から、ジャガイモやトマト、きゅうりをたくさんしゅうかくしたことです。その食材で作った、みそ汁、目玉焼き、はね付きぎょうざ、ポテトサラダ、いももち、玉子汁そうめん。初めて食べたものがたくさんありました。

その中でも、一緒に料理した「いももち」が一番心に残っています。

☆サワコさんメニュー いももちレシピ（8人分）☆

じゃがいも（小）・・・28こ しょうゆ・・・大さじ4 さとう・・・大さじ2
バター・・・大さじ4

① じゃがいもをすいはんきでむします。

- ② ジャがいものかわをむいて、つぶして、コロッケのような形にします。
- ③ しょうゆとさとうをまぜ、たれを作ります。
- ④ フライパンにバターを多めにしいて、丸めたじゃがいもをならべます。
- ⑤ きつね色になったら、反対の面も焼きます。
- ⑥ ③のたれをかけてかんせいです。

サワコさんから

「じゃがいものかわがのこらないように取ってね。」

とか、

「あついときは、水か冷水に手をつけながらやるといいよ。」

「バターはフライパンにまんべんなくぬるといいよ。そうすると、いも全体にバターがつくからね。」

など、工夫したらよいことをたくさん教えてもらいました。

私は、サワコさんと作りたいももちがわすれられず、家に帰ってから、すぐにお母さんにその話をしました。すると、お母さんが

「そんなにおいしかったのなら、お母さんにも教えて。」

と言ったので、一緒に作ってみることにしました。サワコさんの手作りいももちに近づけるように、材料の分量をていねいに量りました。出来上がったいももちは、ふわふわ・もちもち、あのやみつきになるおいしさでした。お父さん、お母さん、お兄ちゃんも

「おいしい。」

と言ってくれました。

私は、またサワコさんに会って、いろいろなことを教えてもらいです。それに、自分の畑でしゅうかくした野菜でおいしいごはんを作る。そんな自然を生かしたくらしっていいなと思いました。

私は、この民泊体験で、北広島町にもっと興味をもちました。

みんなと協力！民泊体験！

豊平小学校 山岡 ゆいか

私が特に心に残ったことは、倉田さんの家にとまらせてもらったことです。その中でも、特に心に残ったことが2つあります。

1つ目は、食事作りです。1日目の食事は、畑でしゅうかくしたばかりのらっきょう、玉ねぎ、じゃがいもを使って作りました。初めて体験することがたくさんあったので、ハプニングの連続でした。それに、きんちょうしていたので、「これやってくれん？」

と声をかけられてからすることが多かったです。でも、倉田さんと仲良くなれたので、2日目からは、きんちょう感もなくなり、自分たちから

「何かすることはありますか。」

と聞いて行動できるようになりました。

みんなと協力してやると、すごく楽しかったです。それと同時に、自分たちで作ると、家の人の大変さがよく分かりました。これからは、少しずつでもいいの

で手伝っていきたいなと思いました。

3日間で一番おいしかったのは、2日目の夜の食事です。ゆで野菜やしゃぶしゃぶなどを食べました。私の家では、一人ずつ食べることが多いので、みんなでわいわいと食べると、とってもおいしく感じました。

2つ目は、倉田さんとお別れをする時のことです。私は、他の人の家にとまらせてもらったのは初めてだったので、とても楽しかったです。友だちもいっしょだったので、その楽しさは何倍にもなりました。いっしょに野菜のしゅうかくをしたり、食事作りをしたりした思い出がたくさん頭にうかんできて、3日間お世話になった倉田さんと別れるのはとってもつらかったです。つらかったけれど、最後だったから、私は笑顔ですごすということを意識しました。とうとうむかえのバスが来ました。バスに乗ると、私は3日間のお礼の気持ちをこめて、めいっぱい手をふりました。倉田さんが見えなくなるまで手をふりました。また会いに来たいなと思いました。

台風のことであって、活動が予定通りにはできなかったけれど、とても良い経験になったと思います。私は、この民泊体験でいろいろなことを学び、人とふれ合い、自分がとても成長できたように思います。どの活動も大変でしたが、題名にもあるように、みんなと協力すると難しいことでも大変なことでものりこえられるんだなあと思いました。初日には、きんちょうしてあまり話せなかった人たちにも、だんだんと自分から進んで声をかけられるようになりました。そうすると、とても楽しく話したり活動したりすることができました。

振り返ってみると、民泊体験は本当にあっという間だったけれど、みんなとたくさん協力して、思いきり楽しむことができました。

6年生

夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう



北広島ふるさと夢プロジェクト事業（6年生）実施要項

～「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」～

- 1 日時 平成30年10月17日（水） 9:15～14:00
 場所 千代田運動公園（総合体育館 多目的広場）
 〒 731-1514 広島県山県郡北広島町壬生 500 TEL 0826-72-8822

- 2 目的
 ○植松電機 植松努代表取締役の講演を通して、夢をもち実現することのすばらしさを学ぶ。
 ○ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高める。
 ○ロケット製作・発射の共同体験を通して、町内の児童間の親睦を図る。

3 対象児童 小学校6年生

	芸北小	大朝小	新庄小	川迫小	八重小	八重東小	壬生小	本地小	豊平小	計
男子	2	4	10	1	10	10	13	5	7	62
女子	8	7	6	4	14	13	13	2	13	80
児童数	10	11	16	5	24	23	26	7	20	142
引率者	2	3	2	2	3	2	4	2	3	23
計	12	14	18	7	27	25	30	9	23	165

※養護教諭は、担当学校の中より1名が参加する。（大朝小学校－〔上川養護教諭〕）

4 日程

(1) 各学校より会場への集合

事前に、今一度バス会社と出発時刻等を確認する。

- ①芸北小〔8:15 発〕→ <小型バスー総企バス> (児童ー10名)
- ②豊平小〔8:20 発〕→ <中型バスー豊平交通> (児童ー20名)
- ③大朝小〔8:10 発〕→新庄小〔8:25〕→川迫小〔8:40〕→ <大型バスー大朝交通> (児童ー32名)
- ④八重小〔8:30 発〕→ <中型バスー八重タクシー> (児童ー24名)
- ⑤本地小〔8:20 発〕→八重東小〔8:30〕→ <大型バスー八重タクシー> (児童ー30名)
- ⑥壬生小〔8:30 発〕→ <大型バスー八重タクシー> (児童ー26名)

(2) 全体会・活動の流れ

各学校よりバスで総合体育館に到着後、2階の観覧席に荷物を置いて（講演会側の前・後ろは空けておくー地域・保護者の方が参加されることを考えて）、1階のフロアに集合する。

※ 芸北小学校は、到着時刻が遅くなることも考えられるために、入り口付近は芸北小のために空けておく。

早く到着した学校は、できるだけ奥より詰めるようにする。

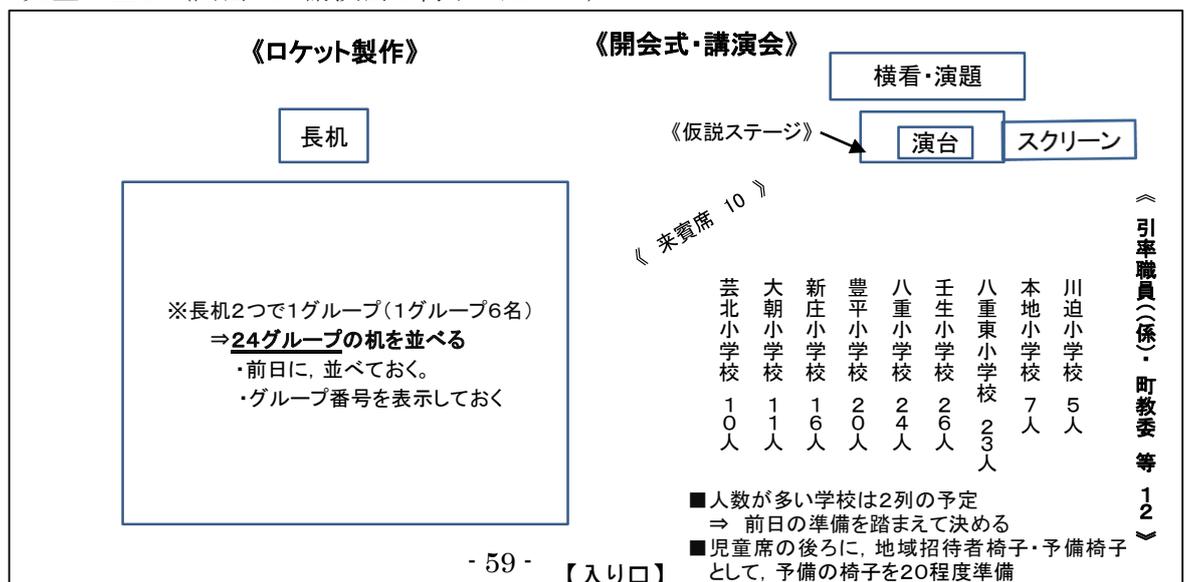
□持参した屋内シューズに履き替えて二階へ（くつはビニール袋等へ入れて持っておく）

□何も持たずに1階へ。講演会はメモなどを取らない。お茶もフロアでは飲めない。

◆開会行事（9:15～9:30）ー総合体育館（講演・ロケット作りも）

<司会進行ー梅田教諭（川迫小） サブー山本教諭（豊平小）>

児童の並び（開会式・講演会は椅子に座って）



【流れ】

- ①開会挨拶（応援隊副隊長－教育長） ※町教委が連絡調整をする。
- ②校長代表挨拶（担当校長代表〔佐々木校長－豊平小〕）※講師紹介を含む
- ③来賓紹介（司会進行）

◆植松電機の植松努代表取締役講演会（9：35～10：35）

メモなどは取らずに、開会式の並びで講演を聞く。

◆休憩（10：35～10：45）※トイレ、水分補給等

◆ロケット製作（10：45～11：50）

ロケット製作をするグループ机に移動して、指導を受けて製作（グループ表示あり）。
児童の準備物は特になし。

職員は、自分の学校の児童を中心に関わり、必要に応じて製作の支援をする。

製作後、講師を囲んで記念写真－体育館の二階より撮影（町教委）

※昼食・休憩・移動－学校ごとにアリーナの二階で弁当を食べる。

引率職員（できれば各学校1名）は、早めに弁当を食べて事前指導を受けて、講師のロケット点検に協力する。

◆ロケットの打ち上げ（12：50～13：50）－多目的広場－

帰りのことを考え、荷物を持って指示される場所に集合する。

職員は、安全に発射できるように児童に指導したり役割分担の仕事をしたりする。（児童は4グループに分かれる予定）

◆閉会行事（13：50～14：00）－多目的広場－

児童の並びは、開会式と同じ。

①閉会挨拶・謝辞（担当校長代表〔川上校長－大朝小〕）

②児童代表挨拶〔新庄小学校〕

※植松電機(株) 植松先生に最後に挨拶をしていただく（事前に確認する）

※閉会式後、バスのグループごとに学校へ帰る。14：00に千代田運動公園を出発する。

◎雨天のために、ロケットの発射ができなかった場合は、弁当を食べて13：15に千代田運動公園を出発して、学校へ帰る。学校で、後日ロケットを発射する。

5 会場・準備物等

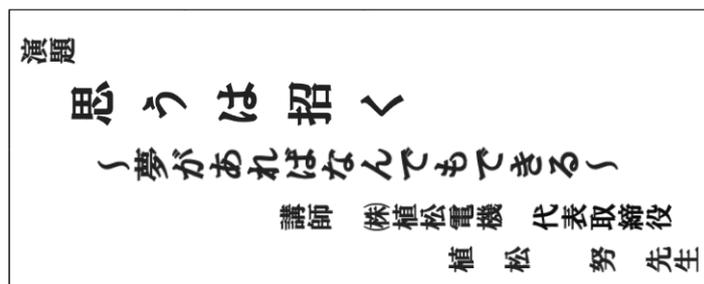
(1) 開会式・講演会

【町教委】

- 横看板



○演題



○演台（パソコンを手元で操作しながら話すためのパソコンの置ける演台）

○プロジェクター ○スクリーン ○パソコンと接続出来る音響用スピーカー など
パソコン（マック）は持参される。

植松電機が指定している内容を確認して、準備をする。〔昨年度と同様〕

【千代田運動公園総合体育館】

- 音響装置（マイク・スピーカー 等） ○椅子－180脚程度

(2) ロケット製作

【町教委】

○長机－55台

製作に使用する道具が6人1セットで用意されているため、6人が向かい合わせで1つのグループ（2台で1グループ）になるようにテーブルを配置する。

＜24グループ⇒48台 準備用の机も必要なので、最低で55台程度必要＞
⇒体育館には、使えるテーブルが15台位しかない（昨年度）ので、40台ぐらい、他より持って来る必要がある。

○マジック〔油性〕

■黒142本－児童一人に一本 <町教委が購入>

【学校】

○グループ分けの確認

「共有フォルダ」内に、9月28日(金)までに各学校の児童名を入力する。

※事前に児童に、グループ番号を知らせておく。

○マジック〔油性〕を持参（色が6色等セットになっているもの）

■6色等がセットになっているマジック〔油性〕

－グループごと最低で2セット、全体で最低48セットは必要。

共有フォルダに、学校ごとの持参セット数が入力されているので、その数だけ持参する。

※箱・一本ごとに学校名を書いておく。

(3) ロケットの打ち上げ

【町教委】

○安全な発射、多目的広場の安全確保のためのサポート員（10人程度）

○スイッチを乗せる台（4台）を、運動公園（陸上競技場）より借りる。

(4) 予算・会計

【町教委】

《植松電機》

○モデルロケットキット代（消費税別）

小学生以下・・・2800円／1人 142人分

○交通費、宿泊費は別途支払い。交通費については実費ではなく、会社規定の往復料金が必要。（後日にまとめて請求あり）

《その他》

児童輸送バス代・会場利用料等

6 報告書作成について

○実施後に、ねらいが達成できたか評価したり児童の思いを把握したりするために、アンケートを実施する。アンケートのデータは、「共有フォルダ」の中にある。

【実施後のアンケートについて】

学校ごとに集計して、グラフ作成に関わるデータについては、とりあえず10月31日(水)までに「共有フォルダ」に入力する（11月に発行する夢プロ便りの資料とするため）。他の内容（自由記述）については、11月末までに入力完了する（講演会の内容、講演会・活動の様子も、11月末を期限の目安とする）。

○次の内容の報告書を作成する。

【内容】プロジェクトのねらい、実施計画

講演会の内容、ロケット実施の様子

＜写真入りで、概要をまとめる＞

児童の作文＜各学校は人数に応じて、3人程度（少人数の学校は学校の判断で）

－400字原稿用紙で3枚程度＞

実施後のアンケート結果

【分担等】

◆プロジェクトのねらい（豊平小）

- ◆講演会の内容－A4で、2～4枚程度（川迫小）
講演会・活動の様子－写真入り，A4で4枚程度にまとめる。（豊平小）
- ◆記録用写真撮影－担当校（豊平小）でも写真を撮るが，参加者が決定したら事務局より個別に，全体用をお願いするかもしれない。
- ◆作文（各学校）
学校ごとに指導して作成－作文をパソコン入力して，「共有フォルダ」に入れる。
※様式は，「共有フォルダ」の中にある。12月末を目安に入力を終える。

7 役割分担など

担当学校を中心に分担。

- 植松電機・講演講師との渉外（町教委・豊平小＜佐々木＞）
- 講師の昼食 弁当〔2食〕の準備（町教委）
- バス会社と連携（町教委・豊平小＜佐々木＞）
※詳細が決定したら，各バスグループで確認の連絡をバス会社にする。
- 教育委員会届出・保護者通知（各学校）
→保護者通知は，9月21日（金）を目安に学校ごとに配布する（データは共有フォルダ内）。
- 会計（町教育委員会）
- 全体会に関わって
 - ◆全体会進行＜梅田教諭（川迫小学校） サブー山本教諭（豊平小）＞
※事前に進行細案を提示
 - ◆開会式挨拶＜佐々木校長〔豊平小〕＞
 - ◆閉会挨拶・謝辞＜川上校長〔大朝小〕＞
 - ◆児童代表挨拶（閉会）＜新庄小＞
- 全体総括・事務局（豊平小－佐々木）＜夢プロ便り－（豊平小）＞

8 その他

- プロジェクトの趣旨を踏まえて，児童に目的意識を持って参加させるようにするとともに，安全な実施ができるように事前に各学校で指導をしておく。服装は通常の通学服など。筆記用具・弁当・お茶・屋内シューズ・靴を入れるビニール袋・名札・天気によっては雨具＜傘と，あればカッパ・レインコート等＞を持参する。
- 保護者は，2階席で講演会を視聴することができる（保護者通知にもそのことを記載）。参加者数等の集約は必要ない。ロケット打ち上げも参観自由（スタンド）であるが，ロケット製作に関わっては，フロアへの立ち入りを遠慮してもらう。
- 特別な支援を必要とする児童，健康に留意する必要がある児童については，事前に保護者と連携をしておくとともに，引率職員体制について配慮する。
- 前日の16日（火）16時より，会場準備等を町教委職員といっしょにするので，各学校1名以上の職員が参加する。町教委は，午後より準備をされている。
⇒依頼の文書は，町教委より送付される。
- 参加する養護教諭については，想定される擦り傷などに対応できるように，応急措置ができる準備をしておく。

6年生

夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう



北広島ふるさと夢プロジェクト事業（6年生）実施要項

～「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」～

- 1 日時 平成30年10月17日（水） 9:15～14:00
 場所 千代田運動公園（総合体育館 多目的広場）
 〒 731-1514 広島県山県郡北広島町壬生 500 TEL 0826-72-8822

- 2 目的
 ○植松電機 植松努代表取締役の講演を通して、夢をもち実現することのすばらしさを学ぶ。
 ○ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高める。
 ○ロケット製作・発射の共同体験を通して、町内の児童間の親睦を図る。

3 対象児童 小学校6年生

	芸北小	大朝小	新庄小	川迫小	八重小	八重東小	壬生小	本地小	豊平小	計
男子	2	4	10	1	10	10	13	5	7	62
女子	8	7	6	4	14	13	13	2	13	80
児童数	10	11	16	5	24	23	26	7	20	142
引率者	2	3	2	2	3	2	4	2	3	23
計	12	14	18	7	27	25	30	9	23	165

※養護教諭は、担当学校の中より1名が参加する。（大朝小学校－〔上川養護教諭〕）

4 日程

(1) 各学校より会場への集合

事前に、今一度バス会社と出発時刻等を確認する。

- ①芸北小〔8:15 発〕→ <小型バスー総企バス> (児童ー10名)
- ②豊平小〔8:20 発〕→ <中型バスー豊平交通> (児童ー20名)
- ③大朝小〔8:10 発〕→新庄小〔8:25〕→川迫小〔8:40〕→ <大型バスー大朝交通> (児童ー32名)
- ④八重小〔8:30 発〕→ <中型バスー八重タクシー> (児童ー24名)
- ⑤本地小〔8:20 発〕→八重東小〔8:30〕→ <大型バスー八重タクシー> (児童ー30名)
- ⑥壬生小〔8:30 発〕→ <大型バスー八重タクシー> (児童ー26名)

(2) 全体会・活動の流れ

各学校よりバスで総合体育館に到着後、2階の観覧席に荷物を置いて（講演会側の前・後ろは空けておくー地域・保護者の方が参加されることを考えて）、1階のフロアに集合する。

※ 芸北小学校は、到着時刻が遅くなることも考えられるために、入り口付近は芸北小のために空けておく。

早く到着した学校は、できるだけ奥より詰めるようにする。

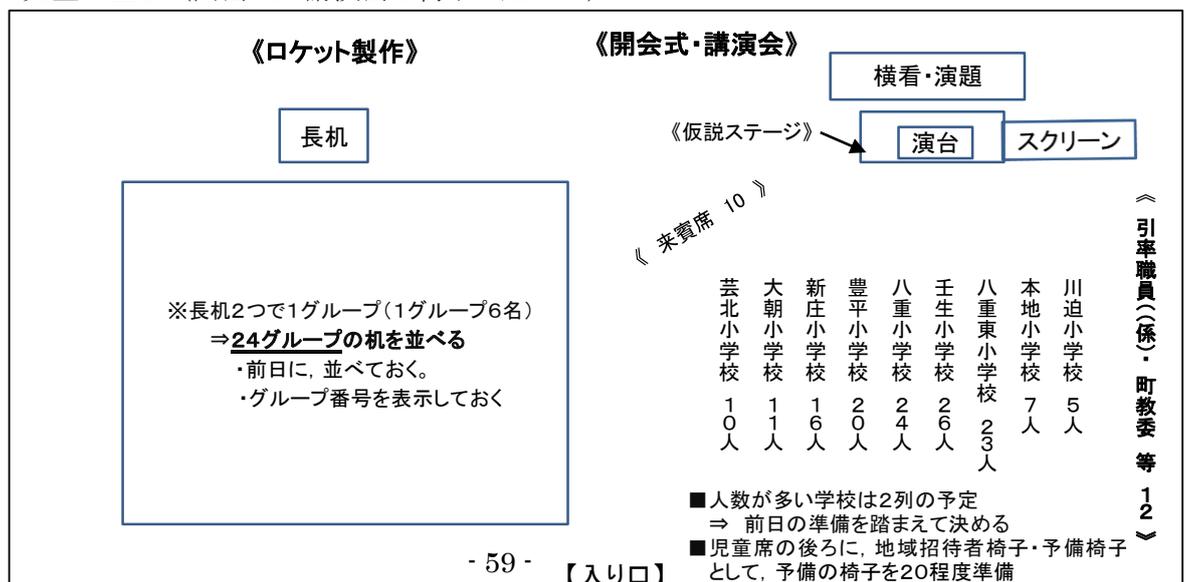
□持参した屋内シューズに履き替えて二階へ（くつはビニール袋等へ入れて持っておく）

□何も持たずに1階へ。講演会はメモなどを取らない。お茶もフロアでは飲めない。

◆開会行事（9:15～9:30）ー総合体育館（講演・ロケット作りも）

<司会進行ー梅田教諭（川迫小） サブー山本教諭（豊平小）>

児童の並び（開会式・講演会は椅子に座って）



【流れ】

- ①開会挨拶（応援隊副隊長－教育長） ※町教委が連絡調整をする。
- ②校長代表挨拶（担当校長代表〔佐々木校長－豊平小〕）※講師紹介を含む
- ③来賓紹介（司会進行）

◆植松電機の植松努代表取締役講演会（9：35～10：35）

メモなどは取らずに、開会式の並びで講演を聞く。

◆休憩（10：35～10：45）※トイレ、水分補給等

◆ロケット製作（10：45～11：50）

ロケット製作をするグループ机に移動して、指導を受けて製作（グループ表示あり）。
児童の準備物は特になし。

職員は、自分の学校の児童を中心に関わり、必要に応じて製作の支援をする。

製作後、講師を囲んで記念写真－体育館の二階より撮影（町教委）

※昼食・休憩・移動－学校ごとにアリーナの二階で弁当を食べる。

引率職員（できれば各学校1名）は、早めに弁当を食べて事前指導を受けて、講師のロケット点検に協力する。

◆ロケットの打ち上げ（12：50～13：50）－多目的広場－

帰りのことを考え、荷物を持って指示される場所に集合する。

職員は、安全に発射できるように児童に指導したり役割分担の仕事をしたりする。（児童は4グループに分かれる予定）

◆閉会行事（13：50～14：00）－多目的広場－

児童の並びは、開会式と同じ。

①閉会挨拶・謝辞（担当校長代表〔川上校長－大朝小〕）

②児童代表挨拶〔新庄小学校〕

※植松電機(株) 植松先生に最後に挨拶をしていただく（事前に確認する）

※閉会式後、バスのグループごとに学校へ帰る。14：00に千代田運動公園を出発する。

◎雨天のために、ロケットの発射ができなかった場合は、弁当を食べて13：15に千代田運動公園を出発して、学校へ帰る。学校で、後日ロケットを発射する。

5 会場・準備物等

(1) 開会式・講演会

【町教委】

- 横看板

北広島ふるさと夢プロジェクト（小6）

夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう

○演題

演題

思いは招く

「夢があればなんでもできる」

講師 株式会社植松電機 代表取締役
植松 努 先生

○演台（パソコンを手元で操作しながら話すためのパソコンの置ける演台）

○プロジェクター ○スクリーン ○パソコンと接続出来る音響用スピーカー など
パソコン（マック）は持参される。

植松電機が指定している内容を確認して、準備をする。〔昨年度と同様〕

【千代田運動公園総合体育館】

- 音響装置（マイク・スピーカー 等）
- 椅子－180脚程度

(2) ロケット製作

【町教委】

○長机－55台

製作に使用する道具が6人1セットで用意されているため、6人が向かい合わせで1つのグループ(2台で1グループ)になるようにテーブルを配置する。

＜24グループ⇒48台 準備用の机も必要なので、最低で55台程度必要＞
⇒体育館には、使えるテーブルが15台位しかない(昨年度)ので、40台ぐらい、他より持って来る必要がある。

○マジック〔油性〕

■黒142本－児童一人に一本 <町教委が購入>

【学校】

○グループ分けの確認

「共有フォルダ」内に、9月28日(金)までに各学校の児童名を入力する。

※事前に児童に、グループ番号を知らせておく。

○マジック〔油性〕を持参(色が6色等セットになっているもの)

■6色等がセットになっているマジック〔油性〕

－グループごと最低で2セット、全体で最低48セットは必要。

共有フォルダに、学校ごとの持参セット数が入力されているので、その数だけ持参する。

※箱・一本ごとに学校名を書いておく。

(3) ロケットの打ち上げ

【町教委】

○安全な発射、多目的広場の安全確保のためのサポート員(10人程度)

○スイッチを乗せる台(4台)を、運動公園(陸上競技場)より借りる。

(4) 予算・会計

【町教委】

《植松電機》

○モデルロケットキット代(消費税別)

小学生以下・・・2800円/1人 142人分

○交通費、宿泊費は別途支払い。交通費については実費ではなく、会社規定の往復料金が必要。(後日にまとめて請求あり)

《その他》

児童輸送バス代・会場利用料等

6 報告書作成について

○実施後に、ねらいが達成できたか評価したり児童の思いを把握したりするために、アンケートを実施する。アンケートのデータは、「共有フォルダ」の中にある。

【実施後のアンケートについて】

学校ごとに集計して、グラフ作成に関わるデータについては、とりあえず10月31日(水)までに「共有フォルダ」に入力する(11月に発行する夢プロ便りの資料とするため)。他の内容(自由記述)については、11月末までに入力完了する(講演会の内容、講演会・活動の様子も、11月末を期限の目安とする)。

○次の内容の報告書を作成する。

【内容】プロジェクトのねらい、実施計画

講演会の内容、ロケット実施の様子

＜写真入りで、概要をまとめる＞

児童の作文<各学校は人数に応じて、3人程度(少人数の学校は学校の判断で)

－400字原稿用紙で3枚程度>

実施後のアンケート結果

【分担等】

◆プロジェクトのねらい(豊平小)

- ◆講演会の内容－A4で、2～4枚程度（川迫小）
講演会・活動の様子－写真入り，A4で4枚程度にまとめる。（豊平小）
- ◆記録用写真撮影－担当校（豊平小）でも写真を撮るが，参加者が決定したら事務局より個別に，全体用をお願いするかもしれない。
- ◆作文（各学校）
学校ごとに指導して作成－作文をパソコン入力して，「共有フォルダ」に入れる。
※様式は，「共有フォルダ」の中にある。12月末を目安に入力を終える。

7 役割分担など

担当学校を中心に分担。

- 植松電機・講演講師との渉外（町教委・豊平小＜佐々木＞）
- 講師の昼食 弁当〔2食〕の準備（町教委）
- バス会社と連携（町教委・豊平小＜佐々木＞）
※詳細が決定したら，各バスグループで確認の連絡をバス会社にする。
- 教育委員会届出・保護者通知（各学校）
→保護者通知は，9月21日（金）を目安に学校ごとに配布する（データは共有フォルダ内）。
- 会計（町教育委員会）
- 全体会に関わって
 - ◆全体会進行＜梅田教諭（川迫小学校） サブー山本教諭（豊平小）＞
※事前に進行細案を提示
 - ◆開会式挨拶＜佐々木校長〔豊平小〕＞
 - ◆閉会挨拶・謝辞＜川上校長〔大朝小〕＞
 - ◆児童代表挨拶（閉会）＜新庄小＞
- 全体総括・事務局（豊平小－佐々木）＜夢プロ便り－（豊平小）＞

8 その他

- プロジェクトの趣旨を踏まえて，児童に目的意識を持って参加させるようにするとともに，安全な実施ができるように事前に各学校で指導をしておく。服装は通常の通学服など。筆記用具・弁当・お茶・屋内シューズ・靴を入れるビニール袋・名札・天気によっては雨具＜傘と，あればカッパ・レインコート等＞を持参する。
- 保護者は，2階席で講演会を視聴することができる（保護者通知にもそのことを記載）。参加者数等の集約は必要ない。ロケット打ち上げも参観自由（スタンド）であるが，ロケット製作に関わっては，フロアへの立ち入りを遠慮してもらう。
- 特別な支援を必要とする児童，健康に留意する必要がある児童については，事前に保護者と連携をしておくとともに，引率職員体制について配慮する。
- 前日の16日（火）16時より，会場準備等を町教委職員といっしょにするので，各学校1名以上の職員が参加する。町教委は，午後より準備をされている。
⇒依頼の文書は，町教委より送付される。
- 参加する養護教諭については，想定される擦り傷などに対応できるように，応急措置ができる準備をしておく。

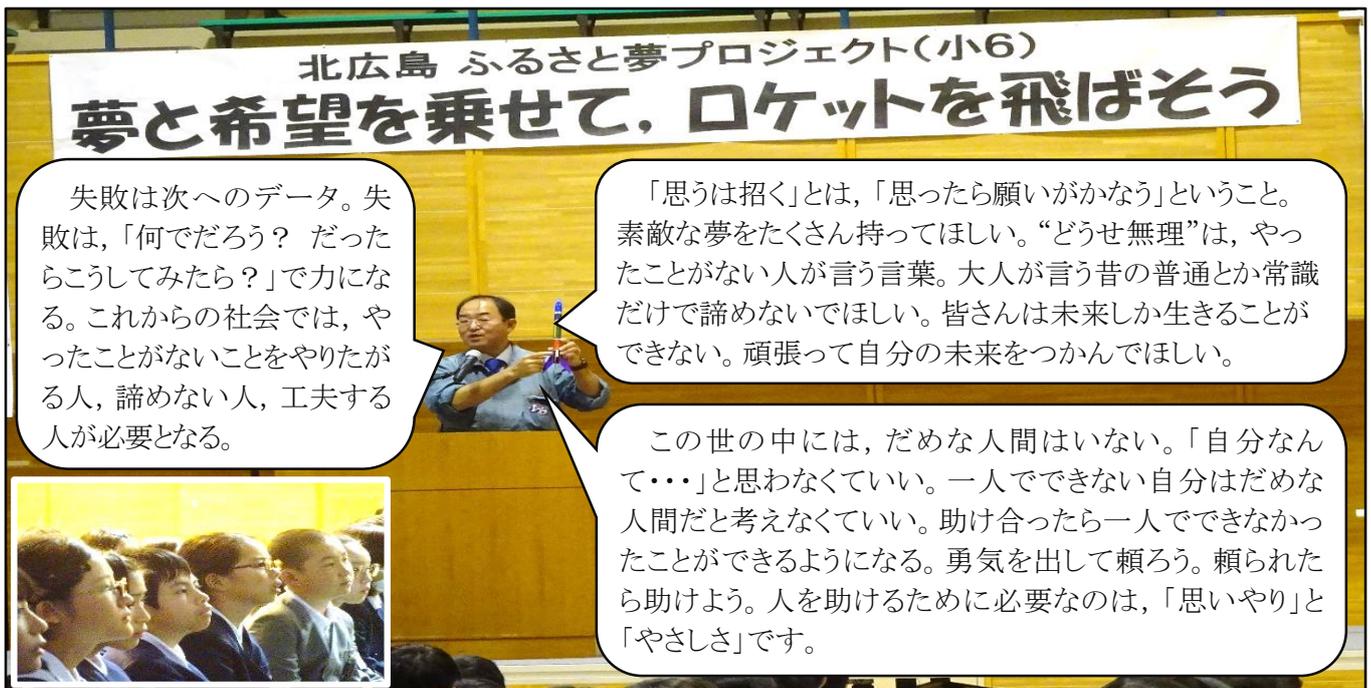
「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」の活動の様子

10月17日（木）に、晴天に恵まれ町内9小学校の6年生を対象とした北広島ふるさと夢プロジェクト「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」（町内9小学校6年生）が実施されました。

この事業は、「北海道の植松電機の代表取締役の植松努先生を招いて、夢と希望を持って努力することの大切さについて講演をしていただくとともに、モデルロケットを製作し発射させる」という、夢と感動がいっぱいのプロジェクトです。植松先生は、テレビ等で話題となった『リアル下町ロケット』のモデルの方として知られ、本町で進めている「将来のふるさとを担う人材を育てる」というこの事業の趣旨に共感され、今年で4年続けて本町に来ていただいています。夢と感動の1日となった児童の活動の様子について紹介します。

【植松先生の講演 演題「思うは招く～夢があれば、なんでもできる～」】

植松先生は、小さい頃からの夢を実現するために、ロケット製作とは関係のない小さな会社で（夢と希望を持って）ロケット作りを始められ、その後、幾多の困難を乗り越え、偉業ともいえる宇宙を飛ぶロケット開発を成し遂げられました。自分の半生を振り返って、笑いあり感動あり、そして人としての生き方について考えさせられる、楽しく分かりやすい心に残る話をされました。



北広島 ふるさと夢プロジェクト(小6)
夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう

失敗は次へのデータ。失敗は、「何でだろう？ だったらこうしてみたら？」で力になる。これからの社会では、やったことがないことをやりたがる人、諦めない人、工夫する人が必要となる。

「思うは招く」とは、「思ったら願いがかなう」ということ。素敵な夢をたくさん持ってほしい。“どうせ無理”は、やったことがない人が言う言葉。大人が言う昔の普通とか常識だけで諦めないでほしい。皆さんは未来しか生きることができない。頑張って自分の未来をつかんでほしい。

この世の中には、だめな人間はいない。「自分なんて・・・」と思わなくていい。一人ではできない自分はだめな人間だと考えなくていい。助け合ったら一人ではできなかったことができるようになる。勇気を出して頼ろう。頼られたら助けよう。人を助けるために必要なのは、「思いやり」と「やさしさ」です。



【ロケット製作】

植松先生からは、製作にかかわって細かな指導はありません。各自が説明書を読んで製作します。頼りになるのは一緒になっているグループの他の学校の仲間です。失敗をしたら、もちろん植松先生がサポートされます。

各学校で取り組んでいる主体的な学びの成果でしょうか。植松先生からは、「今年の子供は先生に頼ることなく、説明図をよく読んでグループで協力して作っていて素晴らしいですね。」と評価していただきました。ロケットが形になるにつれて、笑顔も多くなり、学校を越えた友達の輪を広げることができました。

グループごとで、自己紹介をした後、ロケットの製作に取り組みました。

植松先生は、全体を見て回られ温かく見守り支援をしてくださいました。

パラシュートを折って作ったり、ロケットの中に入れてたりするのが、難しそうでした。時間とともに、他の学校の児童と協力し合う姿が多く見られました。



期待と不安の中で始まったロケット製作。最後に、マジックで絵や模様を描いて完成させました。児童には、やり遂げた満足感が感じられました。

植松先生は、昼食の時間も惜しんで児童のロケットの点検をしてくださいました。

【ロケットの打ち上げ】

期待を込めてカウントダウンの大合唱。「3，2，1，発射」の合図で、次々に打ち上げられるロケット。発射ボタンを押すとロケットエンジン（火薬）に火がつき，0.3秒で時速200kmを突破し高さ100mに届きます。大歓声と拍手が沸きあがりました。子供たちは目を輝かせながら自分のロケットの軌跡を追っていました。子供たちは，基本的には宇宙へ打ち上げられるものと同様の仕組みのロケットを作り，打ち上げを成功させたという夢と感動の体験は，一生忘れることはないでしょう。



講演会 宇宙へとぼせるロケットづくり「思うは招く」 ～夢があればなんでもできる～

講師 植松電機株式会社 代表取締役 植松 努 先生



今日はみんなに会えることをとても楽しみにして来ました。なぜ楽しみかっていうと、これからみんなはすごいことをする人達だからです。すてきな大人になる人達なのです。こんな人とこれから僕は知り合いになるのです。それが僕はとても嬉しいです。僕は、北広島町によんでもらって今年で4年目になります。実はこうやってよんでくれている地域は日本で5カ所くらいしかありません。ものすごく大変なことだと思います。こうしてよんでもらってうれしいし、今朝も広島までわざわざ迎えに来てくれて、帰り

も送ってくれる、こんな嬉しいことはないです。

今日はみんなに、小さなロケットを作ってもらいます。小さいけれど実際に宇宙で使うことのできる本物の実験装置です。今日みんなが作るロケットは、作った人が発射ボタンを押すと、0.3秒後に時速200kmを突破します。ものすごい勢いで飛んで行った後、空で自動的にパラシュートが開き、ゆっくりふわふわ戻ってきます。戻ってきた後も、ロケットエンジンを取り替えると何回でも飛ばすことができます。1回で終わりではないのです。その取り替え用のロケットエンジンはインターネットのアマゾンで1本500円で買うことができます。今日みんなは本物のロケットを作って飛ばせる人になります。ロケットというものすごく難しいような、ものすごくお金がかかるような、「無理だよ」とあきらめてしまうようなことだと思ってしまうかもしれませんが、そんな、大人があきらめていることができるわけですから、実際みんなはすごい人なのです。今日は、思っている以上に何でもできるんだということを知って自信をもってほしいです。

今からみんなに私の話を聞いてもらいます。話の内容は、夢の話だったり、仕事の話だったり、色々あるわけですが、今日、私が話をする本当の目的は、私の仲間を探すことです。仲間になってくれる人がいたらいいなと思います。

今からみんなに聞いてもらう話はとっても簡単な話です。「思うは招く」という話です。中学生のとき母が教えてくれた「思ったらそうなるよ。」という意味です。ものすごい成績が悪かった僕が、ロケットや飛行機を作りたいと言ったときに、母さんは「あんたには無理だ。」とは言いませんでした。「思うがままにできるよ。」というめっちゃめっちゃ気休めの言葉を言ってくれました。でもそのお陰で僕は色々なことができるようになったのです。大好きな言葉です。夢があったらなんでもできるのです。だから、みんなには素敵な夢をたくさん持ってほしいと思います。夢を1個にしようとしたら、どれにしようか迷ってしまいます。でも夢はたくさん持ってほしいと思います。

はじめに自己紹介をします。僕は、「植松努」と言います。1966年8月17日に生まれました。だから、僕は今52歳です。僕は8月17日生まれですから星占い的にはしし座になります。僕は結構気に入っています。でも、今日の「めざましテレビ」の星占いでは、まさかの12位です。ちょっとへこみました。もうひとつ、動物占いというものやってみました。僕は、おおかみかな、チーターかなと思ってやってみた結果は、コアラでした。

高校を卒業した後、ある漫画に夢中になってしまい、車に夢中になります。さんざん改造して峠で走

り回りました。そして、電柱にぶつかったり崖から落ちたりしました。危ないことをしたものです。今、52歳でそれをやるとかなり問題があります。そこで、僕は今、これにお世話になっています。やっと買うことができました。プレステーション4です。(映像で車のレースが出る)めっちゃめっちゃリアルです。これを操縦できます。僕はこのゲームに思いっきりはまってしまったのです。それで、普通のコントローラーでは満足できなくなり、全部自分で作ってしまいました。これで家でも真剣に練習ができるようになりました。

ほかにも好きなことがあります。僕は小さい頃からいろんなアニメの影響をうけてきました。「未来少年コナン」のお話からは社会のことや仕事のことや仲間のことを学んだ気がします。「銀河鉄道999」からは、命のことや自由のことを学んだ気がします。そして、みんなは知らないと思うけど「キャシャーン」や「デビルマン」や「タイガーマスク」からは一人ぼっちな負けぬ勇気を教えてもらったんです。デビルマンはもともとは人間なんです。人間の世界に悪魔が出てくるんです。そして、人間はどんどんやられちゃうんです。そこで、大切な人を守るために自ら悪魔になって悪魔と戦ったんです。がんばったんです。でも肝心の人間から「おまえ、悪魔じゃん。」と嫌われるんです。悲しすぎますよね。でも、彼は頑張ったんです。そんな姿が僕の力になりました。だから、僕は、52歳でもやっぱりアニメが好きなんです。今は見るものが多すぎて困ります。でも昔と違って録画ができるから大丈夫です。というわけで、僕はアニメ専門チャンネルとももちろん契約しちゃいました。

でも、僕にはもっと好きなものがあります。これがないと生きていくことができないほど好きなものです。それはカツカレーです。日本中どこに行ってもこれを食べます。

という僕なんですけど、僕は、今、北海道の真ん中の赤平という町に住んでいます。この町では、昔、石炭を掘っていたのですが、今はもうなくなり、6万人いた人口が1万1千人にまで減ってしまったんです。仕事がないんです。大人は、「田舎だからしょうがない。」「仕事がないからしょうがない。」とぼやくんです。でもぼやいてもどうにもならない。仕事がなかったら作ることができるのです。だから僕は、この町で生まれて初めて会社を経営しています。まさか自分が会社を作るとは思っていませんでした。今から18年前、ここは何もなかったんです。気がついたら僕は株式会社の社長という仕事をしているんです。今は社長ですが昔の僕はこんな感じだったんです。(写真見せながら)お姉ちゃんのお下がりの赤い靴をはいています。この僕がどっかにいます。ここにいます。みんなが明らかにラジオ体操をしているのに、僕は一人で地面に絵を描いています。そばで母さんが寂しそうに僕を見つめています。こんな僕の小学校の頃の通知表には「集団行動ができない。」「落ち着きがない。」「忘れ物が多い。」と書かれていました。服がいつも後ろ前なんです。そんな僕に先生がつけてくれたニックネームが「ちよろまつ君」でした。いつも落ち着きがなくてちよろちよろしていると言われたんです。でもそんな「ちよろまつ君」を大切にしてくれたのが祖父です。大きくて優しいじいちゃんです。いつも一緒に遊んでくれました。

3才の時、祖父と一緒にアポロ宇宙船が月に着陸したテレビを見ました。でも、僕はテレビの画面を覚えていないんです。僕が覚えているのは大好きなじいちゃんが見たこともない笑顔で喜んでいることなんです。その笑顔がもう一回見たかったんです。だから、本屋に行って、飛行機やロケットの本を手にとりました。すると、じいちゃんが喜ぶんです。大きい手でなでてくれました。僕は幸せでした。だから僕は繰り返すんです。そして、僕は、飛行機や宇宙やロケットが大好きな人間になりました。でも僕が好きなじいちゃんは、6歳の時に家で突然倒れてしまったんです。まわりの大人が大騒ぎしていました。次に僕がじいちゃんに出会ったときには、じいちゃんの顔には白い布がかけてありました。僕はじいちゃんに会えなくなってしまったんです。僕はたくさん泣きました。でも僕はじいちゃんのお顔をずっと見たかったんです。だから、僕は好きな飛行機やロケットがやめられなかったんです。すると、僕は、ロケットが作れるようになってしまいました。ロケットは売っていません。だから、いくらお金

があっても買えないんです。ところが、作ることはできるのです。僕らは、年に何度か打ち上げています。こんな感じです。(映像を見せる) ロケットが飛んでいくと毎回泣くほど嬉しいです。自分達で作ったロケットを飛ばすとき、失敗するかもしれない、と不安になります。でも、無事に飛んだら涙が出ます。不安の向こうに喜びがあるのです。ほんのちょっとの勇気を出して失敗したらどうしようという気持ちに踏み込んでみてください。

今、僕は、ロケットが作れるようになりました。でも、ちょっと前までロケットは危ないから作っちゃいけないと思ってあきらめていました。でもそんな時、北海道大学の長田先生に巡り会ったんです。長田先生は、全く新しいロケットエンジンを研究していたんです。そんな人は世界に何人もいません。そんな人に出会っちゃいました。これは運命だと思いました。以来僕は信じるようになったんです。人の出会いには意味がある。今日出会った人には意味があるんです。本当なら出会わなかったんですよ。でも出会っちゃったんです。出会っちゃったってことはもう記憶は消すことはできません。もうこれからは出会う前と違う時間が発生したんです。それは今までとはちがう未来が始まったということです。人生は、いくらでも再生できるからね。いくらでも再スタートできるからね。会ったことのない人に会ったり、本に出会ったりすることでみんなの人生は変わるからね。だから、どんどん前に進んで行ってほしいと思います。

長田先生は、素晴らしい研究をしているんだけど、誰もその研究を信じないんです。だから、国も大学も1円のお金も出しません。彼はあきらめようとしたんです。僕はお金がないからお金をあげることにはできません。でも僕は小さいころから工作が大好きです。部品が作れるかもしれません。「先生手伝えるかな。」と言ったら、「一緒にやろう。」と言ってくれたんです。僕と先生は助け合ったんです。なぜなら二人とも足りなかったからです。僕にはロケットの知識が足りませんでした。先生にはものを作る力が足りなかったんです。実は、人は足りないからこそ助け合うことができるのです。だから足りない自分やできない自分をだめだと思えることにはないのです。だめじゃないんです。なぜなら、この世には赤ちゃんからお年寄りまでいろんな人がいるからです。赤ちゃんに学校のテストを受けさせたら何点とれるでしょうか。0点ですよ。じゃあ、赤ちゃんはだめですか？お年寄りに運動会で走らせたならあまり走れないかもしれないね。だめですか？だめじゃないですね。考えてみてください。この世にはいろんな人がいるからこそ、テストで何点とらないとだめだとか、こういうことができなかつたらだめ人間という規準はどこにもないのです。だから、この世にはだめな人間は一人もいないということなんです。すべての人が大切な人なんです。ということで、みんなはもう自分なんて・・・と思わなくていいのです。もし、思っちゃったら、「ちがうちがう、この世にはだめな人はいないんだ。」と思ってほしいんです。でもね、僕はずっとずっと自分はだめだと思っていたのです。なぜなら、小さい頃から僕はまわりの大人に「ちゃんとしなさい。」とさんざん言われたからです。これはね、あまりにも曖昧で危険な言葉だったんです。僕はちゃんとしようとしたんです。人に迷惑をかけないようにしようと頑張ったのです。何でも一人でちゃんとやるぞと思っちゃったんです。ところが一人ではできないことがいっぱいあったのです。そんなとき、一人でできない自分はだめな人間なんだと思ってしまったのです。誰にも相談できなくなりました。だから、誰かが心配してくれていても、「大丈夫、大丈夫、気にしないで。」と言うようになりました。ひとりぼっちになってしまったんです。とても悲しいことですが、一人ではいくら頑張ったって一人分のことしかできません。夢が叶わないのも、問題が解決しないのもなんとかしようと頑張っちゃうからなんです。でもそれでは一人分のことしかできない。助け合ったらいいんです。一人ではできなかったことができるようになるのです。だから、みんなは勇気を出して頼ったらいいんだよ。頼られたら助けてあげてください。いいかっこうをしようとか自分の強いところを見せようなんて思わなくていいんです。困っていることや弱いことを話してみるのです。すると助けてくれる人が必ずいるから。力を合わせてできなかったことができるようになるのです。人を助けるって割と簡単なんだ

よ。人を助けるのに一番大事なことはまずは観察なんです。よく見ればいいんです。そして予測をするのです。自分ならどうするか考えてみるのです。自分の力でできることはいくらでもあるのです。実はね、人を助けるために必要なことは、思いやりと優しさなんです。これさえあれば必ずみんなは人の役にたてる人になれるから。思いやりと優しさを大事にしてほしいと思います。そうやって、僕たちも足りないところを補って助け合ったら、ロケットを丸ごと作って打ち上げることができるようになったのです。人工衛星も丸ごと作れて、宇宙で動いてしまいました。そして僕の会社には、大きなタワーが建っています。宇宙と同じ無重力状態を作り出す実験装置です。実はドイツの会社とアメリカのNASAと僕の会社にしかないのです。世界で3つしかないのです。売ってなかったから作るようになりました。誰も作ったことがないので大変でした。設計図も参考書もない、大学の先生も知らないのです。このとき、僕は、新しいものは誰も知らないから作り方を絶対に教えてもらえないことに気づきました。どんなすごい大学に行っても、教科書に書いてあること、教えてもらえることは、全部昔のことなんです。これからの未来のことは誰も知らないから教えることができないのです。そして、残念だけど、僕もみんなもこれからの未来を生きることしかできないのです。じゃあ、どうやったら僕らはこれからの未来に足を踏み込めることができるのでしょうか。とっても簡単です。自分で考えて自分で試せばいいのです。だけど、自分で考えて自分で試すことはなかなか難しいです。それどころか、ばかにされたりからかわれたりするんです。でも大丈夫。自分を信じればいいんです。みんなも気づいていると思うけど、人と人とは100%分かり合うことはできないんです。どんなに仲が良くたって、家族だって100%分かり合うことはないのです。ということは、みんなの周りのみんな以外の人間は、全員みんなのことを分かっていないということなんです。ということは、みんなのことを分かっていない人間がどう思おうがどう考えようが気にしないでいいのです。自分のことは自分が一番知っているからね。人からどう思われるか悩まなくていいんです。大事なことは自分を信じることです。

北海道の北の方に常呂町という小さな町があります。この町は1988年にアジアで初めてのあるスポーツ施設を作りました。カーリング場です。東京にも大阪にもないものをこの町は作ってしまったんです。4900人の町ですよ。こんなことをやったからいろんなことを言われたようです。「そんなもん作ってどうするの?」「意味なくね?」「誰が使うの?」さんざん言われたそうです。でもその後どうなったかという、この前のオリンピックでカーリング女子大活躍しました。このうちの4人が常呂町の人です。常呂町は4900人しかいないのに、オリンピック選手が異常に多いのです。なぜならば誰もやらないことをやったからです。

僕らも誰もやらない宇宙の仕事をやりました。だから、苦勞もしたし、いろんなことも言われました。でも僕の会社には、宇宙開発実験機構が毎月実験にやってきます。お陰で僕はいろんな研究者と仲良くなれました。夢みたくです。実はね、奇跡を呼ぶキーワードがあるのです。これさえ知っていればみんなも奇跡を起こせるからね。それは、「違う」は「すてき」です。なぜなら、見分けがつかない同じものがあつたら安く見られます。ちょっと違ったらすてきと思われるのです。だから、他の人とちょっと違う自分もすてきだからね。自分のことを大好きでいてほしいなと思います。

僕たちは今宇宙の仕事をしていますが、本当の仕事は宇宙の仕事じゃないんです。僕たちの本当の仕事はリサイクルに使用するマグネットを作ることです。古くなった建物を壊したがるれきを分別するとき、マグネットを使います。広島県でも僕らのマグネットが随分動いているのです。僕らが作っているマグネットは競争相手がいないんです。日本中で僕らの製品が使われます。世界でも使われます。マグネットの作り方はきっとみんなも知っているのではないかなと思います。マグネットの正体はこれなんです。釘に電線巻いて電流を流したら磁石になるんです。でもまねする人がいません。なぜならば発明をしたからです。発明をしたらね、小学校で習ったことで会社が作れるのです。だからね、発明した方がいいね。みんなにね、発明のこつをこっそり教えます。みんなも会社の社長になれます。楽しみです

ね。社長になるためのコツは簡単です。嫌なことを我慢しない。嫌なことに出会ったとき、我慢をしたり、あきらめたり、愚痴を言ったり、無視したり、投げ出したりしないことです。そんなことをしても何も変わりません。なんで嫌だと思うのかなと考えるんです。そうしたら人を助ける発明家になっちゃいます。嫌な思いをしている人、つらい思いをしているのは自分一人ではないのです。同じ目に遭っている人は世の中には山のようにたくさんいます。だから、勇気を出して自分を助ける方法を考えたら知らぬ間に大勢を助ける方法になるということです。例えば嫌な人に出会った時に「こいつ、嫌だ。」ってばかにするのは簡単です。でもそれでは何も変わらないのです。どうして自分はこの人のこと嫌だと思っちゃうんだろうと考えるといろんなことに気がつきます。それが自分を救い、やがて人を救うかもしれない。これからみんなはたくさん嫌なことに出会います。でもそのときに愚痴を言っているだけでは自分を見捨てることになるのです。勇気を出して自分を助ける方法を考えてください。そしたらそれが大勢を助ける発明になってしまうから。考えてみてほしいと思います。でも、考えるにはあるものがが必要です。それがないと考えることはできません。その大切なものを教えてくれたのが「トムとジェリー」でした。猫のトムがねずみのジェリーたちを捕まえてどうしようかなと迷うんです。そうしたら悪魔のトムが現れて「ひどいことをしてやるよ。」とろくでもないことを考えます。すると天使のトムが現れて「そんなことをしたらだめだよ。」と優しいアドバイスをしてくれます。実は僕の心の中にもみんなの心の中にも怖い心と優しい心が入っているんです。ここで3人で話し合おうんです。でもね、話し合うためには言葉が必要です。もしもこの3人が「うぜー。」「むかつく。」「だりー。」こんな言葉しか知らなかったら何にも分かんなくなってしまうね。実はね、考えるには、心を表す美しい言葉が必要です。何か悩みごとを考えているときに「あー、ぐちゃぐちゃして分かんない。」というときは、心を表す言葉が足りないだけです。言葉を増やせばいいんです。どうやったら言葉が増えるか。美しい言葉は本を読んだら身につくから。だからみんなは何でもいいからいっぱい本を読んでほしいと思います。

僕たちは今はロケットを作れるようになりました。僕たちのロケットは今とても安全です。だから、いろんな研究者が使ってくれるようになりました。でも、始めたころはひどかったです。やっと作ったロケットエンジン、試しに動かしてみたら爆発ばかりしていました。27回も爆発しました。なんでこんなに失敗ばかりするのか、それは生まれて初めてロケットエンジンを作ったからです。やったことがないことをやったら失敗するのです。人間はやったことがないことしか出合わないのです。なぜなら人間は1回しか生きることができないからです。ということは、人間は必ず失敗するということです。今、みんなは1回しかない人生をぶっつけ本番で生きているのです。だから、みんなは今までやったことがないことばかり出合ってきたのです。だから、今までみんなはいっぱい失敗をしてきたんです。これからはみなさんは失敗しまくるのです。僕も負けずに失敗します。

でもだめじゃないのです。僕は、飛行機やロケットの歴史を調べてきました。みんな苦労していました。こうしてたくさん大人の真面目に失敗したお陰で宇宙に行くことができました。失敗は、データなんです。乗り越えたら力になるのです。だから、失敗しても悲しむ必要はありません。乗り越えたらいいのです。そしたら、強くなって優しくなるからね。でもやっぱり失敗したくないわーという人もいます。それは、大人が悪いのです。大人は、失敗はだめなことだと教えるからです。でも、失敗しなかったら人生だいなしだからね。失敗しないことは簡単です。失敗しないためには、まずは何もしなきゃいいんです。でも何もできなくなります。次に、今できていることを繰り返し続ければいいのです。でも成長できなくなります。最後の切り札は誰かの言う通りにすればいいのです。みんながやっている通りにすればいいのです。すると、失敗しても自分のせいじゃないような気がします。でも、その時は考える力を失ってしまうのです。失敗を避けると、何もできなくなるし、成長できなくなるし、考えられなくなるのです。これでは何のために人として生まれてきたのか分からないですよね。これはもったいないです。だから、失敗を避けない方がいいんです。失敗を避けないためには失敗に罰を与え

てはいけないのです。罰が嫌だから失敗をしたくなくなります。何もしたくなくなっちゃうね。罰を与えている場合ではないんです。どうやったら失敗をしないかを考えたらいいんです。僕は、小学生のころ、ものすごい忘れ物をしたんです。怒られます。それでも忘れず。なおさら怒られます。それでも忘れず。怒鳴られます。それでも忘れず。だから、叩かれました。そんな日々をずっと過ごしました。学年が上がって、先生が変わりました。その先生は、「チェックリストを作ってみようか。朝チェックリストをつけておいで。そしたら忘れ物がなくなるよ。」と言いました。すると僕は忘れ物がなくなったんです。あれだけ怒られて怒鳴られて叩かれてばかみたいなんです。罰なんか与えている場合じゃないんです。どうやったら失敗しないかを考えた方がいいです。と同じように、失敗を責めてはいけません。特にこの2言。何の意味もないからこんな言葉に負けないでください。例えば、失敗した人に向かって「何やってんの。」と質問したとしても、「見ての通りで〜す。」としか言いようがないからね。または、失敗した人に「なんでこんなこともできないんだ。」と質問したとしても、「いやあ、分かっていたらできるんです。分かんないからできないんです。」としか言いようがないのです。これはね、大人の不愉快な気持ちを言っているだけだから、そんな言葉に負けないでください。一番気をつけてほしいのは、失敗を自分のせいにはしてはいけません。大事なのは、「何でだろう？」「だったらこうしてみたら・・・」です。紙に書いてみればよいのです。

そうやって僕たちもお互いの失敗を乗り越えて今では宇宙の仕事ができるようになりました。宇宙の仕事はすごいお金がかかるとかよっぽど頭がよくないと無理と思っている人がいるかもしれないけれど、僕たちはどこからもお金をもらっていないのです。自分たちの稼いだお金でやっているのです。そして僕たちはたった24人です。この中に大学で宇宙のことを勉強してきた人はいないです。必要ないです。だって僕たちのやっていることは大学の教科書にも書いてない新しいことをやっているのです。その中で必要なのは今までどれだけ覚えたかではなく、どれだけやったことがないことをやるかなのです。それは興味と好奇心です。それさえあれば、みんなできる仕事がたくさんあるからね。みんな興味と好奇心を大事にしてほしいです。だから、僕の会社は学歴は必要ないです。大学出ている必要ないです。中には、小学校4年生から学校に行けていない人もいます。でもできるんです。誰でもできるからです。

ロケットを作るときはロケットが軽い方がいいです。だから僕たちのロケットはすごく軽いです。世界でも珍しく鉄より強い特殊なプラスチックでできています。そのプラスチックはどうやったら手に入るか、実はホームセンターで買うことができます。何を買いえばいいかという、ガラス繊維やカーボン繊維なんです。東急ハンズに行ったらあります。10年前、15年前は手に入らなかったんです。今では普通に買えるようになっちゃいました。

また、人工衛星を作る時には、宇宙ではほんのちょっと傾いても分かるような精密な角度センサーが必要です。それは、ゲーム機に入っています。そのセンサーの性能は今の日本のロケットよりもよかったです。なぜなら今のロケットは30年以上経っちゃったからです。日本が今作っているロケットは今から30年以上前に作られたロケットなんです。だから部品は昔のまま使われているのです。30年前ってどれくらい前かというと、30年前の携帯電話はこんな携帯電話でした。1kg越えています。重たいよね。ポケットに入らないよね。携帯できないよね。でも、当時は最先端でとってもかっこよかったんです。でもそれから20年。たった20年で携帯電話はこうなりました。実は、科学は発達しています。人類は意外とがんばっています。だから、大人が昔の常識で、「それ、無理じゃない？」「難しいじゃない？」と言っていることのほとんどは、ホームセンターに行けば何とかなっちゃうものなんです。そんなすばらしい時代をみんな生きているんです。みんなは自分が思っている以上に何でもできる時代にいるのです。僕はうらやましいです。僕はみんなよりちょっと早く生まれたからです。僕が小学生のころにはインターネットも宅急便もありません。みんなはその気になったら世界ともつなが

れるよね。僕は世界とつながるにはね、スマートフォンを使っています。僕は高校を卒業したとき、英語が2だったんです。だけど、僕の会社にはアメリカ人が来ます。イギリス人も来ます。フランス人も来ます。それどころか、ベトナムとかチベットとかカザフスタンとかモンゴルとかエジプトとか、もう本当にやめてほしいです。でも大丈夫。僕がスマートフォンに日本語で話しかけると、ここからエジプト語が出てきました。カザフスタンの人がなんだか分からない言葉を話しかけるとここから日本語が出てきました。100カ国に対応しています。これからどんどん性能がよくなります。ということは、みんなは、人類が生まれて初めて言葉の壁のない世界を生きるということなんです。英語ができるということだけではないんです。世界のどの国の人も通じるということなんです。今までにどの大人も経験したことのない世界、大人が創造できない世界、そんなすばらしいところでみんなは活躍できるのです。みんなは大人が思いもしないようなすごいことことをするのです。みんながうらやましいです。

僕が小さかったころ、ばあちゃんが大事なことを教えてくれました。ばあちゃんが北海道の北にある樺太という大きな島で頑張ってお金をためたそうです。でも、樺太では、1945年の8月やっとな戦争が終わったとみんながほっとしたところにいきなりソビエト軍が攻めてきたそうです。町に戦車がやってきてたくさんの方が機関銃で殺されて、その時ばあちゃんはせっかく貯めたお金が紙くずになってしまったそうです。だから、おばあちゃんは小さかった僕に、「お金は値打ちが変わってしまうからくならないよ。お金があったら本を買いなさい。頭に入れなさい。それは誰にも取られないのよ。新しいことを生み出すんだよ。」と教えてくれました。だから、僕は本屋が好きな子どもになりました。そして、小学生のころ、本屋で運命の本と出会います。それは、「よく飛ぶ紙飛行機集」という本です。はさみで切ってグライダーを作る本ですが、この本が私に自信をくれました。実は僕は小さい頃片方の目をぶつけてしまって、それ以来片方の目がものすごい悪いのです。だから距離が分からないのです。3Dが3Dに見えないのです。だからボールを使ったスポーツがめちゃくちゃできないのです。だから体育の時間、僕が入ったチームは負けるんです。でも、僕が作った紙飛行機を試しに体育館で飛ばしてみたら端から端まで飛んで、自分もびっくりしたけれど、僕を嫌っているはずの友達が、「おまえ、すごいなあ。」と言ってくれたんです。だから嬉しくなって、僕はこの本に書いてある紙飛行機の計算を全部覚えました。これを見てみんなはわあと思うかもしれないけれど、みんなだってゲームの攻略本とかいくら小さな字だったって読めるでしょ。好きだからできたんです。でも、計算は筆算では不可能だったんです。でも、ラッキーなことに家には電卓がありました。電卓を使ったらできました。しかし小学生が電卓を使いこなした結果、僕は筆算ができなくなりました。算数のテストが0点になってしまいました。

また、この頃、友達がプラモデルを作り始めたので、私も作りたと言ったら、僕の父さんは物作りに厳しい人だったので、「プラモデルなんて簡単すぎてだめだ。男なら鉄で作れ。」と言って、無理やり電気溶接やガス切断を教えられました。たまったもんじゃありません。やけどしてしまいました。よくよく考えたらみんなは遊んでいるのに僕だけ働いているじゃんと思いました。僕は困りました。困ったときはどうしたらいいか。本屋さんに行けばよいのです。そこで、ペーパークラフトの本を見つけました。2ページを切って貼るだけで立体が作れるのです。僕はこれをでっかくして金属で作ったら本物ができるじゃんと思いました。だから勝手に勉強したんです。すると、近所の板金屋のおじさんが「お前は筋がいい。」と言って、専門書と道具をくれました。図面の描き方を教えてくれました。ますます勉強しました。僕が子どもの頃には周りに物作りのおじさんたちがいっぱいいたんです。そのおじさん達は、「見てごらん。この世にある人間が作っているものは、みんなお金を出して買っているものなんだよ。どんなにすばらしいものだってどんなに高価なものだって、実は全部普通の人作り方を教えてもらって作っているだけなんだからね。どんなものも作り方を教えてもらえば作れるんだよ。なければ作ればいいんだよ。」と教えてくれました。だから、私は欲しいものに出合ったときに「値段はいくらかな？」と思わなくなりました。「どうやってできているのかな？」と考えるようになったのです。たったこれだけ

で、僕は売っていないものも自分で作れるようになりました。それは仕事になり、会社になりました。あのおじさん達のおかげです。でも、僕が覚えた飛行機の計算もペーパークラフトの計算も一回も学校のテストに出なかったんです。だから、「くだらないことやってないで、勉強しなさい。」と怒られたんです。気がついたら、小学校の頃にみんなが「すごいね。」と言ってくれたことは、中学校に入ったら「まだやってんの？子どもっぽい。」と言われるようになりました。そうしたら友達がみんな昔の勉強しかやらなくなっていました。僕だけ取り残されてしまいました。でも、素敵なことが起こりました。スペースシャトルが飛んだのです。いつか自分も乗れると思いました。だから、本を買っていっぱいスペースシャトルのことを勉強しました。そしたらグッドタイミングでガンダムが始まりました。自分は将来スペースコロニーで働くのだと真剣に考えました。モビルスーツも作れると思いました。そして、嬉しいことにあこがれのスペースシャトルに日本人が乗ってしまいました。日本人最初の宇宙飛行士毛利衛さんは、なんと北海道の人だったんです。けっこう田舎の人でした。北海道の田舎なら僕も負けちゃいけないと思いました。でも中学生になると自分の進路のことで先生と話し合う時間がやってきます。中学校の先生が「おまえ将来どうするんだ？」と聞くから、僕はかなり真剣に「飛行機やロケットを作るとぼしたい。」と言ったら、「東大に行かないと無理だな。お前の成績でできるわけない。もっと真面目に考えろ。」と言われました。僕は目の前が真っ暗になりました。周りの他の人も同じことを言いました。まるでそれは本当のことに思えちゃうんです。私は考えました。私にこんなことを言う人は、全員やったことがない人です。実は、やりたいことをやったことがない人に相談をすると、できない理由を教えられただけなのです。できない理由は恐ろしいんです。「よほど頭がよくないと。」とか「お金がかかる。」などいろいろな種類があるのです。でも一番最後にはみんな同じ理由になっちゃうんです。「努力しても無駄だよ。」なんです。努力しても無駄だと思ったら、人は頑張らなくなるのです。今できることしかできなくなっちゃうんです。そんな自分の心を守るために悲しい言葉を使うようになるのです。それは、「自分なんて。」「どうせ無理。」です。これは、本当は頑張りがかったのに、夢はたくさんあったのに、「お前ががんばってもできるわけないじゃん。」と思わされた人が自分を守るために使う言葉です。でもね、この言葉があるということは、自分の中にまだ頑張りたい自分があるんだっていうことを忘れないでください。でも、今、この言葉に負けたまま大人になった人がたくさんいるのです。だから、頑張らない人、できることしかしない人、考えない人がたくさん増えています。昔はこのような人でも大丈夫だったのです。昔は考えなくてもいい仕事はたくさんあったのです。言われたことを言われたとおりにやっていたらよかったです。でも、今では違います。考えなくてもよい仕事は、ロボットがやってくれるようになり、信じられない速度で無人工場が増え続けています。このままだとみんながいくら勉強してもみんなが大人になったとき世の中はロボットだらけになって、みんなは働くことができなくなってしまうかもしれません。でも、安心してください。ロボットには弱点があります。ロボットのできないことをすればよいのです。それは考えることです。考える人とはどんな人でしょうか。今、世界が求めている考える人は、「やったことがないことをやりたがる人」「あきらめない人」「工夫する人」です。では、そういう人はどこにいますか。それは、みんななんです。みんな全員そうなんです。なぜかという、人間はみんな小さいころがあったからです。思い出してみてください。誰かがやったことがないことをやっていたら、自分もやりたくてうずうずしたでしょ。実は生まれたときからあきらめ方を知っている人はこの世に一人もいないのです。みんなはせっかくあきらめ方を知らないで生まれてきたのです。そんなすばらしいみんなにやったことがない人があきらめ方を教えてくれただけのことなんです。でも、あきらめ方を覚えてしまったらロボットになっちゃうからね。ロボットに負けちゃうからね。だから、あきらめなければいいんだよ。あきらめないためにはどうしたらいいか。夢を叶える秘訣があるのです。それは、自分の夢をどんどんしゃべればいいのです。出会う人、出会う人、夢をしゃべってください。そうすると夢が叶います。なぜかという、やりたいことはやったことがあ

る人と仲良くなればできるからです。「でも、嫌です。だって、夢は馬鹿にされます、からかわれます。」
というような経験がある人は、もう夢をしゃべりたくないと思っているかもしれません。でも、聞いてくれた人の中には、「それ、僕の友達がやっているよ。」という人がいるかもしれません。その人と会うチャンスをつぶしたくないね。やりたいことをやったことがある人を探すためにも自分の夢を分かってくれる人に出会うまでしゃべり続けるのです。世界の中にはきっと夢を分かってくれる人がいるから、そういう人に出会えるまでしゃべり続けてください。仲間を探し続けてください。

残念ながら僕の生まれた町は小さい町だから、ロケットや飛行機を作ったことがある人がいませんでした。だから出会いませんでした。でも出会えるんです。本があります。本はすごいところがあります。死んだ人と仲良くなれることです。僕はライト兄弟と仲良くなりました。ライト兄弟は東大に行っていないませんでした。ということは、飛行機やロケットは東大に行かなくても作れるということですね。東大生の教科書は、本屋にも図書館にもあるんです。だから、まずは本を読めばいいんです。人生で大事なことはフライングしたほうが先に着くのです。将来パティシエになりたいと思ったら、中学行って高校行ってそれから専門学校・・・と待つ必要ないのです。今からなんぼでもお菓子作れるよね。将来美容師になりたいと思ったら、今から近所の美容院に行っているいろんなことを教えてもらっても構わないよね。子どもだからいっぱい教えてもらえと思う。そのフライングするチャンスはいっぱいあります。その時間を大事にしてほしいと思います。僕もいっぱいフライングをしたから夢を叶えられたんだらうと思います。僕はちょっと変わった子でした。だから学校の先生とは合いませんでした。いつも怒られてばかりでした。先生がうちにやってきてお母さんと話しています。母さん、泣いています。先生の言葉は僕にも聞こえます。「あの子はおかしいからだめだ。」そうか、僕がおかしいせいで母さんが泣くのかと思ったらどうしようもないです。僕も泣くしかなかったです。でもそんな僕が会社を作ってロケットを作っているのです。こうなることを小学生の僕は想像しませんでした。そして、僕の担任の先生も想像しなかったでしょう。誰にも、そして自分にも未来は分からないのです。みんな未来はわからないのだから未来をあきらめる理由はないのです。成績もお金も可能性を奪わないからね。お金がないから大学に行けないから人生もうだめじゃないからね。違う方法でいくらでもできるからね。でもね、あきらめると可能性なくなるからね。これが一番もったいないことだからね。みんなには可能性があるということです。最初に言ったようにみんなはこれからすごいことをする人なんですから。歴史は一人が変えるんですから。坂本龍馬もエジソンもマザーテレサもイチローも一人しかいませんね。この人たちはどうしてこうなったのか、好きなことをやめなかったからこうなっただけですね。好きってすごいんです。好きなことは頑張れるからです。好きなことは覚えちゃうからです。これが人間の本当力です。そして、好きなことは仲間を増やすんです。お互いに僕らは助け合うことができるから、やりたかったことができるようになります。僕はみんなに仲間を紹介します。みんなも紹介してくれるでしょ。その予想もしなかった人と人との繋がりは広がっていくのです。それこそがみんながもっている素晴らしい可能性なんです。だから、みんなの命は大切なんです。人を殺してはいけません。人の可能性を奪ってしまうからです。と考えたら、言葉で人の可能性を奪うのは殺人と同じですね。どんな言葉が人を殺してしまうのか、それは「どうせ無理。」この言葉が人の自信や可能性を奪ってしまうとても恐ろしい言葉なんです。自信がなくなったら、人は何をしたいか何ができるのか分らなくなるのです。これで苦しんでいる中学生や高校生は山ほどいます。そういう人に、大人は競争をさせて自信を持たせようとするのです。こんなことをやると、比べないと自信が持てない人が生まれてしまうのです。こんな人は自分の自信を持つためにお金で自信を買おうとするのです。人からどう思われてるかばかりを気にするからです。でもお金で自信は買えないからしょうがないから自慢をしちゃいます。自慢するためには、自分のいい顔を作ったほうが早いから、人を見下したり差別したり仲間はずれをしたりするようになります。そして、他の人が頑張ったら置いて行かれるのが怖いから、人が一生懸命努力していることをと「ようやるわ。」

「何それ自慢？」と潰さなければいけないのです。何でそう悲しいことになるのか。それは、僕らは間違っただけの自信を教えられてきたからです。比べる自信は間違っただけの自信です。自信がない人はたくさんいるんです。その人達が自分以下を作ろうとするのです。とても恐ろしいことですが、自信がない人が弱い人の自信を奪おうとするのです。それを会社でやったらパワハラになって、学校でやったらいじめになります。こんな人はいじめをしようと思っているのではなく自分以下を作ろうとしているのです。だからこんな人達にいくら一生懸命理由を言っても説明しようとしても何にもなりません。ただただ自信が奪われていきます。そしたら心は辛くなるのです。でも日本には恐ろしいことを平気で教える大人がたくさんいます。「辛いことを我慢するのが強さだ。」「我慢できないのは弱い人間だ。」でも、我慢できないから辛いんですよ。それを我慢しろと言われても困りますよね。我慢の仕方さえ教えてくれないんですよ。だから、日本では、諦めたりやめたりして問題を解決しようとする人がどんどん増えてしまうのです。でも言うておくけど諦めてやめてよくなる未来はないからね。

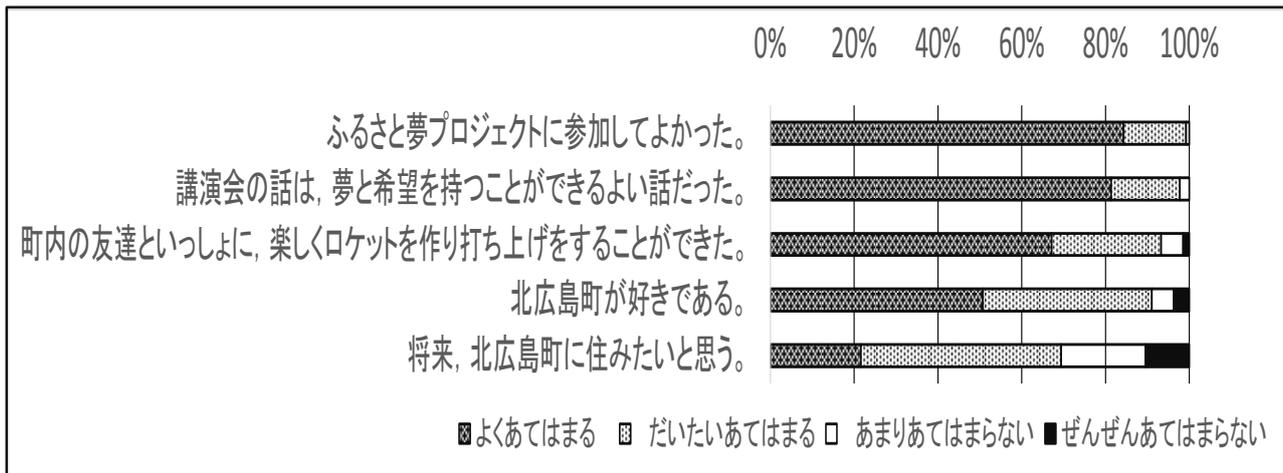
日本では恐ろしいことが起きているんです。この15年の間に日本の若者の自殺率が世界一になっちゃった。悲しすぎます。僕は可能性のあるみんなに死んでほしくないです。みんなに日本の我慢を知ってほしいです。本当の我慢は「問題を解決する方法を考える」なんです。でも一人で考えると同じところをぐるぐるぐるぐる回って抜け出せないです。だから、夢の叶え方と一緒にです。困ったことは乗り越えた人と仲良くなれば解決できます。みんなは勇気を出して夢と困ったことをしゃべるんだよ。どうせ言っても誰も分かってくれないと思わないでください。僕はいじめやパワハラの原因になってしまう「どうせ無理」をなくしたいと思ったんです。だから、僕は宇宙の仕事を始めました。誰もが無理だと思込まされていることを「そんなことないよ。できるよ。」「大人が無理だと思込んでいるロケットは誰でも作れるよ。」と示したら、夢が潰れない人が増えるかなと思ったんです。だから今日みんなにロケットを作ってもらいたいのです。そんなことをしていると、今では僕の会社に去年だけでも1万5千人の人達が修学旅行に来てくれるようになりました。僕は人の可能性と自信が奪われない社会を作るのが夢です。でも、いじめも虐待も減りません。僕の力は足りません。ひどい目に遭っている子供たちがたくさんいます。だから僕は仲間がほしいです。力を貸してくれたらうれしいです。「どうせ無理」という言葉に出会ったら、「だったらこうしてみたら？」と考えてくれたらいいです。

みんなは6年生でこれから中学生になります。そしたら、自分の将来のことについて嫌になるくらい考えさせられます。そのときにちょっと覚えてほしい考えがあります。

例えば、「医者になりたい。」と思ったとします。これを誰かにしゃべったら「すごいお金かかるよ。」「よっぽど頭がよくないと無理だよ。」と諦めさせられそうになるかもしれないですね。でもそのとき「医者になりたいのはなぜなんだろう。」と考えてほしいのです。もしもそれが「人の命を助けたい。」のであれば、いろいろな道があります。医者が使っている道具は医者で作っているのではないけど大勢の人を助けるよね。ドクターヘリや消防車や救急車も人を助けているよね。またAEDも大勢の命を助けているよね。医者になりたいと思ったら道は一本しかないんです。ところが「人の命を助けたい。」と思ったらいくらでも道があるのです。安全な車を作ったって構わないよね。だから、みんなは何かになりたいと思ったら「なぜなんだろう。」と考えてみてください。また、もしかしたら「まだ夢がありません。」と悩んでいる人がいるかもしれません。悩まなくていいよ。夢と仕事は違うから、分けて考えたらすっきりします。夢は大好きなことややってみたいことです。例えばどこそこの大学に行きたい、ハワイ旅行をしたい、カレーが食べたい、今日大事な人がけがをしませんように、これも立派な夢ですね。近づく努力ができるのです。夢はいくつあってもいいです。仕事は人の役に立つことです。お金にならなくても構わないです。夢と仕事は違います。でも夢と仕事と一緒にすることもあるのです。大好きなことややってみたいことが人の役に立つと仕事になっちゃうんです。僕はそれに気づくことができました。僕は小さいころから本を読むのが大好きでした。小学生の時に「ブラックジャック」という漫画に

出合いました。お医者になりたいと思いました。なりませんでしたが、でも、僕は医療に興味があるから、番組や本やドラマを見ちゃいます。ということをやったら、僕の会社は医療機器を作ることになりました。僕は医者にはならなかったけど医者を手助けができるようになりました。また、僕は小学生のころに南極探検に命を懸けた人達の「スコットさんとアムンゼンさんの伝記」を読んだんです。探検家になりたいと思いました。なりませんでしたが、でも、僕は探検に興味があるんです。本も読みました。自分で冬山登山もしてみました。するとね、僕は荻田さんという人に出会ったんです。彼は南極点に行きたいと言っていました。たった一人で何の補給もうけず50日かけて1100キロ歩くとっていました。50日分の食料をそりに乗せて引っ張って行くんだそうです。南極はものすごい寒く、紫外線が強いんです。だからプラスチックのそりは簡単に粉々になっちゃいます。金属でそりを作ると滑らないんだそうです。この条件にあったプラスチックのそりを作れないかと相談されました。それって宇宙と一緒にゃんと思いました。そこでロケットを作る技術でそりを作ってみたのです。僕らが作ったそりは今年彼と一緒に南極点に到達したんです。僕は探検家にはなりませんでしたが、でも、探検家を助けることはできたのです。また、僕は小さいころからペーパークラフトが大好きでした。いろんな形を作ることができます。ペーパークラフトをしていていいことがあります。どんな高い車も鉄板1枚からできています。どんな高級な靴も1枚の革からできています。どんなすてきな服だって型紙1枚からできています。ペーパークラフトが作れると何でも作れる人になります。僕にはいっぱい夢がありました。でもそれは「くだらない。」とか「食えない。」とか「一つにしろ。」とかさんざん言われました。でも、そんな夢がいっぱい集まって僕の力になっていったんです。だから、夢は一つじゃないんです。たくさんあった方がいいんです。みんな、夢をたくさん持ってください。そしてどんどんしゃべってください。そうしたら、みんなすごい力を合わすことになるのです。これから先ロボットじゃんじゃん増えます。あと10年で仕事半分なくなると言われています。まずいね、でもなければ作ればいいのです。自分で仕事作ることできるからね。仕事は、みんなの身の回りにある悲しいことや苦しいことや不便なことを自分ならどうするかを考えると絶対浮かんでくるからね。みんなも考えてみてください。でも、これを考えるためにはあるものが必要なんです。それは「優しさ」なんです。優しくないと考えられません。「優しい」は「優れる」ということだからね。これこそがロボットが持てない力なんです。これからは優しい人が必要になります。優しい人が人を思いやる心で発明するのです。新しい仕事をつくりだすのです。みんなは、ぜひ優しい自分の気持ちをもっと優しくなれるように、毎日毎日ちょっとずつ優しい自分をめざしてほしいと思います。今日はこれからロケットを作ってもらいます。ロケットというと「大きい」と思っている人がたくさんいるかもしれないけど、この写真のロケット、今から63年前、日本人が一番最初に作ったロケットです。東京大学の糸川博士が日本で最初にこのロケットを作りました。これしか作れなかったのです。これを飛ばすだけでも、えらい苦勞したんだそうです。たくさん失敗したそうです。今日みんなが作るロケットはこれより軽くて性能いいからね。みんなは今日、63年前の東大の博士が苦勞してやったことを全員でやってしまおうということなんです。ロケットを作れるみんなは意外と何でもできるからね。だから、ぜひいっぱい夢を見て、夢を叶えてほしいと思います。

プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果（6年）



講演会の話についての感想や思いについて

芸北小学校

- 「失敗しても自分をせめない」という言葉が心にひびきました。一人で何かをやりとげても思うようにはなかったら「こんな作らなかつたらよかった。」「結局こうなるからもうやらん」とすごくせめたりしました。でもいくら失敗しても自分をせめずに自信をもってやりたいと思います。
- 植松さんは、自分の夢を叶えたいと思って、みんなに話した時、「むりだよ」と言われ失望されたそうです。でも、くじけず前向きに夢を追いかけて叶えることができ、すばらしいと思いました。僕も物事を前向きに考えていきたいです。
- 「新しいことは誰でも失敗する」という言葉が心に残りました。ぼくは新しいことをやって失敗すると、ずっと気にしてしまいます。だから、失敗をおそれずに何事にもちょうせんしていきたいと思います。また、その失敗で学んだことを次にやる時に生かし、成功させることが大切だと思いました。
- 自分のことを100%分かってくれる人はいないから、「自分なんて・・・」と思うのではなく、自分を必要とする人がどこかにいるんだと思ってがんばりたいと思った。自分の夢をあきらめずに、最後まで、できるようにあきらめずにがんばりたいと思います。
- いろいろなためになる話をしてくださったので、しょう来のために生かせることがあったのでよかったです。話をおもしろくしてくださったので、あきたりせずに、しっかり聞くことができました。今までの自分の失敗などを入れて話をしてくださったので、しょう来こんなふうになるよと教えてくださったので、ためになりました。
- 話を聞いて、私もしょう来「失敗をおそれずに、なんでもちょう戦してみよう」と思いました。そして、自分がやろうと思ったことが成功せずに失敗ばかりしてしまっても、「ダメ人間」と思わず、失敗するから何でもできると+（プラス）に考えて、自分は何でもできると考えようと思いました。「本当に話を聞いてよかったな。」と思いました。
- 「一度しかない人生をぶっつけ本番で生きている」というのが心に残りました。自分に自信をもつことの、大切さが分かりました。夢をたくさんもつことが、仕事につながっていくことが分かりました。植松さんは、他人に無理と言われてもあきらめずに、好きなことに向けてがんばっていてすごいと思いました。
- 自分のしょう来の夢について、自分の好きなことをして自分の人生を送りたい。人に何を言われても、自分のことに自信をもってしたいです。自分の思うことに自信をもってしたいです。
- 植松さんは人のためにと思って動くことがすごいと思いました。失敗はあたり前だからなぜ失敗をしたのかを考えることが大切ということが、総合的な学習の時間でしたことに似ていました。「たりないことがあるから助け合える」「思うはまねく」など勉強になる言葉がたくさんありました。
- 自分の夢に自信が持てました。自分の中で「だめ」と思わないようにします。

大朝小学校

○植松さんが言っていた「優しさや思いやり」は、ロボットには絶対にできないことなので、少しずつでも、「次何をしたらいいかな。」と考えようと思った。そして、将来の夢は看護師だけど、看護師に限らず、他の仕事のことも調べてみようと思った。今日から私は自分の思ったことを人に押し付けられないようにしようと思った。

○夢を話して、それを実現するということが大事だと思いました。また、夢を実現するためには、自分を信じるのが大切だと分かりました。もっと話を詳しく聞きたいと思いました。

○私は将来パティシエになるのが夢だから家族や友達に何を言われてもあきらめずに頑張ろうと思いました。植松さんはたくさんの努力をしてロケットなどの色々なものを開発しているのだと分かり、私も1日1日をがんばろうと思いました。

○周りの大人は夢を話すと、やったことがないのに、「無理だ」「金がかかる」とか、いいことを言ってくれない。だが、植松さんの話はまるでぼくに、自分への夢への自信をもたせてくれるようだった。

○植松さんはすごく想像力豊かで、しっかり物をつくれるからすごいと思いました。PS4の車のゲームのコントローラーを自分で作るのもすごいと思った。

○アニメの話や飛行機の話に感動しました。

○植松さんの話を聞いて自分の今までのいけなかったところや改善点を見つけることができました。おもしろい話も混じっている植松さんの話には、人生に必要なことがたくさん詰まっていた。家に帰って家族にも教えてあげたいです。

○私はまだ将来の夢が決まっていなくても、話を聞いて、いっぱい夢をもっておきたいと思いました。またいじめは人の可能性をうばうものだから絶対にいけないと思いました。

○私は植松さんの話を聞いて、夢について改めて考え直すことができました。そして、友達、仲間、家族と助け合う大切さ、夢と希望を考える重要さを学びました。植松さんのような方がたくさん増えればよいなと思いました。

○私は習い事をしているときに絶対にできないとか、どうせ無理とあきらめてしまうことが多かったのですが、植松さんの講演の話を聞き、もっとがんばって続けようと思いました。また、植松さんは昔から頭がいいのかと思ったら、ロケット作りには頭の良さなどは関係なく、興味などを持ったらできないことはないのだと思いました。

○ぼくはロケットの作り方や飛ばし方、飛ばすのに成功したらどんなにうれしいか、分かっていなかったもので、分かってよかったです。

新庄小学校

○植松さんのお話は、すごくよく分かったし、聞いていてすごく楽しかった。

○失敗した時、よく一人で落ち込んだりしていたけど、失敗することは悪いことではないと分かったので、勇気が持てた。

○自分は、よく私のせいだとか、私が悪いんだとか思ってしまうから、植松さんにとっても勇気をもらえた感じがした。

○夢をもつ大事さなど、今後生きていくために必要なことを学べた。

○あきらめずにがんばることは、大切なことだと分かった。

○植松さんは、いろいろな経験をして、やがて成功したと分かった。自分も失敗を恐れず、何事にもチャレンジして、たくさんの夢をもちたいと思った。

○失敗することを恐れない大切さがとてもよく分かった。

○本をたくさん読もうと思った。人に言われたいやなことをあまり気にしないようにしようと思った。

○ぼくは、失敗はいけないことだと思っていたけど、植松さんは「失敗は誰でもすることだ。」と言っていた。そのことを知ることができてよかった。

○話を聞いて、ぼくは、人をばかにしたりするとその人の夢を壊しているんだなと思った。

○植松さんの話を聞いてすごく希望がもてた。これからもたくさんがまんをしてがんばろうと思った。

○夢をもつことが大切だと分かった。「失敗は恐れない」が大切。

○夢をかなえるために必要なことやだめなことが、とてもよく分かっておもしろかった。

○自信を持ってやりぬくことがすごいなと思った。

川迫小学校

○ぼくは、生物に関係する仕事につきたいと思っていたけど、ロケットを作る仕事にも興味がわき、そんな仕事についてみたくなりました。

○夢をあきらめない事を学びました。

○夢をあきらめないという事を学ぶことができてよかったです。

○植松さんは、友達に愚痴など言われても、あきらめずに夢をかなえておられたので、いいなと思いました。

○私は、夢を何度もあきらめているので、もう夢をあきらめるのはやめようと思いました。

八重小学校

- 植松努先生の話聞いて、夢と希望をもらえた。植松先生の話聞いてよかったと思う。また、先生は、わざわざ北海道から来てくださって、とてもいい経験になったと思った。
- 人にバカにされたりからかわれたりしても、あきらめずに挑戦することが大事だと思った。やる前から無理だと決め付けず、失敗をしても取り組もうと思った。
- だれに言われてもあきらめず、はやまらないことが大切だと思った。
- 何度も失敗してやっと成功したと分かった。
- ぼくも、ロケット作りと聞いたらどうせ無理とか思ってしまいます。でも、話を聞いて別に頭が良くななくてもロケット作りはでき、飛ばせるということが分かりました。
- 夢や希望を諦めない大切さを知りました。これからも自分の夢を大切にしていきたいと思いました。
- 植松先生の話聞いて、あきらめずに前に進むことが大事ということが分かりました。
- 将来のこと、将来の夢がよく分かって、私は将来、人を楽ませることをしたいです。
- 自分の失敗やできなかったことを責めずに、自信を持つことが大切だと分かった。自分の夢に自信ができた。
- 自分も同じようなことがあるから、今日のことを思い出して日々生かしていきたい。

- 私は小さいときから6年生までいろいろな夢を持っていました。例えば5年生のときは「パティシエ」、1年生のときは「お花屋さん」といろいろ夢を持っていましたが、ころころと変わっているので何にしようか迷ってました。植松さんは何個でも夢を持っていいとアドバイスを下さったので、このままいろいろな夢を持ち将来がんばってみたいです。
- 今までの考えにとらわれず、やりたいことを自由にするという考えは今までありませんでした。将来やりたいことを自由にできるんだと希望が持てました。
- 何度も失敗して残念だった。
- 大人はあきらめる方法を教えているという所が心に残った。
- 今までは、失敗はだめだと思ってたけど、講演会で話を聞いて失敗はデータということがわかって、どうすればいいか分かった。
- 失敗してもあきらめず、人間はかならず失敗するからそんなに気にしなくてもいいことが分かり、初めてだからこそ挑戦していけば新しいことができるようになるって聞き、勉強になった。
- 今日ぼくは植松先生のお話で、夢はあきらめなかったら絶対叶うと言っていました。ぼくは1回夢をあきらめていたけど、植松先生のお話を聞いてぼくも夢をあきらめません。

豊平小学校

- 人は失敗するから、何回も失敗していいと聞いて、失敗は普通のことと恥ずかしいことじゃないんだと思いました。
- 「無理」とか思わず、生活しようと思いました。周りの人たちが「無理でしょ」とかいても、違う道へ進むのではなく、自分なりに進めればよいことがわかりました。
- 夢はあきらめなかったらかなうかもしれない、夢はないより多くの夢があるほうがいいと言われて、その言葉がすごく心に残りました。
- 最初に自分のことをおもしろい話をしてくださっておもしろかった。
- 自分の夢はいっぱい持つ事。「どーせできないよ」は、自分を傷つけることだと思いました。
- 植松先生もたくさんの苦労があったから夢を叶える事が出来たと思うのでぼくもあきらめずに夢をかなえていきたいです。
- 好きなアニメは、大人になっても好きでいい。
- 1つの夢に絞らずにたくさんの夢を持っていいということ聞き、たくさんの夢があっても選ばなくていいんだと思った。「誰も失敗するから、失敗を恐れなくて

- 私はすぐあきらめがちだけど、この話を聞いて「あきらめないようにしよう」と思えるようになった。
- 夢はあきらめなければできるとことを知って、私もがんばろうと思いました。
- 「思いは招く」のことなど、今までとはちがう考えなどを聞いてよかった。
- 先生に「君じゃ無理だよ」と言われても、夢を持ってあきらめずに努力することが大切だと分かった。
- トムとジェリーがすきと言っていました。トムの中に怖いのとやさしいのがいました。私はやさしいのがすきでした。
- いろいろリモコンを作ってすごいなと思いました。
- ためになりました。
- どうせ無理というのはなく、自分の夢を叶えるために失敗を恐れずに、努力していきたいと思えるようになった。
- 植松さんが「先生は怒ってばかりじゃだめなんです」と言っていたときにそうだなと思いました。
- 私は夢はないと思ってたけど、「小さな夢でもいい。何個あってもいい」と聞いて夢のことを考えるよう

<p>いい」という事が心に残った。</p> <p>○夢はいくつあってもいい事を知ったので、やりたいことをどんどん見つけようと思いました。「好きなことにはもっと興味がわく」という言葉に私も「わかるな」と思いました。</p>	<p>になりました。</p> <p>○自分の将来の夢は、人になるべく言う。私の将来の夢は外科医で、人に言うと、勉強がんばってねとか言われて、言いたくなかったけど、その人に巡りあうまでということが心に残った。</p>
本地小学校	
<p>○植松さんの話を聞いて、ポジティブに考えることが出来るようになった。</p> <p>○話を聞いて、夢が一つ増えたので、講演会をちゃんと聞いてよかったと思った。</p> <p>○また聞きに行きたいと思った。</p> <p>○自分の思う夢がちよっと変わった。</p> <p>○ぼくはおちこむ事が多かったけれど、植松先生のお話を聞いてかかえこまないというのを学んだ。</p> <p>○「ダメな人はいない」ということを知って、とてもやる気が出ました。</p> <p>○夢はやっぱりあきらめてはいけないんだと思いました。</p>	<p>○ロケットみたいに夢も上へ上へと飛んでほしい。</p> <p>○6年間最後の夢プロがロケットを飛ばすことで本当によかった。</p> <p>○植松先生の話がとても分かりやすく、とても心にひびくお話だったので、参加してよかった。</p> <p>○たくさんチャレンジをしたくなった。</p> <p>○植松先生の話聞いて、自分の夢に自信が出ました。</p> <p>○大切な言葉がいろいろあったので、今後役に立つだろうと思いました。</p>
八重東小学校	
<p>○何かいやなことが起こっても、マイナスに考えずプラスに考えようと思った。夢に向かってがんばろうと思った。</p> <p>○人と「ちがう」ことは「すてき」という言葉がとても心に残りました。今まで人と同じことがふつうだと自分は思っていたけれど、植松さんの話を聞いて、ちがうことがふつうで人とちがうことが大切なんだなと思いました。</p> <p>○「思いは招く」という言葉が特に心に残っている。「思いは招く」という言葉を信じて将来の夢に向かって努力したいと思った。失敗してくじけそうになったときは、植松さんの「失敗しない人生は楽しくない」という言葉を思い出して夢をあきらめないようにしたい。</p> <p>○植松さんのお話を聞いて、ぼくは、夢に向かっていけば絶対かなうという言葉が心に残りました。</p> <p>○植松さんの話を聞いて、夢と希望はとても大切なものだと分かりました。</p>	<p>○あきらめないことが一番心に残りました。ぼくは、失敗をしてしまったらすぐにやりたくないなあと行って、あきらめてしまいます。でも植松さんの話を聞いて、失敗してもあきらめないということが心に残りました。</p> <p>○自分のことについてよく考えられた。夢のことや人生のことで自分がこれから長い人生を送っていくうえで、大切なことをたくさん教えてもらった。印象に残る言葉がたくさんあった。このお話を頭に入れて、たのしく生活していく。</p> <p>○自分の夢を決めたりする参考になったし、生きることの大切さ、人生の生き方も学ぶことができた。</p> <p>○ぼくは、自分が失敗するとすぐ「自分はだめだ、自分はだめな人なんだ」と自分をせめてしまいます。けれど、植松さんの話を聞いて、何事にも前向きが一番ということが分かったので、これから自分をせめず、前向きになろうと思いました。</p>
壬生小学校	
<p>○夢を大切にする、人を大切にする、失敗に罰を与えるはダメ、ということが分かった。</p> <p>○植松さんは、何もかも自分でつくっていてすごいと思った。夢は大切だということが分かりました。</p> <p>○失敗しても何度もしていたからすごい。</p> <p>○「夢があれば何でもできる」という言葉を大切にしたいと思った。私は人助け、人に役立つことをしたいと思った。</p> <p>○今まで失敗をおそれていました。だけど植松さんの話を聞いて、失敗するのは当たり前だといわれて、そう</p>	<p>○とてもおもしろかった。失敗してもだいじょうぶだと思った。</p> <p>○自分の夢を大切にすることが心に残った。だからこれから夢を実現させるために、全力で夢に向かってがんばりたい。いろんな壁はあるけど、乗り越えていくことも大事ということも学べた。</p> <p>○「思いは招く」ということを教えてもらったので、自分の部屋の黒板に大きく書いて忘れないようにしている。また家に植松さんの本が二冊あるので、読んでいきたい。</p>

<p>だなどと思いました。人生は一度きり、失敗をおそれず勇気を出してやってみるのも経験とも言われました。次から失敗をおそれず、勇気を出して進んでやってみたいと思いました。</p> <p>○とてもいい話でおもしろかったです。いろいろな技術を持っていて、何でもつくれるからすごいと思いました。空まで飛んでいくには、秒速7.9mで行くのだと後でわかりました。</p> <p>○植松さんの話は、夢を持つのはすばらしいという話で、とても分かりやすかったです。</p> <p>○私は夢をあきらめかけていました。「自分の好きなことを仕事にする」はやっぱり無理なのかなって思っていました。けど、今の夢以外やりたいことはないし、今夢をあきらめたらダメな気がしました。そんな風に悩んでいたとき、すくってくれたのは植松さんの話でした。「みんなに可能性がある。」その言葉を聞いて私はがんばろうと思いました。「夢は見るものではない。叶えるものだ。」私はその言葉を信じて、自分の決めた道をまっすぐに進んでいきたいです。</p>	<p>○自分の夢を話したときに否定されても、その人はやったことのない人だから気にしないでいいや失敗は誰でもしてしまうことだから、罰を与える前に次からはどうしたらいいかを考えることが大切ということが心に残りました。</p> <p>○分からなければ互いで協力して助け合うとできるようになることが分かった。</p> <p>○一番心に残っているのは、「あきらめなければ何でもできる。」です。私はいつもあきらめてしまうので、これからはあきらめずに最後まで挑戦したいと思います。</p> <p>○植松さんの話を聞くと、「どうせ無理」は自分の可能性や自身を奪う言葉だなと納得した。</p> <p>○話は長かったけど、おもしろかった。</p> <p>○夢を持つことはすばらしいと思った。</p> <p>○夢は一つだけでなく、たくさん持つとよいと教えてもらったので、たくさん夢をもち、夢に向かってたくさん努力していきたい。</p>
---	--

ロケット作り・打ち上げの感想や思いについて

芸北小学校

<p>○「チームのみんなと仲良くできるかな」と不安をもちながら作っていたけど、同じチームの人から声をかけてもらったりしたのでとても楽しくロケット作りにはげむことができました。ロケットとばしでは、一緒にロケットをとばした人とたくさん話すことができたし、「うまくキャッチできた？」と少しの話題ですごくもり上がることができたのでよかったですとても楽しかったです。</p> <p>○自分の思いのままに友達と楽しくできました。みんなが笑顔でできたことがとてもうれしくて、打ち上げをした時、話したことがなかった人とも、話すことができました。</p> <p>○ロケット作りの時に、目標の「人と話しながらやる」ができました。よく分からない事を積極的に聞いて関わることができました。打ち上げでは燃料のA・B・CのうちのCは、どのくらい飛ぶのだろうと思いき興味がわきました。</p> <p>○町内の人と交流しながらロケットを作ったことで、友達をたくさん作ることができた。打ち上げのときは、同じ発射台を使う学校の人とカウントダウンをしたりして、もっと仲が深まって良かった。</p> <p>○つくえにいるみんなと話しながらでき、あまり知らなかったことも話す勇気がついた。</p>	<p>○ロケット作りで自分からとなりの友達に「これ分からないから教えて」ときいたりして、まわり(グループ)の人と友達になれました。そして、ロケットもうまくとんでとても最高の日になりました。</p> <p>○説明書をよくみて、組み立てていくのが楽しかった。他の学校の子たちと話して協力できた。ロケットの速さと高さにおどろいた。ロケットが落ちてくるときに、ちゃんとパラシュートがひらいていて、しくみが気になった。</p> <p>○町内の人たちといっしょに楽しくロケット作りをして仲良くなれたし、みんなロケットがとばせてとても楽しかったです。</p> <p>○同じグループの人と、よく話ができ、教えあったりペンをかしてあげたりなどの行動ができたのでいい交流になりました。つくるのが少しむずかしかったけど教えてくれたのが助けになりました。</p> <p>○ロケット作りでは、話しやすい人としか話せなかった。打ちあげでは豊平小学校の人といっしょだったので話しやすくてたのしかった。ロケットがとんだときのみんなのかんせいがとても楽しそうだった。私は楽しかった。このような講演会やロケット作りができて私たちは幸せだと思った。</p>
---	---

大朝小学校

<p>○思ったより高く飛んだのでとても嬉しかったです。自分のつくったものが飛んでいくのを見るのはとても楽しかったです。また飛ばしたいです。</p> <p>○班の人と交流できたし、私の楽しみでもあったロケット作りがスムーズにできたのでうれしかった</p>	<p>○作り方の表が分かりやすかったです。ロケットの打ち上げでは思っていた以上に空高く飛んでいたのでびっくりしました。BやCの火薬も自分達で使ってみたいです。</p> <p>○最初は、口数が少なかったけど、分からないところ</p>
--	---

<p>です。姉から難しいと聞いていたので、心配だったけど、無事にできて、打ち上げもうまくでき、良い思い出になりました。</p> <p>○ロケットづくりは、思ったより本当におもしろかったし、むずかしかった。がんばってつくったロケットを飛ばすのに成功した瞬間はとてもうれしかった。</p> <p>○ぼくは、ロケットづくりは難しいと聞いていたから不安だったけど、ちゃんと自分でできてよかった。班の人とは、あまりしゃべれなかったけど、今度会ったら話したい。</p> <p>○昔何度も何度も失敗して何回も作り直していたのに、今は簡単に作れるから技術がとても進歩していることが分かりました。</p> <p>○ロケットの打ち上げでは、私の想像以上に高く飛んでいくロケットにとて驚きました。また、私たちの夢がロケットと一緒にだれかのもとへ飛んでいけばよいなと思いました。</p>	<p>などを協力してできたので友達が1人増えました。友達と話し合いながら完成したロケットがきれいに飛んでパラシュートが開いたときはとてうれしかったです。来年の5年生もきっと楽しめると思います。</p> <p>○打ち上げが楽しかったです。</p> <p>○ロケット作りでは、製作前半は順調にいったのですが、後半でつまずいてしまいました。今までの私ならそこであきらめていましたが、植松さんの話を聞いた後だったので、粘り強く頑張ることができました。植松さんの話には、すごい力が含まれているのだなと思いました。</p> <p>○不安だったけど、趣味の合う友達ができてよかったです。分からないところはすぐに友達が教えてくれたのでうれしかったです。みんなでロケット作り、打ち上げができてうれしかったです。</p>
---	--

新庄小学校

<p>○どんなふう飛ぶのか不安だったけど、やってみたらすごくおもしろかった。</p> <p>○作る時、同じ班の人と話したり、教え合ったりすることができたのでよかった。</p> <p>○同じグループの人に少し話しかけにくかったけど、勇気を出して話しかけてみると、好きなことが同じ人がいて、うれしかった。</p> <p>○教えてくれた人、話しかけてくれた人がとても優しく接してくれた。</p> <p>○初めて会った人と話しながら作れてよかった。</p> <p>○とても高く打ち上がってすごかった。</p> <p>○ロケット作りはいいねいできた。打ち上げる時は、自分が作ったロケットが打ち上がるのを見て、とても嬉しかった。</p> <p>○難しそうだと思っていたけど、意外と簡単に楽しく作ることができた。</p>	<p>○ロケットを作る時、人とはあまり話せなかったけど、楽しかった。</p> <p>○他の学校の人と協力して作れてよかった。</p> <p>○ロケットの打ち上げをしたとき、ぼくはAのロケットエンジンを使っていたけど、Bのロケットエンジンでは飛ぶ高さが倍ぐらいになっていたの、すごいと思った。</p> <p>○自分達でロケットを作って飛ばしたので、私でもできる！！という自信がもててよかった。</p> <p>○ロケットを作るとき、知らない友達に聞くことができた。</p> <p>○ロケット作りの時は、知らない人と同じ班だったので全く話さなかった。</p> <p>○1人でだまって作ったけど、楽しかった。打ち上げはうまくいったのでよかった。</p>
---	--

川迫小学校

<p>○勢いよく打ちあがってパラシュートが開いた時、すごくうれしかったです。</p> <p>○ロケット作りでは、無言でわからないところだけ聞いただけなので、すぐに終わったから、色塗りがたくさんできた。自分で作ったのが空高く飛んだから、うれしかった。</p>	<p>○ロケット作りを一番楽しみにしていて、上手にできたので、よかったです。</p> <p>○植松さんの言っていた通りに作れて、打ち上げに成功してよかったです。</p> <p>○自分なりのロケットができてよかった。空高く飛んだのですごいなと思った。</p>
--	--

八重小学校

<p>○ロケット作りをしてロケットの作り方・構成が分かったので良かったし、楽しめました。</p> <p>○ロケット作りはとて楽しかったです。一緒の班の人にわからない所を聞いて仲が深まりました。色つけも楽しかったです。打ち上げは自分のロケットに不安があったけれど、高くとんでパラシュートが開いたので</p>	<p>○同じ学校の人がいらないから分からないところがあったらどうしようか不安だったけれど、他の学校の人がはなしかけてくれたり教えてくれたりしたので楽しくできた。</p> <p>○他の学校の子とも仲良くなれたし、ロケットが打ちあがる場所を見れて良かったと思います。自分で打ち</p>
--	--

<p>れしかったです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ロケット作りは意外と簡単で楽しかった。飛ばして取るのはすごく楽しかった。 ○エンジンはA・B・C・Dとあって、威力が倍になっていくと分かった。 ○作っている時、始めは話さなかったけど分からないことは教えあえて楽しかったです。 ○(エンジンの)強さをAよりもCなどでやってみたい。 ○見えなくなるほど飛んだ。 ○AとBのエンジンの違いを見て、2倍の大きさと知った。 	<p>上げるのも楽しいし、達成感があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ロケットを打ち上げてみて、夢と希望が詰まったロケットがたくさん打ち上がっているんだなと思いました。 ○高く飛んでパラシュートも開いたのでよかったです。 ○自分のオリジナルロケットが高く飛んでパラシュートも開いてとてもうれしかったです。 ○楽しかったし、ロケットを自分でまた最初から作ってみたいと思います。
---	---

豊平小学校

<ul style="list-style-type: none"> ○他の学校の人たちと、とても仲良くなれてうれしかったです。 ○班には同じ学校の人はいなかったけど、仲良くなれてよかったです。いろいろな人のロケットを見て「こうすれば良かった」と思いました。 ○飛ばす時は飛んでいくのかドキドキしていましたが、きれいに飛んでいった後はすごくスッキリした気持ちでした。 ○自分が作ったロケットを打ち上げられてうれしかったです。 ○自分の作ったロケットが飛んでうれしかった。 ○思っていたよりあまり飛ばなかったから本当のロケットの勢いを見てみたいと思いました。 ○ロケットを飛ばしたあと、一発で取りたかった。 ○打ち上げの時に、思ったよりも高く上がっておどろきました。 ○自分が思ったより高く打ち上がってびっくりしました。ダイレクトキャッチできたので、とてもうれしかったです。他校の人と、たくさん話して友達がたくさんできました。 ○打ち上げの時、自分の作ったロケットが打ち上がったときとてもうれしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○とっても音が大きかったです。だからびっくりしました。 ○他の学校の人に「どうすればいい」など聞いたのでよかったです。 ○会った事のない人とロケットを作って「作ることがとても上手なんだな」などその人のことを知れてよかったです。 ○他校の人と話すのにすごく緊張したけど、班の人と仲良くなれたので良かったです。 ○作るのは簡単で、実際に飛ばしてみるとすごく飛んでびっくりした。 ○ロケット作りのとき、みんなあまりしゃべらなかったので、しーんとしていた。ロケットの打ち上げでは、飛ぶ高さに驚いた。自分の組み立てたロケットが飛んだことが、とてもうれしかった。 ○他の小学生が教えてくれました。やさしかったです。自分で飛ばせてよかったです。 ○説明書がわかりやすかったです。友達がアドバイスをしてくれてうれしかったです。 ○よくとんだ！ ○作るときに、こんな仕組みなんだとわかりました。
--	---

本地小学校

<ul style="list-style-type: none"> ○友だちとロケットを見せ合ったりして楽しめました。 ○ロケット作りでは、チームで話し合うことができませんでした。自分も勇気が出ず話すことができませんでした。自分から自己紹介をしていたらなど少し後悔しました。 ○打ち上げでは、とてもドキドキしました。自分が作ったロケットが本当に飛ぶか、心配したからです。でも、成功したので良かったです。 ○ロケットは意外に簡単にでき、プラスチックなどで作っていたからびっくりした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○5人くらいで協力しあえた。味わったことのない緊張感、わくわく感を味わえてとても楽しかった。 ○5人で作ることで助け合いがどれだけ大事かよく分かった。 ○町内の友達とあまりしゃべることができなかった。 ○ロケットは、ちゃんと作ることができた。 ○とても高く上がってうれしかった。 ○他の学校の人と、仲良くロケット製作が出来た。 ○他の学校の友達とたくさん話すことができた。
---	--

八重東小学校

- 自分のロケットがちゃんと飛んでくれたのがうれしかった。ロケット作りのとき、分からないところをちゃんと聞くことができたから良かった。
- ロケット作りをするときに、知らない人に話しかけることができたし、友達になれたと思うから、知らない人とロケット作りをしてよかったなと思いました。ロケットを打ち上げたとき、自分が作ったロケットが飛んでとてもうれしかったです。
- ロケットを打ち上げた時の感動・達成感がとても心に残った。自分が友達と協力して作ったものを飛ばしたときとてもうれしかったのを覚えている。自分の夢が叶ったときはこれ以上の嬉しさがあるんだなと思った。

- ロケット作りの時に他の人と話ができなかったけどロケットを飛ばす時ちゃんと飛んでパラシュートもできたのでよかった。
- 他の学校の友達と協力しながら、楽しく、失敗せずに作れた。自分が想像していた以上にロケットが飛んだから、びっくりした。
- ロケット作りのとき、あまり話すことができなかったけど、この機会に、顔や名前を知ることができて、いい機会をもうけてもらえたと思う。
- ロケット作りでは、班で作った。みんなで協力してロケットを作れたのでよかった。
- ロケットをとばすときに、夢に向かってとんだのでうれしかったです。
- ロケット作りのとき、ほかの学校の人と話せたのですごく楽しかったです。

壬生小学校

- ロケットを作るときにはあまりしゃべれなかったけど、打ち上げは楽しかった。
- 自分の手で作って、自分の思いでデザインして、自分で飛ばしてみても楽しかった。
- ロケットを飛ばすときには、「ちゃんと飛ぶかな。パラシュートが開くかな」と心配でした。植松さんにも手伝ってもらいとてもうれしかったです。
- あんなに小さいのに、飛んですごいと思った。
- どんなこともあきらめずに思い切って行動したい。
- 作り方がわからなくても、話し合えた。
- 助け合ってロケットが作れた。打ち上げたらすごく飛んだのでとてもうれしかった

- 自分が作ったロケットがあんなに飛んで、きれいにパラシュートで落ちてくるとは思わなかった。
- ちゃんと飛ぶのか不安がありましたが、作り終わった後の達成感はずごくありました。ちゃんと夢と希望を乗せて、飛ばせたと思います。こんな経験ができてとってもよかったです。
- 初めて会う他校の人と話しながらロケット作りができた。
- 緊張してほぼ誰も話していないので、交流はあまりできなかった。でもまたやりたい。
- ロケットは大きくて、自分には遠いものだと思っていた。けれど自分にもできた。がんばればできないことなんてないんじゃないかなと思った。

ふるさと夢プロジェクトを通して学んだこと

芸北小学校 山脇 歩子

「足りないところがあるから、助け合える。」この言葉が一番心に刻まれた言葉だ。私は、今まで足りないところがあったら「どうにかしないと」と、うまくごまかすことが多かった。そして失敗すると、「自分なんか・・・」と思うことが多かった。しかし、今日はじめに聞いたこの「足りないところがあるから助け合える。」と言う言葉は、私にとって思いがけない言葉だった。植松さんは、自分の弱点を助けてもらいながらプラスにしていこうと考えられたのではないかと思う。だからみんなで助け合わなければできない、一人ではできないから友達を大切にしなければならぬという思いを持っての言葉だったと思う。私たちは、これまで挑戦科や総合的な学習の時間を通して協働する力をつけてきたが、その力を学習の時間だけではなく、いろいろな場面でも忘れずに過ごしていきたいと思った。また、苦手なことをマイナスに考えずに、友達の力を借りて頑張ろうとプラスに考えていこうと思う。

もう一つ心に残った言葉がある。それは、「失敗するのは当たり前だ」ということだ。今まで挑戦科などで『失敗は成功のもと』だからたくさん失敗しなさい。」と言われてきた。でも、やはり失敗はいやだし、やるからには成功したいという思いが強かった。そんな私だが、今日の植松さんの話は、今までとは少しちがった気がする。「私たちは、ぶっつけ本番でこの人生を生きている。だから、失敗するのがあたりまえだ。その失敗をしたときに、どうしてだろうと考えることが大切だ。」と言われたことで、気持ちが楽になった気がする。この考え方は挑戦科とつながっていると思った。この言葉だけでは、まだ失敗するのがこわいと思う人のためにこんな言葉もプレゼントしてくださった。「逃げずに向き合った先に喜びがある。」と言う言葉だ。逃げるばかりだとよいことはなく、何度もチャレンジすることで成功することができたり、その喜びを分け合えたりできるということを伝えたかったのだと思う。

地域の高齢者の方との「ふれあい教室」では、説明したことがなかなか伝わらず、ゲームのルールもわかってもらえなくてどうしようとても不安になった。しかし、あきらめず話を盛り上げようと身ぶりや手ぶり、笑顔で最後まで頑張った。たいへんだという気持ちが強かったが、高齢者の方の笑顔が見られてうれしかった。そのようなことが「逃げずに向き合った先の喜び」ではないかと思った。

植松さんの話が終わり、いよいよロケットづくりのスタートだ。「ふれあい教室」のようにやればできると思っていた。「席について班ごとに話し始めてください。」と言われた。話し始める勇気が出なかった。おじいさん、おばあさんとは話せるのに・・・なぜか同学年だと気まずかった。

はじめての言葉は、「これでいいですかね。」と聞いたくらいで、もう少し内容が深まる質問をすればよかったと思った。その後、ロケットに色を塗っているとき私が使っているマジックを貸してほしそうにしている人がいたので渡してあげた。それから目が合うようになり、自然に話ができるようになった。小さな出来事につながることができた。今回の夢プロジェクトではたくさんのお話を学ぶことができた。これからは失敗をおそれず、たとえ失敗してもチャレンジする気持ちをわすれずに進んでいきたいと思えます。

ふるさと夢プロジェクトで学んだこと

芸北小学校 上新 ゆな

「一時間も話を聞くのかー長いなあ。」と少し不安をもちながら、千代田運動公園に出発しました。行きのバスの中で友達とロケットにどんな模様をかくかについての話や、植松さんはどういう話をされるのかを予想したりしました。そして、いよいよ植松さんの話ははじまりました。早口で聞き取りにくいところがありましたが、私の生活のどの場面で植松さんの話が生かされるかなと考えながら聞いていました。この植松さんの話を聞いて一番心に残った言葉は「自分が失敗しても自分をせめるな。」です。私は、いつも失敗したら、「自分が悪い」と思いこんでしまい、次に進むとき、「もう一回同じことやったらどうしよう。」と不安になり次に進むことがこわくなります。そのことが何度もくり返されるので、「もう、やめたい」と思ってしまいます。今日、植松さんが「自分をせめるな」というアドバイスをくださり、とても、勇気もてました。「自分をせめて、当然だ。」と思っていたことが、せめたらむしろ自分が苦しくなるばかりだということに気付くことができました。

もう一つ心に残った言葉があります。「夢は一つじゃなくていい。むしろたくさんあったほうがいい。」という言葉です。一年生や二年生の時は、たくさんあり、それをみんなに、「私は、こういう夢があるよ。」とよく自慢していたけど、四、五年生のころ、「えーそんな夢なの？もっとまともな夢にしんさい。」と言われグサッと心が痛みました。「確かにこんな夢をたてた自分がばからしい」と感じ、自分にあつたまともな夢を一つだけにしぼり、今の夢に決めました。「もっとやりたい夢はあるのに決めづらい」と思い、たくさんの夢は、高学年らしくないと思っていました。しかも、自分の夢を友だちに言ったら、「この夢はかなわんかもしれんし、かわるかもしれんよ。転勤もあるし、安定するものにしんさい。」と言われて、もうくずれかけていました。しかも、言われた言葉を、「たしかにそうだ。」と受け入れてしまい、言い返すことができなくてすごく残念でした。「六年生になってもまだ将来の夢を決めてない。また変な夢たてたん。」と言われるのがこわくても、う夢をたてたくなかったです。

この一週間は、しんけんに夢をもつことをずっと考えていました。そんな中で植松さんの言葉「夢は一つじゃなくてたくさんあっていい」ということがすごく心にひびき「たしかに、人に言われてばかりじゃ人の言いなりになるだけで、なんにも自分の役に立たない。」ということに気づくことができました。だから、今まで私が一番やってみたかった夢をあきらめずに、ずっと思いをもって過ごしていけばいいのだということ、あらためて知ることができました。そしてこれからも自分が失敗しても自分をせめず、自分の夢をあきらめないようにすることを大切にしていきたいと思います。

自分を信じる

芸北小学校 吉村 朱稀良

10月17日。今日は、北広島町内の六年生が、みんな集まる、ふるさと夢プロジェクトの日だ。今年は、「思うは招く。」ということで北海道から植松努さんが講演をされ、ロケットの作り方を教えてくださいました。植松さんは、これからの未来につながるキーワードやアドバイスを教えてくださいました。私が心に残ったのは、『『どーせむり』を言わない。』『だめと言っている人は、やったことのない人。』そして、一番心に残ったのは、「失敗をしない人間は、いない。人間は、新しいことをやるのだから失敗はつきもの」です。

他にも心に残ったところがありますが、主にこの三つが、心に残りました。

一つめの、『どーせむり』を言わない。』は、私たちの心の中にある気持ちだと思います。私の心にも出てくる気持ちです。私は、この気持ちでテンションが下がったり、あきらめたりしています。

でも、植松さんは、「自分に対しても、人に対しても言わない。」とおっしゃいました。たしかに、人に、「どーせむり」と言われて、気持ちが下がり」やりたいことができなくなってしまう。少しでも、その夢に向かって努力ができるようにマイナス発言を言わないようにしようと思いました。

二つ目の「だめと言っている人は、やったことのない人。」は、私も、ふと「考えてみたらいいな」と思いました。だれでも、「だめ」言うことはありますが、やったこともないのに、「だめ」と言ったり、「むり」と言ったりする人がいますが、それは、やっていない人の意見なので、まずは、やってみる。不可能を可能にしたいと思いました。私も、進んでやりたいことをやりたいと思いました。

三つ目は、「失敗をしない人間は、いない。人間は新しいことをやるのだから、失敗はつきもの。」と、おっしゃいました。たしかに、私たちは、小さい赤ちゃんのころから、失敗を重ねてきています。でも、今になると失敗がはずかしいです。でも、その失敗があったからこそ、今こうして成長していられるのではないかと考えると、失敗をしすぎてはいけません。失敗をするのも悪いことではないのだと思いました。

植松さんのお話は、どれも、これからにつながることで役立ちました。私も、すぐにあきらめずがんばりたいと思いました。

植松さんの講演が終わったあと、ロケットを作りました。私たちの班は、自己紹介をしてから始めました。すると、気軽に話ができ、教え合うことができ、とってもいいものになりました。これからも自分から積極的に話そうと思いました。

学ぶことの多かったふるさと夢プロジェクト

新庄小学校 橋本 紗季

10月17日、ふるさと夢プロジェクトで植松努さんのお話を聞き、ロケット作りに挑戦しました。

まず、植松さんのお話を聞きました。植松さんは、私達にたくさんのことを教えてくださいました。私は、このお話を聞くまで自分のことを「勉強ができないからだめだ」とか、「自分にはいいところがない」などと思っていました。しかし、お話を聞いてからは、自分にも1つくらいはいいところがあるのかなという気がしてきました。それを感じられた時、私はとてもうれしかったです。今までたくさんいやなことや悩むことがあって、どうすればよいか分からなくなってしまったこともありました。とてもつらかったです。でも、植松さんの話を聞いているうちに、そんなつらいことがあったからこそ今の自分がある、私が生きている毎日にはとても大きな意味があると思いました。植松さんのあきらめなければ何だってできるという言葉や、人と人との出会いには意味があるということを知り、今自分が生きていることをとてもありがたく感じました。どうしてかというと、生きられるのは1回だけど、その中でいろいろな人に出会ったり、どんなことにでもチャレンジしたりすることができるからです。私は、植松さんの話を聞いてとても勉強になり、勇気が出ました。

次に、ロケット作りをしました。私の班は6人で、男女3人ずつでした。とても静かなふん囲気のまま始まりました。私は、なかなかとなりの人に話しかけることができません

でした。それでも、ロケット作りで分からないことを少しずつたずねることができるようになり、スムーズに作り上げることができました。とてもうれしかったです。

いよいよロケットを飛ばすことになった時、自分のロケットは飛ぶのかとても不安でした。でも、スイッチを入れると遠くの方まで飛んで、見ていると楽しい気分になりました。他の人のロケットも次々と遠くへ飛んでいき、青空の中でとてもきれいでした。打ち上がった後は、パラシュートが開いてふわふわとあちこちに落ちてくる様子がおもしろかったです。

今回のふるさと夢プロジェクトで、私はいろいろなことを学ばせてもらいました。教えてもらったことをいつも思い出して、一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。

たくさん学んだふるさと夢プロジェクト

新庄小学校 有田 權人

10月17日に、千代田運動公園でふるさと夢プロジェクトが行われました。植松さんの講演を聞いた後、ロケットを作り、実際に飛ばしてみようという内容でした。

まず、植松さんの話を聞きました。この時ぼくは、なるほどと思うことがいくつもありました。1つ目は、「できない」という人はやったことがない人だということです。ぼくにも思い当たることがあります。それは、昔、宇宙飛行士になりたいという夢を持っていたころのことです。母に話すと、「英語がしゃべれないでしょ。」とか「どうせ無理。」とか言われました。しかし、これは植松さんが言われたように、やったことがないだけなのだなと思いました。それに、「どうせ無理。」という言葉は、人の可能性や自信をうばう殺人のようなものと言っておられたことにも共感できました。「どうせ無理。」と言われた時、ぼくはとても落ち込みました。だから、ぼくもこの言葉を言うてはいけないなと思いました。

2つ目は、夢があれば何でもできるということです。植松さんは、子供のころ先生にたくさんおこられて、自分はだめだなと思っていたけれども、ロケットを作るという夢を持ち実現されたと聞きました。その時、夢を強く思っていれば本当にかなうのだなと感じました。だから、ぼくが昔否定された宇宙飛行士になる夢を、もう一度持ちたいと思いました。

3つ目は、自分の夢をみんなに伝えるということです。ぼくは、宇宙飛行士になる夢を持っていたころ、「ようちだな。」などと言われるのがいやで、将来の夢をたずねられた時は、いつも「無い。」と答えていました。でも、今回植松さんの話を聞いて、自分の夢は自信を持ってみんなに話した方がいいんだなと思いました。今後、実行したいです。

次に、ロケット作りをしました。植松さんから、話し合っって協力して作るように言われたけれど、ぼくは他の人とあまり話すことができませんでした。他の人が楽しそうに話しているのを見ても、自分はずかしくてしゃべりたくないと思っていました。しかし、後から思えば、もっとみんなと協力し、話し合っって作ればよかったです。ぼくは、「聞くは一時のはじ、聞かぬは一生のはじ」ということわざを聞いたことがあります。まさにその通りです。これからは、このように協力したり話し合っったりする機会が増えるので、この経験を生かし、いろいろな人から話を聞いて物事を進めていきたいと思いました。

最後に、自分達が作ったロケットを飛ばすことになりました。自分が作った世界に1つだけのロケットが飛ぶのは、とてもうれしかったです。ぼくのロケットも無事飛んでくれました。飛ぶ様子を見て少し感動してしまいました。

今回、ふるさと夢プロジェクトに参加して本当によかったと思います。植松さんのお話やロケット作りで学ぶことがたくさんありました。これからは、この学んだことを生活に

生かしていきたいと思います。

チャレンジすることの大切さを学んだふるさと夢プロジェクト

新庄小学校 森田 野子

10月17日に、ふるさと夢プロジェクトに参加しました。初めに、北海道から来られた植松さんの講演を聞きました。植松さんの話を聞いて一番印象に残ったことは、だれもが失敗をしたことがあるから、自分の失敗をおそれずにいろいろなことにチャレンジするとよいということです。私は、この話を聞くまで、失敗するといやだから新しいことにあまりチャレンジしていませんでした。でも、話を聞いてみて、失敗することはおかしいことではないから、新しいことに挑戦しようと思いました。そして、できることを増やしていこうと考えました。

次に、ロケット作りをしました。1班から24班に分かれてロケットを作りました。私の班は18班で、班の中に同じ学校の友達はいなくて、違う小学校の人ばかりでした。ほとんどの人が今日初めてあった人だったから、どう話していいのか分からず、きん張しました。しかし、知らない人と話すという目標を自分で立てていたので、積極的に話そうと思いました。私が班の中で最初にロケットを完成させたので、まだできていない人に「どうやるか分かった。」とたずねてみたり、やり方を教えてあげたりしました。すると、「教えてくれてありがとう。」と言ってくれたので、とてもうれしかったです。最初は話しかけにくかったけれど、最後はふつうに話すことができるようになったので、話しかけてよかったと感じました。これからも積極的に話しかけて、友達を作っていくことができたらいいなと思いました。

最後に、みんなで外に出て、自分達で作ったロケットを学校ごとに飛ばしました。自分で作ったロケットはうまくできたけど、ちゃんと飛ぶかどうかとても心配しました。しかし、私達の作ったロケットは、ほとんどが遠くに高く飛んだのを見て、とてもうれしかったです。よかったとほっとしました。植松さんが、「ロケットは簡単に作られるよ。」と言われた時は本当かなと思いました。しかし、みんなで協力したら簡単にできたし、思ったより高く遠くに飛んだので、協力したり努力したりすれば自分達にもできるということを感じました。

私は、植松さんの話を聞いたり、他の学校の人と交流したりすることによって、チャレンジすることの大切さが分かりました。他の学校の人と話すのはとても勇気がいるけど、思い切って話しかけると、ふつうに話すことができるようになりました。これまでは一歩ふみ出すことがこわくて、いろいろなことにチャレンジできななかったけれど、これからはどんなことにも少なくとも1回はチャレンジしてみるようにがんばりたいです。

夢プロジェクトの体験を終えて

川迫小学校 水川 乃音

今回、夢プロジェクトに参加して、思ったことはたくさんあります。

まずは、植松さんのお話です。スクリーンを見ながら、お話を聞きました。最初は、自己紹介から始まりました。とてもおもしろいお話でした。他にも、PS4の車のゲームを買ったけど、満足できなくて、自分で本当に運転できるようにしていたので、すごいなと思いました。

小さい頃のお話では、忘れ物をいっぱいして、先生にもどなられて、それでもまた次の日も忘れ物をして、それが何回も続いて、なぐられたりしてきたそうです。また、先生に

自分になりたい夢を言ったら、「そんな頭じゃー無理。」などと言われて、正直あきらめそうになっていたけど、あきらめずに自分の夢を叶えていました。私にも夢があるので、親に「無理よ。」と言われても、あきらめずにその夢に向かって頑張りたいなと思いました。

その他にもロケットのお話を聞きました。1回目に発射した時は、飛ばずに爆発だけしたそうです。でも、たくさん研究してやっと飛んだとき、スクリーンの人たちが嬉しそうな顔をしていたので、飛んでよかったし、すごい人たちだなと思いました。私は、植松さんに言われたことを心の中にしまって、生きていきたいなと思いました。

次に、ロケット作りをしました。私の班は、知っている人が2人いました。でも、もくもくとしていたので、わからないところだけ聞いて、後は自分たちでやりました。色ぬりの最初は、きれいにやったけど、最後は適当になってしまいました。

最後は楽しみにしていた打ち上げに挑戦しました。エンジンをつけてスイッチを押して発射しました。私は一哉君と一緒に飛ばしました。自分で作ったロケットを、空高く飛ばせたのがすごくうれしかったです。

私にとって今回の体験はとても大切なものになりました。これから夢をあきらめずに生きていきたいです。

ふるさと夢プロジェクトで学んだこと

川迫小学校 崎原 彩心

「ロケットを作って飛ばせるんだよ。」と先輩たちから教えてもらっていて、6年生の夢プロジェクトをととても楽しみにしていました。今回、そのふるさと夢プロジェクトに参加して学んだことがたくさんあります。

その中で特に印象に残っていることは、植松さんのお話を聞くことができたことです。植松さんのお話は、笑えるところや勇気を与えてくれるところ。これから将来に関わってくる話など、何もかもが印象に残っています。

植松さんが、中学生の時、進路のことで「飛行機や模型に関する仕事につきたい。」と先生に相談したら「おまえには、無理だ！」と言われてたそうです。しかし、今ではその夢がかなっているの、すごいと思いました。

私の将来の夢は、動物看護師とフライトナースになりたいということです。私は、植松さんの話を聞くまで、夢は1つしか持ちちゃいけないと思っていました。その2つの夢のフライトナースをあきらめようと思っていました。それこそ私は、頭がよくなくて、もっとダメだ、と思っていました。ところが、植松さんのように自分に自信を持って、その夢に向かってがんばれば、夢はかなうということがわかりました。だから私も、2つの夢をあきらめずに、将来は、動物や人間の命を医師と一緒にあって助けられるような人になりたいです。

その他にも植松さんの話の中には、自分の好きなものをいろいろ作ったこととか、おもしろい話などもありましたが、やはり、決して大人の言葉に負けないで自分の夢を信じて生きていけば、必ず夢はかなうのだということが心に残りました。

最後にみんなでロケットを作って飛ばしたのは、楽しかったです。飛ばすとき、パラシュートがきれいに開くかどうか心配だったけど、高く飛んでいったロケットが、パンッ！とってパラシュートが開いたので、とても安心しました。

これから、高く飛んだロケットのように、自分の夢に向かってがんばっていきたくです。植松さん、本当にありがとうございました。

夢をロケットに乗せて

八重小学校 末長 愛子

今日、「ふるさと夢プロジェクト」がありました。

まず、植松さんのお話です。植松さんは、自分の夢を叶えることのできた人です。

私が一番心に残った話は、「自分の夢を信じるのが大切です」というところです。私の将来の夢は医者になることです。確かに頭が良くないとできません。でも、「仕事をしながら夢だった仕事の役に立つような仕事をすればいい」のです。

植松さんのお話は1時間くらいあったけれど、その何倍もの意味があって、「確かに」「なるほど」といろいろなことを考えさせて下さいました。

そしていよいよロケット作り。とても楽しみで仕方ありませんでした。

私は10グループです。10グループの机を、私を合わせて6人で囲みスタートしました。難しそうに見えたけれど、説明書を読むと意外と簡単でもくもくと作業しました。

たまにとなりの友達が「ここどうするの?」と聞いてきてくれて、私は教えてあげました。そしてみんなほぼ同時にできました。私は色ぬりもすぐにできて、時間内に終えることができました。

でき上がったロケットを外に持っていき、ロケットを飛ばします。私の心臓が高鳴ります。始めの人が打ち上げしました! 「ヒューン」と高い音が鳴り響きます。私は一気にテンションが高くなりました。「わぁー!」…みんなだけでなく自分まで一緒にさわいで、わいわいしました。

いよいよ私の番になりました。「パラシュートはちゃんと開くかな?」と、不安でしかありませんでした。

「3・2・1…0!」

「ヒュー」と高い音が鳴り響きます。それに続けて「バサッ」という音が聞こえます。

成功です。私はその場に突っ立っていました。ロケットを取りに行かないといけないということを思い出し、急いで行きました。すると、なんとダイレクトで取れたのです! これにはすごくびっくりしたし、うれしかったです。私の「うわぁ〜!」という声は、最後まで続きました。

閉会式では、また植松さんがお話をして下さいました。やっぱり植松さんの言葉一つひとつにはちゃんとした意味があり、とても言葉の「重み」を感じました。

ふるさと夢プロジェクトは、行ってよかったなと思えるものでした。

「思い」がつまったぼくのロケット

八重小学校 増本 武士

今日、夢プロジェクトがありました。

ぼくは、わくわくしながらバスに乗りました。しばらくして運動公園に着きました。他の学校の友達も集まって、開会式が始まりました。開会式が終わると、いよいよ植松さんのお話です。植松さんのお話を聞いて、ぼくは特に「なるほど」と思ったところが3つあります。

1つ目は、「不安を乗り越えた先にうれしさがある」というところです。なぜかという、ぼくは、「これでいいのかな」など迷ってしまうことがよくあります。だから不安をさけてきました。でも、その不安に勇気を持ってぶつかれば、その分のうれしさが返ってくるということが分かったからです。勇気を持ってチャレンジすることが大切ということが分かりまし

た。

2つ目は、「やったことのない人に、そのことを聞いても無意味」ということです。その人は、やったことがない。やったことがないなら、やってみないと分からないのに、もう無理とやる前から決めつけているからです。

3つ目は「どうせ無理」と言わないことです。なぜかという、始めから無理と決めつけているし、それを他の人に言うということは、他の人の夢をこわしているのと同じことだからです。この話を聞いて、他の人に何を言われようと夢を見失わずに、夢を追い続けることが大切だということが分かりました。

次はいよいよロケット作りです。各グループに分かれました。ぼく達のグループは自己紹介をしてから作り始めました。

まず、フィンユニットとエンジンマウントを合体させてリングをはめ、ボンドをぬりボディチューブをはめこみました。そして綿のようなものを入れます。次にノーズコーンにねじをはめ、ゴムを2回強く結び、ゴムをボディチューブに取り付け、そのゴムのところにパラシュートを取り付けます。最後にパラシュートをたたんでボディチューブに入れ、その後にゴムを入れノーズコーンをはめれば完成です。

作り終わってご飯を食べると、いよいよロケットを飛ばすときがきました。みんなグラウンドに集まり、飛ばし方のお話を聞きました。ぼくは6番目でわくわくしていました。

ぼくの番がきました。まず、ロケットの下の方にエンジンをつけます。そして発射台にセットし、「3・2・1」で発射しました。ぼくは、ロケットが打ち上がる前は「パラシュートが開くかな」などと心配していたのですが、パラシュートが開いてダイレクトキャッチできました。なんだか、ロケットを打ち上げたときの植松さんの気持ちが分かった気がしました。

ぼくは、植松さんの話を聞いて勇気が出ました。自分を見失わないように、失敗をおそれずチャレンジしていきたいです。

夢を持つ意味とは

八重小学校 田中 茜

今日、ふるさと夢プロジェクトがありました。

植松 努先生のお話を聞いて、ロケットを作り飛ばしました。

まず植松先生のお話を聞きました。植松先生は、未来や夢のことを話されていました。私が特に心に残った言葉は、3つあります。

1つ目は「買えなければ作ればいい」という言葉です。いくらお金があっても、売ってないのだから作ってしまうという発想は私にはありませんでした。ホームセンターに行けばロケットの材料も買えるし、本屋に行けば作り方の参考書もある時代なのすごいと思いました。

2つ目は、「人の可能性をうばうというのは、人殺しと同じこと」という言葉です。人の夢を見下して笑うと、その人の夢は未来に役立つかもしれないのに、なくなってしまうかもしれません。夢をあきらめたら生きていてもつらいので人殺しというのはまさにその通りだと思いました。この言葉を聞いたとき私は、どういうことか分からなかったけれど、意味を知るとなるほどと思いました。

3つ目は、「人との出会いはとても意味があります。だって会っちゃったんだから」という言葉です。この言葉は、植松先生のお話を聞いた中で一番心に残りました。軽い感じだけれど、大きなことをいっているように感じました。一人の力でがんばっても一人分の力

だけれど、何人かで力を合わせると何倍にもなると考えることができたり、同じ夢を持つ人と出会って自分の夢に自信が持てることができたり、いろいろな考え方ができる言葉だなどと思いました。知り合いになれば分からないことは教え合えたり、考えを伝え合ったりできる「人の出会い」はとても大切だなどと思いました。

良い言葉や名言のようなとても深い意味のある言葉が他にもたくさん出てきて、植松先生の話聞いてよかったですと思いました。

次に、他の学校の人と班に分かれて、ロケットを作りました。私はがんばって話しかけようと思いました。でも、周りの空気におされてしまって話しかけられませんでした。となりの班はみんな楽しそうに話しながら作っていてすごいと思いました。私達の班はしばらく静かだったけれど、分からないところは教え合って、ロケットにデザインするころには笑顔になれるほどきんちょうがとけていました。なかなかデザインが思いつかなくて時間もなかったので、簡単な牛の模様にしました。分かりやすいしけっこう気に入っています。

そして最後にロケットを飛ばしました。見本を見て、自分で作ったロケットが飛ばせるなんてすごいと、改めて思いました。時代が進んだんだろうなど思いました。私のロケットは、なぜか一人だけ逆方向に飛んで行きました。

夢を持つ意味を知ることができたし、ロケットを作って飛ばせた貴重な1日でした。

大事なことを学んだ夢プロジェクト

八重東小学校 田津 智香

私は夢プロジェクトで植松努さんの話を聞いて、いくつか心に残った言葉があります。それは、「不安の先に喜びがある。」という言葉です。また、「失敗することをこわがらずに挑戦することで、人は成長できる。」という言葉も心に残っています。私は、何かするときには必ず「これって大丈夫かな。」や「失敗しないかな。」と考えます。そうやって考えていると、失敗する気がしてきて、「まあ、いいや。自分がやらなくてもいいだろう。失敗するのはいやだから。」となることもあります。でも、植松さんの話の中で、「人は失敗するけど、こわがっていると何もできなくなってしまう。」と言われて、「そうか、失敗してもいいんだ。成功するまでやり続ければいい。」と思えました。だから、これから失敗することをおそれずに挑戦してその先にある喜びを作り出したいです。

他にも心に残ったことがあります。「人の出会いには意味がある。」という言葉です。確かに出会ってその後の人生が変わることはたくさんあると思います。そういう経験はないけど、植松さんの話を聞いていたら、なぜかそう思えました。また、「一人でやろうとしても、できるのは一人分だけだ。でも、助け合うことでそれ以上のものができる。」という言葉から、出会った人と協力できるといつか自分の夢がかなったり、発明ができたりするなど、いいことが起きるかもしれないということも学びました。だから、一人一人の出会いを大切にしていきたいです。

植松さんの講演が終わると、ロケット作りが始まりました。最初は、「ロケットをちゃんと作れるかな。」「班の人と話せるかな。」と不安ばかりでしたが、ロケット作りが進んでいく中で、班の人が「ここ、どうするんかね。」と言っていたので、私の方から話しかけて手伝いました。私は話しかける時にすごくきんちょうすることはないけど、知らなかった人に実際に話しかけることができ、とてもうれしくなりました。最初は不安しかなかったのに、その時からとても楽しくなっていました。ロケットが完成すると、とても安心しました。私にもロケットが作れてしまって、おどろいた気持ちもありました。次の発

射が楽しみだけど、「ちゃんと飛ぶかな。」と心配する気持ちもありました。でも、「不安の先に喜びがある。」とあって、「きっと大丈夫。」と考えました。

昼食を終え、不安と楽しみのロケットの発射の時間がきました。私は、順番が後の方だったので、友達のロケットが飛んでいる時、「私のロケットは飛ぶかな。」とドキドキしていました。そう思っていると、私の番が来てカウントダウンが始まりました。「3, 2, 1。」と数え、ついに発射しました。私のロケットはちゃんと飛び、パラシュートが開いて、無事に私のもとに帰ってきました。ロケットを回収して、私の手に乗っているパラシュートを見て、とてもうれしい気持ちになりました。

私の力だけではロケットは飛んでいなかったでしょう。友達と助け合いながらロケットを作ったので、その友達に「ありがとう。」という気持ちもわいてきました。植松さんやその準備などをしてくださった方にももちろん感謝です。

今回の夢プロジェクトで、私は、人との出会いの大切さを学びました。これからの出会いを、自分の人生に大きな意味を持つのではないかと、自分の人生を変える人かもしれないと考え、一つ一つの出会いを大切にしていきたいです。

とても貴重な「夢プロジェクト」

八重東小学校 山崎 鈴花

私は、北広島町のふるさと夢プロジェクトに参加しました。植松電気の植松さんとスタッフの皆さんが、北海道からここ北広島町までおこしく下さいました。北広島町内の6年生が集まって、植松さんのお話を聞いたり、ロケットをみんなで協力して作って飛ばしたりしました。

まず最初に開会式がありました。校長先生のお話や教育長による、みの町長のあいさつの代読がありました。わたしは、みの町長の植松さんについてのお話を聞いて、植松さんからのお話が気になったし、早くロケットを作って飛ばしたいと思いました。

開会式の後には、植松さんの講演でした。植松さんのお話には、自分の夢や将来について、大切なことがたくさんありました。私が心に残った言葉は、二つあります。一つ目は「きせきをおこすキーワード『ちがう』は『すてき』」です。この言葉は、「だれだって失敗はする、でも失敗をするのは新しいことをやるから。周りの人たちに『ちがう。』と言われても新しいことをやって失敗することに意味がある。だから、『ちがう』は『すてき』」なのではないかと私は思いました。

二つ目は「不安の向こうに喜びがある。」です。植松さんは「不安を乗り越えたら、必ず喜びが待ってるよ。」とおっしゃっていました。私も、先日あった山県郡陸上記録会でそういったことがありました。選択種目で、1000m走を私は選びました。しかし、練習中に足をいためてしまい、本番前一週間も練習できなかった状態で出場しました。最初は「全然走れないのではないかな。」「タイムが落ちるのではないかな。」など、とても不安で、正直走るのがいやでした。でも、あきらめず最後まで走ったら、30秒以上タイムが縮まりました。走る前の不安がすべてとび、喜びだけが私の心の中にありました。植松さんがおっしゃったように、不安を乗り越えたら必ず喜びが待っているんだなと思いました。

今回、植松さんにお話していただいた貴重なお話を思い出しながら、これからの人を過ごしていこうと思いました。

講演の後には、いよいよロケット作り。班に分かれて、他の学校の人たちと協力しながら作ります。まず、自己紹介をして製作に取りかかりました。説明書を見たり、分からないところを班の人と教え合ったりしながら、上手にロケットを作ることができました。仕上

げに自分の好きな色をぬって、世界に一つしかないオリジナルのロケットを作りました。今回の夢プロジェクトの目標の一つは、他校の6年生との仲を深めることです。分からないところをお互いに教えあいながら製作することによって、今まで話したことのなかった人とのきよりが縮まったのではないかと思います。

昼食後は、待ちに待ったオリジナルロケットの発射です。どれぐらいの高さまで飛ぶのか想像がつかなかったし、ちゃんと飛んで、パラシュートが開くのか不安もありました。自分の前の人たちのロケットを見て、「あんなに高く飛ぶんだ。すごいな。」と思いました。私のロケットも高く飛んだので、びっくりした気持ちとうれしい気持ちとがまざりました。発射の時、みんなで「3, 2, 1, ゼロ。」と言って飛ばすのが楽しかったです。ロケットの製作中、全体のふんい気は少しきんちょうした感じだったけど、かけ声をかけることによって、ふんい気がやわらかく、明るくなったのではないかと思います。

今日の夢プロジェクトは、講演もロケット製作や発射もすべてこれまで経験したことのないとても貴重なものとなりました。

楽しくて心に残った夢プロジェクト

八重東小学校 横田 雄大

担任の先生から、夢プロジェクトがありますと言われた時、どんなことをするんだろうと楽しみでした。

いよいよ当日になりました。最初は、植松先生による講演でした。そこでは、「なりたいたい自分になるためのひけつ」や「『どうせ無理。』などあきらめの言葉を言われても、しんぼう強く、分かり合える人に出会うまで、信じて待つことが大切」などを教えてもらいました。

ぼくが、この中で特に心に残ったのは、何事もあきらめず、自分がなっとくできるまで追きゆうするということです。ぼくは、この話を聞いて、今までいろいろなことをあきらめていた自分がばかなことをしていたような気がして、とてもはずかしいなと思いました。その他にも、やったことがない人にやり方を聞いても、できない理由しか教えてくれないということも心に残っています。ぼくはその話を聞いて、それ、当たってると思いました。前に、ぼくが料理をしている時、お父さんに調味料の作り方を聞いたら「ぜったい作れんけえ、やめときんさい。」と言われたことがあります。そのことを思いながら聞いていくと、ぼくは「植松先生、めっちゃすごいじゃん。無理だと思われていても、やりきっているなんて。」と心の中で共感したり、おどろいたりしていました。やっぱり、先生はいい大学を出ているのかなと思っていました。けれど、ふつうの学校で、せいせきもあまりよくなかったそうです。それなのに、なぜ、こんなすごいことができるんだろうと思いました。すると、植松先生は「夢はあきらめなければ、何でもできる。」とおっしゃいました。「いくらひどいことを言われても、自分の夢をあきらめず、一生けんめいがんばることが大切だ。」とおっしゃっていました。ぼくは、すぐにあきらめてしまうところがあります。でも、あきらめず、たくさんの人と協力して自分の目標に向けてがんばってこられた植松先生の様子を聞いて、植松先生は本当にすごい人だと思いました。ぼくは、植松先生みたいなりっぱな人になりたいなと思いました。

その後は、6人の班でロケットを作りました。ぼくは、どちらかと言うと作ることが得意です。だから、一番にできて、他の人に教えてあげられるかなと思っていました。けれど、思った以上に同じ班の女子が早いので、ぼくはとてもおどろきました。そして、教えてもらう側になってしまいました。ぼくは、一緒にロケットを作りながら、たくさん話

しかけたいと思っていたのに、自分からは話しかけられなくて残念でした。でも、相手から話しかけられただけでも、ちょっとは心の距離が縮まったと思います。

ぼくは、この夢プロジェクトで、たくさんのことをいろいろな人に教えてもらいました。それに新しい友達が二人もできました。この夢プロジェクトは、楽しいだけでなく、他の学校の人との深いきずなというものを築かせてくれる場なのだとあらためて実感しました。もっと、このような夢プロジェクトを増やして、他校の人との交流を深めたいし、たくさんの人に植松先生の話聞いてもらいたいです。そして、目標を持ったり、あきらめない気持ちを高めたりしたぼくのように、たくさんの人が夢をかなえる勇気をもてたらいいなと思います。

「奇跡」を再確認できた日

豊平小学校 平 弥生

「あっ。」

久しぶりに会った人を見つけると、蚊の鳴くような声で何度もそう言っていました。しかし、「今日は何をしに来たんだ。このままじゃいけない。」と考えを改め、あいさつにチャレンジしました。

「おはようございます。」

と元気良く言っていると緊張がほぐれ、話しかける勇気がわきました。

今回、参加した目的の中に、もちろん友達を増やすということもありました。しかし、一番は、植松さんの話を聞いて、これからどうしていくか自分で考えてみることでした。実際、話を聞いてみると、おもしろい部分もありました。また、真面目な部分もありました。植松さんの、

「人にはたくさんの出会いがあるんだよ。そして、人との出会いには意味があるんだ。奇跡なんだよ。」

という言葉が心にささりました。この言葉を聞いて、「世界は、自分が思っているより広いんだよ。」と言われた気がしました。また、

「たくさんの人に自分の夢を話してください。」

という言葉も心にささりました。「夢は人に言うとかかわない」と私は思っていて、夢を人に話すことは全然してきませんでした。しかし、夢は話したほうがよいと知り、その日から夢を友達に言っています。

ロケット作りでは、私は7班のメンバーでした。自分でも「7班だけ、声大きいかな。」と聞いていたが、他の班だった同じ学校の人に、

「なんであんなに、盛り上がるん。」

「すごい声だったよ。すごい聞こえた。」

と言われて、声の大きさを考えればよかったと反省しています。

朝は、全然話せなかったのに、最後は、

「じゃあね。」

「ばいばい。」

とずっと友達だったかのような態度になりました。そして、改めて「町内の同じ学年の人はこんなにいるんだ。」と思いました。

私は、豊平に引っ越してきたから今日のたくさんのお会いがあったのだと思いました。だからきっとこの出会いも「奇跡」なんだと思います。今回の夢プロジェクトに参加して、私はたくさんの人と出会い、とても良かったです。人の出会いは「奇跡」だから、「もっと

たくさんのお会いをして、広い世界を見たい。」という私の夢が1つ増えた最高の日でした。

夢プロジェクトで教わったこと

豊平小学校 前 心音

「3, 2, 1, すごい, 飛んだ。」

みんなで作ったロケットが、予想以上に飛んで驚きました。町内の小学校6年生と一緒に、説明書を見ながら作りました。「こんな部品もあるんだ。この部分はどんな働きをするのだろう。」など、いろいろなことを考えながら作りました。

ロケットが完成すると、今度は、ちゃんと飛んでくれるのか、どんなふうに飛んでいくのかと、ドキドキでいっぱいでした。でも、作ったロケットは、まっすぐに空に飛んでいきました。私の顔も笑顔だったけど、みんなの顔も笑顔いっぱいでもうれしそうでした。

この小さなロケットを作り、飛んでいく姿を見ながら、宇宙まで飛んでいく大きなロケットを作っている方々は、私がドキドキした以上に不安や心配、そして打ち上がったときのうれしさを感じられるのだろうと想像すると、私も大きなロケットが打ち上がる瞬間を目の前で見たいと強く思いました。

また、講演をしてくださった植松さんの話も、とても心に残りました。特に強く心に残っているのは、

「人間は、失敗してもいい。完ぺきな人は誰もいない。いろいろな夢を持って生きてほしい。」

という言葉です。私は、失敗してしまうといけないのではないかと、誰かに怒られるのではないかと、いつも心の中で思ってしまいます。人と違うことをすれば、怒られたり、変だと思われたりするのではないかと、少し弱気になる時もあります。でも、お話を聞いて、完ぺきでなくてもいいんだ、失敗すれば弱気になるけど、何度でも挑戦することが大事だと思いました。もっと胸を張って、失敗しながら、いろいろなことをやってみようと思いました。植松さんの言葉の一つ一つに心をうたれ、勇気がわいてくるような気がしました。

また、

「どうせだめだという言葉は、人をだめにする言葉。」

だと言っておられました。「どうせだめだ」は、本当に悲しい言葉だと思いました。

この夢プロジェクトで学んだ、想像したり感動したりすること、「どうせだめだ」と思わずになんでも挑戦してやってみる事の大切さなどを忘れずに、自分がやってみたいと思ったことは必ず挑戦していこうと決めました。

夢と夢をかなえる喜び

豊平小学校 横谷 彩乃

「一級建築士になりたい。」

そう言い始めたのが、小学校4年生くらいのときでした。今回の夢プロジェクトでは、改めて将来の夢のことを考えることができました。

植松さんは、

「あきらめなければ、夢はかなう可能性があります。」

とおっしゃいました。夢をあきらめたら、もうそこで可能性が「0」になります。こうなりたいと思う自分の夢は、誰かに「無理だ」と言われたからといってあきらめるのは違う

と思います。たとえ言われても、努力し、夢をかなえられるようにすることが大切だなと思いました。

私は、自分の手で作ったロケットが飛んだことが、とてもうれしかったです。そして、安心しました。また、ロケットの飛ぶ高さにとっても驚きました。このことから、自分の作ったものが飛んだり、使われたりする喜びとは、こういうものなんだということが分かりました。

誰かの夢を、それは無理だと言う人がいるかもしれません。でも、その夢をかなえている人は実際にいます。だから、私にもできるかもと、自信を持てばいいと思います。植松さんは、

「いろんな人に夢を話してください。そうすれば、やったことがある人や、やろうと思う人に出会って、夢をかなえることができるかもしれません。」

とも言っておられました。夢をかなえるのは、一人だけでがんばっても難しいです。でも、教えてもらったり協力したりしたら、一人だけではできなかったこともできるかもしれません。いろんな人に頼ってもいいということが分かりました。

また、

「夢はたくさんあっていいんです。」

と植松さんはおっしゃいました。〇〇高校に行きたいや、将来〇〇に住みたいなども夢です。夢はたくさんあったほうが、絶対に楽しいと思います。一つと決めず、夢はたくさん持とうと思いました。そして、かなえるために努力しようと思いました。

私の夢は、最初にも書いたように「一級建築士」です。一級建築士になるのは、とても大変だと分かっています。誰かが無理だということかもしれません。でも、あきらめたら可能性は「0」になります。あきらめずにがんばっていきたいです。今描いている希望の大学に行って、一級建築士になり、たくさんの人を笑顔にできるような安全な家を建てるという夢をかなえたいです。そして、その喜びを感じたい、今そう思っています。

夢プロ ロケット作り

大朝小学校 日高 瑠香

「こんにちは」

10月17日、私は、千代田運動公園で6年生の夢プロジェクトでロケット作りと打ち上げをしました。不安でいっぱいだったけど、知らない友達と話すことができたからとても楽しかったです。

まず、はじめに、植松さんという北海道でロケットを作っている方のお話を聞きました。私も宇宙が好きなので最後まで集中して話を聞くことができました。植松さんのお話はとてもおもしろくて映像もあったからとても分かりやすかったです。植松さんは将来の定まった夢をもっていなくてもいろいろな夢をもっていた方がいいとおっしゃっていました。私は将来に向けて夢をたくさん持っておこうと思いました。

また、はじめは人の可能性をうばうとおっしゃっていました。私は人の可能性をうばってしまういじめをしたり、いじめを見てみぬふりをしたりしないようにしようと決心しました。

植松さんのお話が終わった後にロケット作りをしました。ロケット作りをする前はとても不安だったけど、周りの子が同じゲームを持っている、趣味のあう人たちだったから話をしていてとても楽しかったです。お互いに作り方の分からないところを教えあいながらロケット作りをしました。私が作り方を教えてあげたとき

「ありがとう。」

と言ってくれたからとてもうれしかったです。やさしい友達ができたとおもいました。

私のロケットの色やがらは、好きな You Tuber の色やがらにしました。つつに絵を描くのが難しかったけど、私は絵を描くことが好きだから、とても楽しかったです。

ロケットに絵を描いたあとはお弁当を食べました。お弁当を食べているときに、いろんな人がロケットがちゃんとできているか確認してくれました。飛ばないロケットがないようにしてくれていたからやさしいなと思いました。

お弁当のあと、ロケットを飛ばしました。陸上記録会をしたところにおいて自分の作ったロケットに火薬を入れて、発射台に置き、ロケットを飛ばしました。ロケットは想像以上に高く飛んだので、びっくりしました。私たちが使った火薬は「Aタイプ」だそうで、ほかにも威力の強い種類の火薬がたくさんありました。植松さんが「Aタイプ」より威力の強い「Bタイプ」を使って見せてくれました。「Aタイプ」よりとても高く飛んでびっくりしました。

私はこの1日でたくさんのお話を勉強することができました。他の小学校の子とも仲良くなれました。植松さんが「こんな体験ができる人はなかなかいないよ」とおっしゃっていたので、いつか誰かに自慢したいなと思いました。

夢プロジェクト 良い体験

大朝小学校 白砂 歩乃佳

「大朝小の白砂 歩乃佳です。よろしくお願ひします。」

10月17日水曜日、千代田運動公園体育館にて夢プロジェクト「夢と希望を乗せてロケットを飛ばそう」が行われた。私たちは開会式を行った場所のとなりたくさん机が並んだところでロケット作りを始めた。私は緊張と、誰かと仲良くなりたいという思いがどんどん強くなり、手に汗をかいてしまっていた。

「ねえ、ねえ、これってどう？私がやっているのであってる？」

と周りの子に声をかけると、

「うーんと、これはこれはこうで、こうだよ。はいできたよ！」

と、説明書を指でさしながら、説明してくれた。とてもうれしかった。お礼を言った後、またみんなと作業をした。やがて、ロケットが完成。作り終わってみると、喜びが心の中にわきあがってきた。

お昼ごはんを食べ終わり、完成したロケットを持ち、外へ移動した。植松さんが言っていたことを思い出す。

「ロケットを飛ばす前は、不安な気持ちがあり、飛んで成功すると喜びがやってくる。」私は、まだロケットを飛ばす前だから、少し不安だけど、飛び終わると、喜びがくるのかなと楽しみにしていた。そんなことを考えているともう私の番がやってきた。

「よろしくお願ひします。」

と、ロケットを係りの人に手渡した。「ドキドキ」。私の心臓の音がとなりの人に聞こえそうなぐらい緊張していた。

「3, 2, 1。発射！」

とみんなで言ったのと同時にボタンをおした。

「ヒュー。」

という音と同時に大勢の人たちが、

「おお～。すごい！」

と言った。そして、私は、ゆっくりロケットの方を見つめ、そのあとひたすら走った。この時、私は夢と希望がだれかのもとへ、届いたと思った。私は「ありがとうございました。」と小さくつぶやいた。

夢プロジェクト「夢と希望を乗せてロケットを飛ばそう」。夢を改めて考え直せる良い機会になったと思う。植松さんの話を聞いて、夢と希望を持つことができた振り返りの作文を書いている、今、改めて、それを強く感じた。

心に残った言葉

本地小学校 中島 迅斗

ぼくは、今回、植松先生のお話を聞いて、一番心に残ったのは、「失敗は、だれにでもある。失敗がないと、先に進めない。」という言葉です。ぼくの今までの考えからすると、失敗が良いことだとは、全く思っていませんでした。しかし、お話を聞くと、失敗してこそ、新しいことに挑戦できるのだということに気付きました。そして、人間はだれでも失敗をするので、失敗を恐れずにどんどん新しいことに挑戦していけばいいということをお話していただいたのだと思います。

他にも、「失敗に罰をあたえてはいけません。」という言葉も心に残りました。ぼくは野球のクラブに入って、野球をしているのですが、他の人がエラーしてしまったときに、「何やっとなん。」と責めてしまう気持ちをもっていることがあります。今回のお話を聞いて、人間、だれにでも失敗があるのだということを受け入れて、「なんで。」と責める気持ちをこらえて、「大丈夫。」「もっとこうしたらいいよ。」というアドバイスが言えるようになったらいいと思いました。

それから、ロケット製作や打ち上げを通して学びがありました。ロケット製作では、組み立て方がわからないときに、他校の人に自分から話しかけて聞くことができました。今までに話しかけたことが無い人とも話すことができたことがうれしかったです。ロケットの打ち上げの時には、約1時間かけて作ったロケットが空に上がる瞬間、とてもドキドキしました。打ちあがったと思ったら、すぐに空の上にロケットがあって「これが時速200キロメートルの速さなんだな。」と実感しました。時速200キロメートルの速さなんて実感することがなかったので、速さを実感できたことが学びだと思いました。

今回のふるさと夢プロジェクトを通して、ふるさとへのよさや魅力を知るだけでなく、他校との交流と「夢をもつ」ことの大切さを知りました。失敗してもよいと思えたこともとても学びになったと思います。失敗してしまってもネガティブになるのではなく、常にプラス思考で考えていきたいと思っています。本当に中身の濃い内容で、貴重な体験ができたと思いました。

植松先生の魔法の言葉

本地小学校 西原 大斗

ぼくがふるさと夢プロジェクトを通して思ったことが三つあります。

まず、講演会で聞いたことです。ぼくは以前、植松先生の講演会を聞いたことがあり、二度目に聞いたのですが、それでも、ぼくの心には深くたくさんの言葉が残りました。特に心に残ったのは、「どうせ無理。」という言葉がだめだということです。ぼくは、いつもできなさそうだなと思ったことに「どうせ無理」とすぐに言ってしまいます。植松先生の

お話を聞いて、「どうせ無理。」という言葉は、可能性を無くすことを知りました。できないと思ったことでも、あきらめなければ可能性はあるということが分かりました。これからは、「どうせ無理。」という言葉を使わず、可能性を自分で無くすことをしないようにしたいです。植松先生の言葉は、魔法のような言葉だなと思いました。

次にロケット製作も心に残りました。ロケットを作る前は、とても難しそうで、そんなに簡単にできるのかと不安に思いました。しかし、ロケット製作をしていると、ほとんどが順調に進みました。唯一、パラシュートとそれにつけるゴムをたたむ作業が難しかったです。何とか楽しく作ることができました。

そして、ロケットの打ち上げでは、打ち上げる前に「自分のロケットはちゃんと飛ぶのだろうか。」「パラシュートは開くだろうか。」ととても不安でしたが、一気に高く上がり、パラシュートもきちんと開いたのですごく安心しました。その後で、もっと強い火薬を使ったロケットは、さらに高く上がり、ものすごく速く上がっていたので、とても興奮しました。青空にロケットが飛ぶ姿はこれからも忘れません。

最後に自分の夢についても考えました。ぼくは植松先生の話を書く前には、「夢とは子どもの時からなりたいたいという思いをもち、一生懸命にがんばり通してかなえること。」が夢だと考えていました。しかし、今回の植松先生の話やロケットの体験を通して、夢についての考えが変わりました。それは、先生や友達にたとえ否定されたとしても、自分自身が楽しんで、がんばりながらかなえていくものが夢なのだと気づきました。

僕はいつかプロ野球選手になるのが夢だったのですが、もう一つ、沖縄かローマに住むという夢も持っています。特にローマに住みたいと思っています。ローマにはオリンピックについて実際に見学してみたいと思っています。そして、気候もおだやかなのではないかなと思ったからです。これからぼくもこの夢に向かっていろいろなことを楽しみながら、がんばっていきたいと思います。

今言った夢は、植松先生がおっしゃったように、たとえ先生に言われたとしても、やったことのない人の言うことばかりを聴く必要は無く、自分の信じる道を進んでいきたいと思っています。

ふるさと夢プロジェクトを通して

本地小学校 河内 心美

ふるさと夢プロジェクトを通して、学んだことやこれからがんばっていききたいことがあります。

植松先生のお話を聞いたことで、たくさんの学びがありました。お話を聞いて、私は自分に自信がもてました。私が特に心に残った言葉は、「ダメな人間はいない。」です。今まで私は失敗したら、「私はダメだ。」と思ったことが何度もありました。しかし、この言葉を知って、「いくら失敗したとしても、世の中にダメな人はいない。だから、あきらめずにがんばろう。」と思いました。この言葉は、私がこれから夢に向かって突き進むときに大切な言葉だろうと思います。

私の将来の夢は、シェフになることです。私は夢についてだれにも詳しく話したことがありません。それは、周りからどう思われるか、言われるか不安だったからです。「たくさん勉強しないとイケないんじゃない。」「食べ物にくわしくないといけないんじゃない。」と言われそうで、少し怖かったです。しかし、植松先生のお話を聞いて、「今のうちからがんばろう。」と思いました。できないと思わず、どうやったらできるか考え、今までにないことをやってみることで、新しいことを学んでいく。このような考え方ができるようになっ

てきました。夢について自信がもてるようになってきたのです。これも植松先生のおかげです。

次にロケット製作です。私のグループでは、皆、口数が少なく、隣の人が一生懸命話そうとしていたけど、私は勇気が出ず、みんなだまりこんでいました。このとき、自分から学校名や名前を言っていればよかったかなと思いました。少しはにぎわっていたかなと思います。隣の人が「ここ、どうするの。」と聞いて説明するとき少しだけ話をしました。今思うと、その時にもっと話せばよかったです。積極的に自分から話しかけるのはとても難しいことです。今までの私の作文や報告書を思い出してみても、やはり毎回このように話せばよかったという内容が多いです。次から「がんばろう。」と思っても、なかなかできません。しかし、いつまでも同じことを繰り返しても、また後悔するだけです。次の交流の時には、勇気を出してがんばろうと思います。

最後のロケット発射ですが、私は自分が作ったロケットがちゃんと飛ぶのかと不安でした。そもそも自分の手で作ったロケットを自分の手で飛ばすということ自体が驚きでした。だから、実際に飛ばしたとき、とても喜びにあふれました。素直にすごいと感動しました。成功して本当によかったです。おかげで、ロケットについて全く関心が無かったけれど、すごく興味をもちました。マーブルチョコレートの筒でもできるということを知って、「身近なものでもすごいものが作れるんだ。」と思いました。工夫をして作るということは、とてもすごいことなのだと思いました。

ふるさと夢プロジェクトを通して、みんなとの協力、工夫すること、そして、何があってもあきらめないことの大切さを実感しました。今までの活動で学んだことをこれから夢に向かって進んでいくときに活かしていきたいです。

「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を振り返って

北広島町内小学校

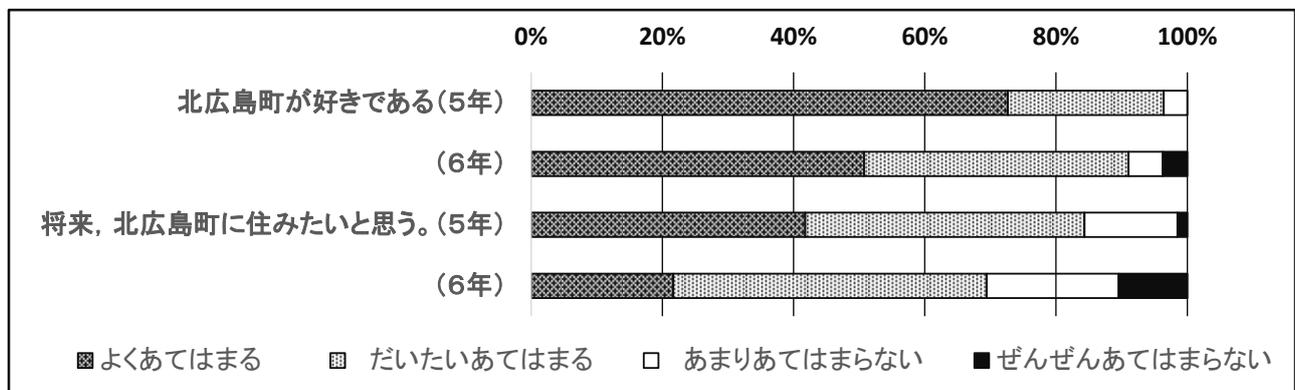
「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」をめざして実施している『北広島ふるさと夢プロジェクト事業』の4年目を終えた。

事業として、今年度は、5年生の『民泊体験』～北広島のよさを満喫しよう～、6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」を実施した。5年の事業は3年、6年の事業は4年継続しており、町教育委員会・関係諸団体と連携した運営を円滑にすることができるようになってきている。ただし、5年の『民泊体験』の事業については、悪天候や猛暑のために予定通りの活動ができていない学校があった。

参加児童・学校職員の実施後のアンケート等を分析すると、全体的には、「子どもに町の魅力を再認識させることができ“ふるさと”への愛着心を育てたり、将来『北広島町に住みたい、北広島町のために貢献したい』という思いや考えを育てたりすることに効果的であった」と言える結果が出ている。

それぞれの事業に参加した児童のアンケート結果、作文については前述した通りである。学校を越えた人間関係づくりやふるさと北広島町・自分の生き方について考えを深めた様子が伺える。

【ふるさと(北広島町)への愛着心等に係る「アンケート結果」について】



「北広島町が好きである」の問いに対しては、5年生が約96%、6年生が約91%、肯定的な回答をしている。「将来、北広島町に住みたい」の問いに対しては、5年生が約84%、6年生が約69%、肯定的な回答をしている。肯定的な評価が高いことは、各学校のふるさと学習の充実に加えて、本事業が一定の成果を上げていることの裏づけと言える。企画・予算立てをしてくださった北広島町・北広島町教育委員会、町内関係諸団体・関係者に感謝をしたい。

事業実施後に、まとめた成果と改善点等については、次のとおりである。学習指導要領改訂に伴い、授業時間の確保、教育内容の精選・見直し等を行っている中、「北広島ふるさと夢プロジェクト」のあり方について検討をすることが求められる。

活動内容の見直し、効率的な運営等を図っていくことは必要であるが、北広島町の最重要施策の一つである若者定住施策と連動した「北広島ふるさと夢プロジェクト」、各学校における「ふるさと・キャリア」の来年度以降の充実が、更に望まれる。

プロジェクト全体に関わって (成果)

- プログラムの内容や実施学年は変わりつつも、「夢プロジェクト」として続けてきたことに意味があると思う。便りや町広報を通じて町民に広く知っていただけていると思う。
- 教育委員会(夢プロ担当)、各校の協力により、各プロジェクト推進のための動きが明確になってきている。大きくメンバーが変わらないことは事業継続の大切な要素だと言える。
- 町内の同学年の児童の交流の場とするとともに、北広島町に愛着を持てる活動(民泊)、将来を考

- えるきっかけとなる活動（ロケット）として、5・6年生の時期にふさわしいバランスの取れた活動が仕組まれている。その成果として、子ども達の成長に良い刺激が与えられていると感じる。
- 町をあげての取組なので、単独校では経験できにくい体験活動により、北広島町の良さを実感する取組となっている。
 - 子どもにとって、楽しみな行事の一つになっている。様々な人との関わり・体験を通して学んだり成長したりすることが多い。
 - 1年ではなく何年にもわたって、町内の同学年の児童が交流できる良い機会となっている。
 - 民泊やロケットの製作・発表など、普段の生活ではできない体験ができて児童の心に残る活動になっており、社会性を育てたり将来の生き方について考えさせたりすることができる。
 - 他校の児童との交流により、自分や友達・学校・学級の良さ等を再認識することができた。
 - 町内の同学年の児童の交流が2年間（5年・6年）継続してできる。また、児童が一堂に会して、協働活動をすることは、「ふるさと北広島」の意識付けや学校・ブロックの枠を越えた仲間づくりにつながり、小学校卒業後の中学校や地域での生活に良い効果がある。
 - 「北広島」ということを意識した取組は、子ども達に必ず「ふるさと」の良さを感じることに繋がると思う。
 - 取組が続くことで、児童や保護者、職員が事業の見通しをもつことができるとともに、次の学年が次の年を楽しみにしている。
 - たくさんの方の協力で、いろいろな体験や経験ができることに感謝している。
 - 6年生の活動では、一つの学校では招聘することができない有名な講師のお話を聞くことができ、キャリア教育や生徒指導に繋がる子どもの夢や一人一人の存在のすばらしさについてのお話を聞くことができた。これからの児童の励みになり、また、未来にむけて夢を膨らませることができる。
 - 5年生の活動では、地域の民泊家庭にお世話になり、自然体験やお手伝い体験など、日常ではできない体験をさせていただくことができた。同じ北広島町に住んでいても、忙しい日々の生活の中では、自然の中でゆっくり遊ばせたり、子どもと一緒に家事をしたり遊んだりすることができにくいので、このような様々な体験をさせていただくことは、豊かな心や生きる力の育成につながる。
 - 各校の「ふるさと学習」を中心に教育内容として地域のすばらしさに目を向け、ふるさとを愛する児童生徒を育成するという趣旨やそれについて取組を推進していく意義は大切なものである。
 - 民泊や地域めぐりなど、地域の人・物や文化・自然に多面的にふれる体験は、この地で生活する自分のアイデンティティを確立するうえで重要な要素だと思う。このプロジェクトにより地域にあっての自分の位置を確認する児童は多くおり、その観点で成果を挙げていると評価できる。
 - 町内の同学年児童間の協力を必要とする交流ができることは、特に小規模校の児童にとっては視野の広がりや繋がりを感じる良い機会であると思う。
 - ロケット作り・植松さんの講演会等、他の市町や、単独の学校では実施が難しい活動を行ってきたことにより、北広島だからこそ経験できるという、地域への感謝や誇りの気持ちが育ってきた。
 - 「本物」に直にふれることができ、教室ではできない体験や経験は児童にとって大きな財産となると考える。伝統や文化、各分野等において、造詣の深い人に学ぶことは、理屈抜きで児童の心に響き、自己を見つめ、自己の生き方を考える機会となった。
 - 4年継続した結果、保護者や地域の方にもこの取組はよく知られており、概ね理解は得られているように思う。
 - 町内の全学校が同じ目的で取り組むこと自体に大きな意義がある。
 - 子ども達は、北広島町の良さを実感したり再発見したりして、ふるさとに対する愛着や誇りは高まってきていると感じる。

【反省・改善点等】

- 打ち合わせや諸準備・活動内容を工夫して、職員の負担をより軽減することを考えると良い。
- 活動に主体的に取り組むために、そして体験したことを生かすために、事前に目標をしっかりと持たせ、事後にその検証をさせることが必要である。学んだことを生かす日常的な指導を継続していかなければならない。
- 町財政が厳しいだけに成果を求められるところかもしれないが、「夢プロジェクト」の名の下で事業が継続することで、事業の意味もより価値を増してくると考える。事業の継続を望む。
- 5年生の長期の宿泊体験については、学校の行事等の関係で、厳しい中実施している状況があるので、各校の行事の精査を進める必要がある。
- アンケートの項目「将来北広島町に住みたい」について、「北広島町で学んでよかった」「北広島町の将来に自分も貢献したい」等についても、関連した質問項目を設定しても良い。
- 昨年度までの4年の町内めぐりは、自校の周辺だけでなく、北広島町の良さを体感する上で、大変有意義であったと考える。是非復活をさせてほしい。
- 予算によって活動が縮小や変更されることは、やむを得ないことであるが、できれば毎年、今年の活動はどうなるのだろうと不安に思ったりすることのないように、一定年度のスパンで計画が立てられると更に良い。
- 新学習指導要領全面実施にむけて、学校（担任等）の負担等、現行学習指導要領下における学校の状況と異なる課題が出てくることも考えられる。学校は、さらにカリキュラムマネジメントでの充実を図り、教育内容を整理する必要があると考える。
- 各校の大きな行事や学期末の忙しい時期と重ならないように活動時期を決めていきたい。
- 複式学級のある学校もあるので、引率職員や担任の負担感を考え、なるべく無理のない時期や活動内容を考えていく必要がある。
- 報告書を作成することは良いが、担当職員の負担軽減を考えて、可能などころで簡潔化すると良い。

学年ごとの事業の振り返り（学校より）

【5年生の「『民泊体験』～北広島のよさを満喫しよう～」について】

- 他校の児童や民泊家庭の方と交流することで、人間関係が広がったりいろいろな人との関わり方を学んだりすることができた。
- 民泊家庭へ2泊することで、同じ田舎で暮らしていても、ふだん体験できないいろいろな体験をすることができた。児童にとって新鮮な活動となった。
- 町内の自然について学んだり北広島町ならではの体験をしたりすることが、北広島町の良さを知る良い機会となっていた。
- 今回の八幡の散策は教育委員会の全面的なサポートのもと、教員主体でプログラム作りを行うことができたことが成果だと思う。
- 苦勞することもあったが、達成感の方が大きく、今後の自分自身の資質能力の向上にも繋がったと思う。
- 町内の子ども達と関わることができ、児童の思わぬ良さを発見することができる場であった。限られた人間関係の中で生活することの多い小規模校には適したプログラムだと思う。
- 芸北地区に宿泊したが、子ども達は民泊家庭の方々の温かいおもてなしに肌で触れたり、貴重な体験活動をさせていただいたりして、いい思い出ができていた。事後のアンケートでも、児童だけでなく保護者も肯定的な評価をしていた。
- 他校の児童と進んで交流できた。今年度は、ガイドさんの説明を聞く活動から、子ども達が各グ

ループで話し合ったり考えたりしながら活動をする機会を設けたことにより、交流が昨年度と比べて充実した。

- 日帰りで行う見学や体験活動ではできない体験や地域の方とのふれあいができるところが良い。
- 自分の家との違いを感じることで、改めて家族のありがたさを感じる取組になっている。
- 同じ北広島という場所で味わえる体験（八幡ウォークラリーやヤマメのつかみ取り等）に普段感じられないドキドキ感を味わい、価値があると思う。
- 様々な体験ができることで、経験値をあげることができ、その後の活動に生かされている。
- 民泊家庭の方との交流で、人間関係を深める事ができ、大きな思い出になっており、活動後もつながり続けている児童もいる。
- 他校の児童とともに活動することで、つながりを深め、他の行事などを通じても交流することができている。
- 親元を離れて3泊4日という子どもにとっては長い宿泊体験活動は、いろいろな体験を通して自立を促したり、今の自分を振り返らせたりという意味でとても有意義なことである。民家に宿泊しての体験活動はふるさと北広島を再発見する良い機会になっている。
- 親元を離れ、慣れない場所で生活することで、新しい発見や感動、物事に立ち向かう勇気、感謝する気持ち等が生まれていた。
- 他校の人と交わり、その場で自分の考えを伝え、友達の考えに耳を傾け、協力して活動に取り組んでいる様子が見受けられた。
- 民泊家庭の方々との交流により、感謝の心と町内への愛着が深まった。
- 普段は困った時、自ら助けを求めることが苦手な児童も、何とかして助けを求めている様子が見られた。
- 他校との交流を通して親睦を深められました。地域の良さを再発見でき、愛着ももつことができた。
- 大暮養魚場での体験は、「命」の学習・食育の面でとても良い活動だと感じている。目を背けることなく「命」と向き合うことができる活動である。
- 児童の自立心（自律心）が向上する取組になっている。とりわけ、普段消極性の目立つ児童が、積極的な動きを見せ、事後指導に繋げることができた。
- 民泊家庭での様々な体験は子ども達にとって貴重である。受入家庭の方々の温かさは、子ども達に強い感動となって残っている。
- 子ども達の北広島町に対する郷土愛や将来この町に住みたいという思いが、高まってきている。（子ども達と保護者との感じ方にずれはあるものの）

【反省・改善点】

- 民泊を含む宿泊体験活動は、良い取組であるが、打ち合わせや諸準備・活動内容を工夫して、職員の負担をより軽減することを考えると良い。
- 活動に主体的に取り組むために、そして体験したことを生かすために、事前に目標をしっかりと持たせ、事後にその検証をさせることが必要である。学んだことを生かす日常的な指導を継続していかなければならない。
- 年々充実した体験学習になってきていると思うが、見方を変えると形骸化してしまっている体験活動もあるように思うので、2年サイクルで、民泊と自然の家泊等と変えていくなど工夫を考えていっても良い。
- 民泊体験の日程や活動について、複式学級の学校もあるので、引率体制や職員の負担を考え、なるべく無理のない時期に実施したり活動内容を考えたりしていく必要がある。6年生に対する対応が難しい。学校泊をやめて民泊だけの2泊3日にすること等も考える必要がある。
- 北広島町から出ることで気づく街の良さもあると思う。海での活動、特に、江田島も良いかと思う。学校泊をやめて2泊にすることも考えると良い。
- 町内での活動をする良さもあるが、民泊家庭ごとの活動は異なるため、共通の忘れられない体験

という部分が、やや弱くなっていると思う。

- 民泊家庭により、体験内容等に差があるので、事前の連携や確認を丁寧にして、大きな差異が生じないようにしていく必要がある。
- 宿泊体験活動に他校の児童との交流というねらいが重なることで、準備や当日の運営などの学校職員の負担が多い。特に5年担任の負担は大きい。
- 町内の学校間の児童交流を目的の一つとするなら、芸北・豊平・千代田・大朝のブロック内の小学校をなるべく合わせて実施したほうが良いのではないかと。
- 宿泊体験活動の実施後には町独自のアンケートを実施しているが、県教委でも事前・事後に数回のアンケートを同様に実施している。アンケートのとり方について、考えていく必要がある。
- 開催時期を考えていく必要がある。今年、Aグループは、大雨の為、昨年度は2日目以降が延期、今年度は1日目が中止、4日目も実質活動なしとなった。
- 雨や台風などの場合に備えた具体的な活動をあらかじめ考えておく方が良い。7月という時期は、大雨や猛暑等、天候における心配がある。
- 学校泊の時に、防災教育をした学校があり、児童が多く学びを得ることができた。毎年防災教育をお願いできるとありがたい。
- 今年度はAグループは実施できなかったが、あまごのつかみどりのような自分でつかまえて、さばいて焼いて食べるという体験は是非継続してほしい。命の大切さも感じることができる。
- 雨天でも文化ホール内のできるプログラムを考えると良い。
- 5年の事業は、天候に大きく左右されるため、万が一雨天の場合でも可能となるプログラム（例えば、ものづくりやカプラのようなこと）を複数考えておく必要がある。

【6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」について】

- 講演の植松先生の夢と希望を持った生き方、人（生命）を大切にすること、職業に対する考え方などの話は、子どもにとってもわかりやすく感銘を受けた児童が多くいた。
- ロケットを製作し発射させる活動は、科学・宇宙・物づくりに興味関心をもたせ、子どもにインパクトを与えるものになっている。他校の児童と協力して活動することで、人間関係の輪を広げることができている。
- 植松さんの話は6年生の児童にとって、将来のことを考える上でとても参考になる話であるので、今後の6年生にも聞かせてやりたいと思う。
- 自分で作ったロケットを飛ばせるということで、なかなか体験できないことを体験でき興味を持って活動できるものである。
- 植松さんの話がとても分かりやすく、自分の体験や思いと重ね合わせながら聴くことができた。（安心したり夢や希望を持ったりした児童が多かった。）
- 自分が作ったロケットが、目の前で空高く飛ぶのを体験できたことに、感動があった。
- 講師の方には、子ども達の心に響く話をしてくださり、貴重な経験をさせてもらっている。子ども達に、きっと宝物になる言葉が残っていると思う。
- 「ロケットを飛ばした」という貴重な体験は忘れずに思い出に残ると思う。
- 植松さんの実体験を含めたお話は、子ども達の将来にとって貴重なものになっている。
- 実際に自分が作ったロケットを飛ばせる体験は、いい体験になっている。
- 植松さんの話やロケットを飛ばした体験が、後の学校生活に生かされている。
- 会の流れがきちんとしていて、感動的な講演と合わせて有意義な取組となっている。講演の内容については、子ども達が自分を見つめ直し、夢を持って生活していくことの大切さを実感している。
- 子ども達は初対面の友達とテーブルを囲み、初めはそれぞれ緊張した中でロケット作りをしていたが、次第に打ち解け学校の枠を越えて協力してロケットを完成させた。

- ロケットを自分の手で飛ばすということは、極めてレアで貴重な体験であり、子ども達の表情も生き生きと輝いていた。
- 講演も活動も、「夢」を持つことに繋がり、いずれ社会に出る子ども達にとって、心に残る貴重で有意義な経験だったと思う。
- 植松さんの話は、分かりやすく、学びがたくさんあった。6年生という学年段階にとって、将来の夢が具体となった児童も多く、非常に貴重な時間となった。
- ロケット作りで他校と一緒にグループにしたことで、話ができなかった児童にとっては自信をつける場となった。
- 植松努先生の講演内容に大きな感銘を受ける子ども達が多い。夢をもつことの大切さを痛感したり自己肯定感を高めたりすることに繋がっている。キャリア教育の視点からも大きな教育効果があると思う。
- 講演を聴いてロケットを製作して実際に飛ばすという一連の流れがとても良い。子ども達の多くがこのプロジェクトを大変楽しみにしている。

【反省・改善点】

- 単なる体験活動に終わらせることなく、事後の指導をしっかりとし、以後の生き方を深めることに繋げていく必要がある。
- 6年生の取組を期待している低学年の児童がいる。今後でもできるだけ続くプログラムであってほしい。
- 6年生のプログラムは、特に印象に残っている児童が多い。町内中学校生徒に追跡調査することで、プログラムの有用性を確認できたと思う。
- 毎年、同じ体験なので、形骸化されてきたように感じる。夢や希望を持つことや努力することをねらうのであれば、北広島町出身（広島県）等、身近な他の講師の話でも良いと思う。
- 各学校の6年生が一堂に集まることは交流ができ、良いことだと思うが、個人のロケット作りは交流が少ないので、自分達が声を掛け合い協力し合って作り上げる作品づくりなども良いと思う。
- ロケットが飛ぶことのすごさや苦勞が、キットの組み立てだけでは十分感じられないように思う。
- テーブルでの自己紹介や心ほぐしの活動を意図的に入れることで、他校の児童と交流が深まると思う。
- ロケットの製作過程で他校の児童との交流場面があるが、もう少し交流する場面が増やせば良い。
- 高名な方に講演してもらうため、ふるさと夢プロの予算面での圧迫が心配である。夢プロ全体の予算枠を考えて、4年の町内めぐりに回すこともしてみてもどうか。6年の事業を他のことにするというのも考えて良い。
- 植松さんの講演の時は、希望する子どもにはメモ帳を持たせるなどして、心に響く言葉を書いて残すことができると良いと思った。
- 目的に「児童間の親睦を図る」とあるが、ロケット製作が「個人作業」のみになっている児童が多かったと思う。限られた時間設定ということもあり、難しいかもしれないが、交流をさせるための工夫(アイスブレイクの活動を最初の5分でも入れる)等、何らかの工夫が必要かと考える。

お わ り に

ふるさと夢プロジェクトが始動して4年、私の元に嬉しい知らせが届きました。豊平中学校のそば打ちクラブで活躍していた生徒が、町内のそば打ち施設に就職することが決まったということです。これはまさにふるさと夢プロジェクトが目指す、北広島町に帰って貢献したいと思う子どもの育成が成果となったものと受け止めています。

しかし、喜んでばかりではられません。成果が見えにくいのが教育だからです。私たちはこれを契機としてさらに、町として子どものためにできることは何かを考え続ける必要があります。そうすれば、10年後、20年後に子供達が「ふるさと」として北広島町に想いを馳せ、この町で育ったことを誇りに思ってくれるでしょう。

一方で、改善点も見えてきました。今年度の町内民泊は、豪雨や猛暑の影響で予定していたプログラムの中止や変更を余儀なくされました。全国的に見ても各地で災害が発生し、多くの人の命が奪われている状況の中で、子供の安全を第一に考え、民泊の実施時期見直しを検討しています。併せて、防災意識を高める教育も必要ということも認識しました。自分の命を自分で守ることのできる人を育てることが、北広島町とそれを担う若者の将来を守ることに繋がると考えるからです。本当の意味で「ふるさと北広島町」を守ることのできる力を育みます。

急速な社会の変化により、近い将来でさえ予測できない時代を迎えています。これに対応するのは、地域資源の価値を学び、自分の育ったふるさとに誇りをもった人材です。ふるさとを思う人が地域に多くいることにより、北広島島の未来を創る原動力となって、変化する社会情勢に対応できるものと考えます。社会の中でも活力を醸成し、持続可能な力を創ります。北広島町の未来への懸け橋となれるのは北広島町で育つ子供なのです。

平成31年2月

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊
副隊長 池田 庄 策
(北広島町教育委員会教育長)